

(第七號書式ノ甲) (用紙美濃ニツ切)

取消通知書

某年度何處所管第何號

仕拂命令(仕拂請求書)金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令(仕拂請求書)又ハ「集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號」ニ係ル第何號通知書金何程何某宛

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符金何程何之誰渡

右ハ明治何年何月何日仕拂停止及通知留候處申渡該仕拂命令(仕拂請求書、通知書、現金引出切符)取消候ニ付「右ニ係ル案内仕拂命令(案内仕拂請求書、案内引出切符、仕拂命令、送金ノ返付)返付相成度」又ハ「右ニ對スル集合仕拂命令ノ金額何程ニ更正シ金額氏名表中第何號ヲ取消ス」此段通知候也

年 月 日

仕拂命令官 官氏名印

出納官吏 官氏名印

何地金庫宛

(第七號書式ノ乙) (用紙美濃ニツ切)

取消通知書

某年度何處所管第何號

仕拂命令(仕拂請求書)金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令(仕拂請求書)又ハ「集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表、第何號」ニ係ル第何號通知書金何程何某宛

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符金何程何之誰渡

右ニ對シ仕拂フヘキ金額ハ明治二十六年勅令第二百六十一號第六條ニ據リ供託セリ依テ該ニ交付セシ前記仕拂命令(仕拂請求

普通通知書現金引出切符)ヲ取消ス此段通知候也

年 月 日

仕拂命令官 官氏名印

出納官吏 官氏名印

何某宛

○内務省令第一號

消防組規則施行概則左ノ通之ヲ定ム

明治二十七年二月十日

内務大臣 伯耆井上 馨

消防組規則施行概則

第一條 消防組並部ニハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ一定ノ名稱ヲ附スヘシ

第二條 府縣知事(東京府ハ警視總監、北海道ハ必要アリト認ムルトキハ消防組若クハ部ニ事務所ヲ設クルコトヲ得、其設置、備品及執務章程等ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ)

第三條 消防組若クハ部ハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ一定ノ人員ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

第四條 消防手ハ年齢滿十八年以上ノ男子ニシテ平素行爲粗暴ニ涉ラス身體強壯ナル者ヲ選フヘシ

但組頭及小頭ハ消防手ノ中ヨリ選抜ス

第五條 前條組頭小頭及消防手ノ採用ニ關シ規定ヲ設クルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

ヘシ

第六條 左ニ掲クル者ハ消防手トナルコトヲ得ス

一 公權褫奪若クハ停止中ノ者

二 禁治産中ノ者

三 公費ヲ以テ救助中ノ者

四 懲戒處分ニ依リ消防手ノ職務ヲ免セラレ滿三年ヲ經過セサル者

第七條 消防組員在職中前條各號ノ一ニ觸ル、者アルトキハ直チニ其職ヲ免スヘシ

第八條 前條ニ掲載セルモノヲ除クノ外尙ホ消防組員ノ命免及辭職ノ手續等ニ關シテ規定ヲ設ルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 水災災ノ信號及信號擔當者等ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 消防組規則第七條ノ場合ニ於テ消防組ヲシテ機敏ニ相應援セシムルノ規定ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 消防組員ヲシテ參集又ハ現場へ出張ノ途中ハ勿論平常アリトモ他人へ對シ強迫カマシキ所爲又ハ粗暴ノ舉動ヲ爲サシメサル爲メ細則ヲ定ムヘシ

第十二條 消防組ハ期ヲ定メ演習ヲ爲スヘシ其方法等ハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 細則ノ定ムル所ニ從ヒ建物ヲ造設若クハ修繕スルノ必要アルトキハ警察署長ハ警察署長ノ指揮ヲ受ケ市參事會町村長ニ移牒シテ之ヲ爲サシムヘシ

第十四條 消防器具ノ種類、備置場保存ノ方法等ハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 組頭ハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ器具ノ現況ヲ市參事會町村長ニ報告スヘシ

第十六條 消防組ニハ組員名簿及消防器具目錄ヲ備置クヘシ

第十七條 地方ノ狀況ニ依リ消防組員ニ被服並月手當、出場手當、傷痍手當等ヲ給與スルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十八條 警部長ハ少クトモ毎年一回警察署長ハ少クトモ毎三月一回消防組ヲ巡檢シ紀律ノ保持器具ノ完備等ヲ監査スヘシ

第十九條 懲戒ハ情況ノ輕重ニ從ヒ解職、停職、停給(月手當アル)及譴責トス

第二十條 停職ハ一年ヲ超エルコトヲ得ス又停給ハ三箇月分ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 懲戒處分ノ手續ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十二條 此概則ニ於テ市町村ト稱スルハ北海道ノ區ヲ包含スルモノトス

市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此概則ニ規定シタル市參事會町村長ノ職務及關係ハ區長又ハ戸長ニ屬スルモノトス

○文部省令第三號

市町村立小學校廢止ノ際其ノ小學校教員ノ職ニ在ル者即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セラルトキハ勸續者トス

明治二十七年二月十日

文部大臣井上毅

○農商務省令第五號

營林主事補及森林監守特別任用規則左ノ通相定ム

明治二十七年二月十二日

農商務大臣子爵榎木武揚

營林主事補及森林監守特別任用規則

第一條 明治二十六年勅令第九十四號營林主事補及森林監守任用令ニ據リ營林主事補及森林監守ニ選任スヘキ必要アルトキハ第二十二條ニ掲クル者ヲ除クノ外左ノ科目ニ就キ試験ヲ行フ

一 現行法令講述(刑事及林務ニ關スルモノ)

二 作文(片假名交リ文及往復文)

三 筆算(算數學全部)

四 珠算(加減乘除)

五 筆寫(楷行)

六 簿記

- 七 寫圖
- 八 代數
- 九 幾何
- 十 測量

但第二科目中片假名交リ文及第三科目ハ森林監守受験者ニ之ヲ省キ第六以下ノ科目ハ特別ノ必要アルトキ又ハ受験者ノ望ニ依リ受験者ヲシテ其内ニ就キ一若クハ二以上ヲ撰擇セシメ之ヲ試験ス

第二條 年齢滿二十年以上滿四十年以下ノ男子ニシテ身體健全ナルモノハ前條ノ試験ヲ受クルコトヲ得但左ノ諸項ノ一ニ該當スルモノハ此限ニアラス

- 一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニアラス
- 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
- 三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辦償ヲ終ヘサル者

第三條 試験ハ大林區署長ニ於テ署員二名以上ヲ選定シ委員ヲ命シテ之ヲ行ハシム

第四條 試験ノ期日及出願期日ハ大林區署長之ヲ定メ試験期日二十日前便宜ノ方法ヲ以テ公告ス

第五條 受験者ノ人員ハ採用スヘキ人員ノ十倍ヨリ少カラサル數ニ限ルコトヲ得但此場合ニ於テハ前條ノ公告ト共ニ其人員ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受験出願者滿員ノ時ハ出願期日前ト雖モ願書ヲ受理セス

第六條 試験ヲ受ケント欲スル者ハ大林區署長ノ指定シタル期日迄ニ履歷書及第七條ノ證明書ヲ添ヘ願書ヲ當該大林區署ニ差出スヘシ其履歷書ハ第一號及第二號書式ニ據リ認ムヘシ

第七條 試験出願者ハ身分職業年齢及免役延期豫備徵員一年志願兵等ニ關スル事項ヲ證明シタル市區町村長ノ證明書ヲ要ス

第八條 試験問題ハ大林區署長及試験委員之ヲ定ムルモノトス

第九條 試験ノ日割場所及受験人心得ハ大林區署長之ヲ定メ各受験人ニ知悉セシムヘシ

第十條 試験ノ問題ハ林務ニ關スル事項ヲ參酌シ專ラ實務ニ適應セシムルコトヲ要ス

第十一條 試験ハ筆記及口述ノ二種トス口述試験ハ筆記試験ヲ終リタル後之ヲ行フ

口述試験ハ第一條第一項ニ就キ之ヲ行フ

第十二條 受験人ハ其試験ヲ受クルノ際受験人心得及試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ犯ス者ハ當該

試験委員ヨリ直ニ退場ヲ命スヘシ其退場ヲ命セラレタル者ハ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十三條 不正ノ方法ヲ以テ合格シタルトキハ其效ナキモノトス

第十四條 前條ニ依リ合格ノ效ヲ失ヒ又ハ不正ノ方法ヲ以テ合格セント企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 履歷書中事實ヲ隱匿シ又ハ之ヲ偽リタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 試験ヲ經タル各科目ノ點數及其全體ノ效果ニ關シ合格者ヲ定ムルハ大林區署長及試験委員ノ議定スル所ニ據ル

第十七條 試験合格者ノ氏名ハ其試験ヲ終リタル日ヨリ七日以内ニ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス

第十八條 本則ニ依リ試験ヲ受ケテ合格シタル者ハ大林區署長ヨリ營林主事補又ハ森林監守試験

合格證書ヲ付與スヘシ

第十九條 前條ノ試験合格證書ヲ有スル者ノ内ヨリ當該大林區署ノ需用ニ應シ營林主事補又ハ森

林監守ニ任用スルモノトス

但試験合格證書有效ノ年限ハ其日附ヨリ滿五年トス

第二十條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス營林主事補及森林監守ニ任用スルコトヲ得但第一項乃至第三項ニ該當スルモノニシテ滿四十年以上ノ者及第四項第五項ニ該當スルモノニシテ二十年未滿又ハ滿四十年以上ノ者ハ此限リニアラス

- 一 前ニ判任文官ヲ勤メタル者
  - 二 陸軍滿期ノ下士及陸軍滿期ノ上等兵ニシテ下士適任證書ヲ有スル者
  - 三 滿二年以上巡査又ハ看守ヲ勤績セシ者
  - 四 滿二年以上府縣立尋常師範學校尋常中學校公立小學校ノ教員ヲ勤績セシ者
  - 五 林務ニ關スル各官廳ノ雇員トナリ滿二年以上勤績セシ者
- 第二十一條 本則ニ掲クルモノ、外試験ニ關スル手續ハ大林區署長ノ定ムル所ニ據ル書式用紙美濃紙字體楷行ノ内ニテ明瞭ニ記載シ一號二號各一通

(第一號)

受 驗 願

族籍戶主又ハ何某樹子二三男兄弟

職業

氏 名

生 年 月

現住所

氏 名 印

(何)大林區署長何某宛

私儀(營林主事補)(森林監守)志願ニ付御試験被下庶別紙履歷書及兵役ニ關スル證明書相添此段相願候也

年 月 日

(第二號)

履 歷 書

何府縣華士族平民

氏 名

生 年 月

本籍

一 何府縣何市區郡何町村何番地戶主又ハ何某男兄弟伯叔父等現ニ本籍地ニ居住スルトキハ(現今本地ニ居住)數字ヲ加ヘ次項ノ現今寄留地ヲ省クヘシ

現今寄留地

一 何府縣何市區郡何町村何番地(何某方)寄留住所ノ移動

一 何年何月何日何地ニ生レ何年何月マテ居住

一 何年何月何日何地ニ移轉シ何年何月マテ居住

(住所ヲ移轉セシ毎ニ之ヲ記スヘシ)

學事

一 何年何月ヨリ何地何業ニ就キ又ハ官公立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ科目大略何々

一 何年何月ヨリ何地官公立學校ニ入り何學科ヲ修メ何年何月卒業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ修業何年何月間ニシテ其科目ハ何々

一 何年何月何地何學校若クハ其他ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其證書若クハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ受験ノ科目ハ何々

職業

一 何年何月何日官公立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月辭職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス其辭令書寫左ノ如シ

(辭令書寫ハ各其全文ヲ掲クヘシ)又私立學校等ニテ辭令書ナキモノハ其律給等ヲ本文ニ記スヘシ)

一 何年何月何日何官廳ニ於テ何々ヲ任命何年何月何日マテ何々ノ事務ニ從事シ何年何月何日辭職其官記辭令書寫左ノ如シ

(官記辭令書寫ハ各其全文ヲ掲クヘシ)

一 何年何月ヨリ何地何會社ニ備ハレ(給料何圓)何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解僱何年何月何圓増給減額

一 何年何月ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ

(洋書ハ其著譯ノ原名ヲモ掲クヘシ)



○文部省令第四號

一 實業補習學校ニ於テ教科用圖書ヲ用フル場合ニハ普通教科目ニ係ルモノハ小學校用又ハ特ニ實業補習學校用トシテ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノタルヘシ其ノ實業教科目ニ係ルモノハ檢定ヲ經ルノ限ニ在ラス

二 前項特ニ實業補習學校用トシテ檢定ヲ經ヘキ圖書ニ關シテハ明治二十年文部省令第二號教科用圖書檢定規則ヲ適用ス

三 實業補習學校ノ教科用圖書ハ府縣ニ於ケル審査探定ヲ要セス

明治二十七年二月二十一日

文部大臣井上毅

○文部省令第五號

明治二十四年文部省令第十三號第三條ヲ左ノ通改ム

第三條 小學校補習科ノ每週教授時間ノ制限ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

明治二十七年二月二十一日

文部大臣井上毅

〔參照〕

文部省令第十三號小學校ノ每週教授時間ノ制限(明治二十四年十一月十七日)抄録  
第三條 小學校補習科ノ每週教授時間ハ四時以上十八時以下トス

○內務省令第三號

各開港場ヲ發シ海外ヘ航行スル内外國船舶ノ請求ニ依リ健康證書ヲ下付スルトキハ該船長ヨリ手數料トシテ金貳圓ヲ徵收ス但各國條約ニ於テ手數料ヲ定メタルトキハ其額ニ據ル

明治二十七年二月二十八日

內務大臣伯耆井上 馨

○司法省令第二號

鹿兒島地方裁判所管内大隅國大島郡瀨武村山村及知名村ニ各登記所ヲ置キ明治二十六年六月司法省

令第十號登記管轄區域中左ノ通改定ス  
大島區裁判所管内

一 瀨武登記所 瀨武村、薩川村、芝村、實久村、阿多地村、須古茂村、嘉入村、西阿室村、瀨相村、俵村、三浦村、武名村、木慈村ヲ其管轄トス

一 山村登記所 山村、花德村、母間村、藤木村、手手村、金見村ヲ其管轄トス

一 知名登記所 知名村、瀨利覺村、黒貫村、鹽清良村、屋者村、上平川村、下平川村、餘多村、屋子母村、大津勘村、德時村、赤嶺村、久志檢村、島尻村、馬鹿村、田皆村、上城村、下城村ヲ其管轄トス

一 金久登記所 西仲間登記所ト改稱シ其管轄嘉德村ヲ古仁屋登記所ノ管轄トス

一 嘉德登記所 秋名登記所ト改稱ス

一 宇檢登記所 田檢登記所ト改稱シ其管轄志戸勘村、今里村ヲ思勝登記所ノ管轄トス

一 目手久登記所 面繩登記所ト改稱シ其管轄尾母村、白井村ヲ龜津登記所ノ管轄トス

一 兼久登記所 阿布木名登記所ト改稱シ其管轄伊仙村、阿三村、阿權村、木之香村、糸木名村、八重竿村、崎原村、馬根村、小島村、犬田布村ヲ面繩登記所ノ管轄トス

一 伊實久登記所 早町登記所ト改稱シ其管轄荒木村、手久津久村、上嘉鐵村、浦原村ヲ灣村登記所ノ管轄トス

一 灣村登記所 管轄大朝戸村、西目村ヲ早町登記所ノ管轄トス

一 朝戸登記所 立長登記所ト改稱ス

明治二十七年二月二十八日

司法大臣芳川顯正

○外務省令第四號

明治二十六年外務省令第三號公使館領事館費用條例施行細則第十三條ニ規定セル經費區分ハ明治二十八年度マテ其施行ヲ延期シ明治二十七年年度ニ於テハ左ノ區分ニ據ル

明治二十七年三月一日

外務大臣陸奥宗光

實費精算ヲ要スル費目

一修繕費ノ内

何所修繕

各所修繕ノ内

帝國政府ニ屬スル建造物、建具、牆壁、溝渠等ノ修繕及右建物ニ附著スル瓦斯管、瓦斯口、水管、水管口、電線、電鈴、錠前、烟筒、暖爐及敷物（對客間、食堂、事務所及其ノ附屬廊下、階段、玄關ニ限ル）竝ニ旗竿等修繕及其ノ取替ノ費用

一裁判及囚徒費

裁判及囚徒費

囚徒就役費

備人料

備人被服費

同 押丁ニ限ル

一朝鮮國居留地取締費

備人料、警察所用雜器具ヲ除ク

一地所家屋借料

一廳費ノ内

備品費器具ノ内

天皇、皇族御額、門章札、國旗、網環、小旗竿、官印  
（事務所用）机、椅子、書棚、文書箱、鐵函  
（對客間及食堂用）帽子掛、桌子、テール、椅子、腰掛、棚、据附大鏡、据附釣下  
大點火器、窓飾等修理又ハ買足ノ費用

圖書費ノ内書籍地圖類  
通信運搬費ノ内電信料運搬費 其ノ保險料共  
爲替料

火災保險料 (借家ナレハ契約書ニ據リ帝國政府ニ於テ負擔スヘキ義務アルモノ及官有  
財産ニ限ル)

道路疏水等諸費 上水掃除其ノ他地方賦金區費ノ類共

見本品購入代 (有益ナル物品ノ發明等アリテ報告ニ其ノ物品ノ見本ヲ添附スルノ必要ア  
ルトキ又ハ特別ノ命令ニ依リ購入ヲ要スルトキニ限ル)

雜費ノ内諸謝金 (法律上ノ問題ニ關シ法律家ニ取調ヲ囑托シタル等ノ場合ニ於ケル謝金ニ  
限ル)

賠償及訴訟費

一在外國難民貸與金

一墓地管理費

一修繕費ノ内  
精算ヲ爲サ、ル渡切費目

各所修繕ノ内 (借家ニシテ契約書ニ據リ貸主ニ於テ負擔セサル建造物、建具、牆壁、溝渠等ノ  
修繕及右建物類ニ附著スル瓦斯管、瓦斯口、水管、水管口、電線、電鈴、錠前、烟筒  
暖爐及敷物(對客間、食堂、事務所及其ノ附屬廊下、階段、玄關ニ限ル)等修繕又  
ハ取替ノ費用)

一朝鮮國居留地取締費ノ内

備八料 警察所小使ニ限ル

警察所用雜器具 擊劍道具及火鉢、手桶、鹽茶碗、土瓶、炭取、火箸、點火器等ノ類

一雜給ノ内 備八料 僕長、玄關番、事務所小使但公使館ニ限ル

一廳費ノ内

備品費器具ノ内 (事務所、對客間及食堂用) 持運ヒノ成ル點火器、テーブル掛、暖爐附屬品、香  
拭、器具ニ屬スル錠前、窓日除ケ其ノ他雜器械、器具類修理又ハ買足ノ費用  
圖書費ノ内新聞紙雜誌類 「アルマナック」ステートメンズ、イヤープック、鐵道時刻表ノ類共  
製本費

筆紙墨文具 封筒、諸帳簿、印肉ノ類共

消耗品 薪炭、油ノ類但朝鮮國警察所ニ限ル

通信運搬費ノ内郵便稅 郵便接受發送ノ爲メニ要スル諸費共

備八被服費 公使館ニ限ル

器具器械其他借料 馬車、轎子、端舟及其ノ附屬品共

雜費ノ内廣告料、諸手數料、印紙料 領事館ハ天長節ニ限ル

一宴會費

○文部省令第六號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ニ依リ高等師範學校ニ入學ノ許可ヲ得タ  
ル者現ニ市町村立小學校正教員ノ職ニ在ルトキハ地方長官ニ於テ其ノ在學中休職ヲ命スヘシ  
明治二十七年三月一日 文部大臣井上毅

○文部省令第七號

尋常中學校ノ學科及其程度ニ關シ改正スルコト左ノ如シ  
明治二十七年三月一日 文部大臣井上毅

第一條 尋常中學校ノ學科ハ倫理、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、習字、圖畫  
體操トス



前項ノ外隨意科トシテ簿記及唱歌ヲ加フルコトヲ得

第二條 尋常中學校ノ各學科授業ノ時數ハ左表ノ如シ但府縣立學校ハ地方長官ニ於テ、郡市町村立又ハ私立學校ハ地方長官ヲ經テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ斟酌スルコトヲ得

	第一	第二	第三	第四	第五
倫理	一	一	一	一	一
國語及漢文	七	七	七	七	七
外國語	六	七	七	七	七
歷史	三	三	三	三	三
地理	三	三	三	三	三
數學	四	四	四	四	四
博物	一	一	二	四	四
物理及化學	一	一	二	四	四
習字	一	一	一	一	一
圖畫	三	一	一	一	一
體操	三	三	三	三	三
計	二八	二八	二九	三〇	三〇

第三條 明治十九年文部省令第十四號第五條ニ定メタル各學科ノ程度中漢文ノ書取作文及數學ノ球面三角ヲ削ル

第四條 尋常中學校ニ於テハ實業ニ就カント欲スルモノニ適切ナル教育ヲ施ス爲ニ第四年級以上ニ於テ本科ノ外分チテ實科ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣立學校ハ地方長官ニ於テ、郡市町村立又ハ私立學校ハ地方長官ヲ經テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 明治十九年文部省令第十四號第七條ヲ削除ス

第六條 從前ノ規定ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢ス

第七條 沖繩縣ニ於ケル尋常中學校ハ同縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第九條 本令施行ノ前ニ入學シタルモノニハ其ノ卒業ニ至ルマテ從前ノ規定ニ依リ若ハ新舊ノ規定ヲ斟酌シテ教授スルコトヲ得

前項ニ依リ規定ヲ斟酌シタル場合ニ於テハ府縣立學校ハ地方長官ニ於テ、郡市町村立又ハ私立學校ハ地方長官ヲ經テ文部大臣ニ開申スヘシ

省令説明

- 一 學科ノ改正ハ左ノ數件タリ
- 一 第二外國語ヲ除ク事
- 二 農業ヲ除ク事
- 三 唱歌ヲ隨意科トスル事
- 四 簿記ヲ隨意科トシテ加フル事
- 一 普通教育ニ於テニツノ外國語ヲ授クルノ必要アラサルノミナラス實際ノ成績ニ據ルニ邦人ニシテ洋語ヲ學フハ其ノ語脈語源ノ異ナルニ因リ殊ニ困難ヲ覺エ一ノ外國語スラ仍數年ノ學習ヲ以テ習熟スルコト能ハサル者多シ故ニ今第一外國語ノ時數ヲ増シ同時ニ第二外國語ヲ除ケリ
- 一 農業ハ從前ノ規定ニ於テ第二外國語ト相乘除シ必其ノ一ヲ設クルヲ義務トセリ然ルニ中學校令ハ既ニ農工商ノ專修科ヲ置クコトヲ許セリ蓋農工商業ハ別ニ專修科トシテ中學ニ附屬セシムルハ可ナリ中學ノ普通學科ノ一トシテ之ヲ設クルモ其ノ效ヲ見ルコト極メテ難キノミナラス設備ノ上ニ於テモ亦不便ナルヲ覺ユ今農工商ノ實業科目ヲ以テ之ヲ專修科ヲ置クノ旨ニ讓リ而シテ之ヲ普通科目ニ削レリ是レ實業教育ヲ排斥スルニ非スシテ其ノ教育ノ便ヲ圖ルニ外ナラス
- 一 唱歌ヲ隨意科トシタルハ各中學校ノ現狀ニ從フナリ簿記ヲ加ヘタルハ實用ヲ務ムルナリ
- 一 授業時間ノ改正ハ其ノ舊制ト増減ヲ比較スルニ左表ノ如シ

一 國語漢文ノ時間ヲ増シタルハ改正ノ一要點トス國語教育ハ愛國心ヲ成育スルノ資料タリ又個人トシテ其ノ思想ノ交通ヲ自在ニシ日常生活ノ便ヲ給足スル爲ノ要件タリ今ノ青年ニシテ中等又ハ高等教育ヲ受ケタル者卒業ノ後或ハ此ノ點ニ於テ不足ヲ感スル者多シ是レ授業時間ヲ増加スルノ已ムヲ得サル所以ナリ

一 國語漢文トハ相待テ其ノ用ヲ見ル蓋國語ハ主ニシテ漢文ハ客ナリト雖中古以來國語ノ材料ハ多ク之ヲ漢文ニ取レリ故ニ兩者ノ間尤教授ノ上ニ適當ノ調和ヲ得ルヲ要ス

一 歴史地理ノ授業時間ヲ各別ニ定メサルハ其ノ各別ニ之ヲ授ケルト又ハ時宜ニ依リ時間ヲ流用シ共通シテ之ヲ授ケルト各學校

	第一	第二	第三	第四	第五
	年	年	年	年	年
倫理	△一	△一	△一	△一	△一
國語及漢文	△五七	△五七	△五七	△三七	△二七
外國語	△六六	△六七	△七七	△五七	△二七
第一外國語				△五七	△二七
第二外國語				△三七	△二七
若クハ農業				△七七	△三七
歴史	△二三	△三三	△四三	△四三	△三三
地理	△三三	△三三	△四三	△四三	△三三
數學	△四四	△四四	△四四	△四四	△三三
博物學	△一一	△一一	△二二	△四四	△三三
物理及化學	△一一	△一一	△二二	△四四	△三三
習字	△一一	△一一	△一一	△二二	△三三
圖畫	△一一	△一一	△一一	△二二	△三三
唱歌	△一一	△一一	△一一	△二二	△三三
體操	△三三	△三三	△三三	△五三	△五三
計	△二八	△二八	△二九	△二八	△三〇

(△印ハ朱書)

ノ便ニ任スルナリ蓋地文ノ教授ハ理科的性質ニ屬スト雖政治地理ハ實ニ歴史ト密著ノ關係ヲ有シ殊ニ近世ノ歴史ニ至テハ地理ノ變化ト互ニ相願應スルヲ要ス彼ノ徒ニ面積戸口ノ記載ニ偏スルカ如キハ地理教授ノ本旨ニアラス現ニ行フ所ノ地理ノ描圖ノ如キモ固ヨリ必要ナラストセト雖其ノ程度ハ過高ニ誤ラズ簡單ナル輪廓形狀ヲ描カシムルヲ以テ足レリトスヘシ

一 歴史及地理ノ課目ノ時間ヲ増シタルハ歴史ニ重キヲ置クカ爲ナリ蓋歴史教育ノ精神ハ我國體ノ精神ナルヲ知ラシメ宇内ノ大勢ヲ詳ニ古今ノ變ニ通スルノ能力ヲ養成スルニ在リ而シテ尤中等教育ノ要點ヲ占ムル者ナリ

一 數學ノ時間ヲ増シタルハ各學校ノ經驗ニ依リ必要ヲ認メタルナリ

一 博物學物理及化學ノ時間ヲ各別ニ定メサルハ又教授ノ便宜ヲ以テ各學校ニ任セシカ爲ナリ

一 圖畫ノ時間ヲ減シタルハ自在畫ノ如キ仍正科外ニ生徒ノ隨意ノ習業スルノ餘地アレハナリ

一 體操ノ第四年級第五年級ニ於テ時間ヲ減シタルハ現在各學校ニ於テ科外ニ隨意ノ體操法ヲ用非ルカ故ニ正科體操ヲ減スルモ其ノ要ヲ闕カサルニ因ルナリ

一 教授時間ノ合計ハ第一年級第二年級ニ於テ舊ニ同ク第三年級ニ於テ一週間ニ一時間ヲ増シ第四年級第五年級ニ於テ二時間ヲ増シタリ此レ固ヨリ適當ナル授業時數タルノミナラス亦各中學校ノ寬容スル所ナリ

一 授業時間ハ教育制度ノ重要件ナリト雖我邦ノ中等教育ハ尙發達ノ途ニ在リ而シテ必之ヲ畫一ニスルハ器械的ニ陷ルノ恐レアルヲ以テ省令ハ其ノ標準ヲ示シ更ニ各學校ノ實驗ニ因リ認可ヲ經テ便宜斟酌スルノ餘地ヲ予ヘタリ

一 程度ノ條ニ於テ漢文ノ書取作文ヲ削リタルハ漢文教科ノ目的ハ多數ノ書ニ涉リ文思ヲ資クルニ在リテ漢文ヲ撰作スルニ在ラサルヲ認ムレハナリ而シテ漢文ノ授業ヲ削減セントスルノ意ニ非サルナリ

一 數學ノ球面三角ヲ削リタルハ普通教育ノ爲ニ高尚ニ過クルニ因ルナリ

一 本科ノ外別ニ實科ヲ設クルヲ得ルノ制ヲ定メタルハ中等教育ニシテ專ラ高等教育ノ豫備タルノ一方ニ偏傾スルノ弊ヲ救フナリ

一 實科ハ直ニ實業專門ノ教育ヲ施ス者ニ非ス實業ニ就カントスル者ニ適切ナル教育ヲ授ケル者ナリ故ニ高等ナル實業專門教育ヲ將來ニ受ケントスル者ノ爲ニハ猶之ヲ豫備教育ト謂フゴトヲ得ヘシ其ノ節目ノ如キハ更ニ制定公布スル所アラントス

〔參照〕

文部省令第十四號尋常中學校ノ學科及其程度(明治十九年六月二十二日抄錄)

第七條 尋常中學校ニ於テハ土地ノ情況ニ因リ文部大臣ノ認可ヲ經テ商業工業ノ科ヲ置クコトヲ得

○内務省令第四號

第一條 府社縣社以下神社ノ神職ニシテ明治二十四年七月當省訓令第十二號府縣鄉村社神官奉務規則ノ規定ニ違背シタルトキハ北海道廳長官府縣知事之ヲ懲戒ス但右訓令ハ無格社ノ神職ニモ適用ス

第二條 前條ノ懲戒ニハ官吏懲戒例ヲ准用ス

明治二十七年三月二日

內務大臣 伯耆井上 馨

○遞信省令第三號

本月九日ヨリ左ノ見本ニ錢及五錢郵便切手ヲ發行ス (見本略ス)

明治二十七年三月二日

遞信大臣 伯耆黒田清隆

○文部省令第八號

尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許檢定ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

明治二十七年三月五日

文部大臣 井上毅

第一條 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ハ自今等級ヲ付セス從テ二次以上ノ檢定ヲ行ハス

免許狀ハ從前授與シタルモノト將來授與スルモノトヲ問ハス其ノ效力ハ同一トス

免許狀様式ハ自今別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 高等師範學校及女子高等師範學校卒業生ニハ檢定ヲ行ハスシテ教員免許狀ヲ授與ス

第三條 女子ニハ尋常師範學校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ノ外之ヲ授與セス

第四條 左ニ掲グル者ニ限リ學力ノ試験ヲ須井シテ檢定ヲ行フ

一 高等ノ官立學校ニ於テ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生

二 元古典講習科卒業生及理科大學簡易講習科優等卒業生

元體操傳習所卒業生ハ普通體操ニ關シ陸軍教導團卒業生ハ兵式體操ニ關シ第一項ニ依ルコトヲ

得 第五條 左ニ掲グル者ニ限リ檢定委員ノ意見ニ依リ試験ヲ免除シ又ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ

一 大學理科ヲ修メタル者及理科大學簡易講習科卒業生

二 高等中學校卒業生

三 教員タラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

四 教員タラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ官立學校ニ於テ教員タル者及教員タラシキ者

第六條 尋常師範學校又ハ尋常中學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ハ其ノ免許ノ學科目ニ關シテハ更ニ檢定ヲ要セスシテ高等女學校教員タルコトヲ得

第七條 學力ノ試験ニ於テ一學科目ノ全部ニ合格セサルモ其ノ或部分ノ成績優等ナルトキハ其ノ部分ニ對シ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者ハ次回ノ檢定試験ニ於テ前ニ出願セシ學科目ニ就キ更ニ檢定ヲ出願スルトキハ證明書ニ記載シタル部分ヲ省キ其ノ他ノ部分ニ就キ試験ヲ行フ

第八條 本令第四條及第五條ニ掲グル者ハ何時ニテモ檢定ヲ出願スルコトヲ得但第五條ニ掲グル者ニ對シ試験ヲ行フハ一般ノ檢定試験ト同一ノ時期ニ於テス

第九條 文部省直轄學校卒業生ハ當該學校長ノ申請ニ依リ檢定ヲ行フコトアルヘシ

本令第五條第四ニ掲グル者ハ當該學校長ヲ經テ檢定ヲ出願スルコトヲ得

前二項及尋常師範學校教員免許規則第十一條二項ノ場合ニ於テハ當該學校長ハ本人ノ學力品行身體ニ關シ意見ヲ附シテ具申スヘシ

第十條 本令第二條ニ掲グル者ハ免許狀授與手數料ヲ納ムルヲ要セス

第十一條 明治十九年文部省令第二十一號及明治二十五年文部省令第十三號中ノ條項ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢ス

(參照)

明治十九年十一月二日 文部省令第二十一號 尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ナリ

明治二十七年三月 省令 文部省第八號

五七

文部省令第十三號尋常師範學校教員免許規則(明治二十五年七月十一日)抄録  
第十一條 高等師範學校女子高等師範學校卒業生ノ第一次ノ檢定ハ當該學校長ノ申請ニ依リ之ヲ行フ  
他ノ文部省直轄學校卒業生ノ第一次ノ檢定ハ前項ノ例ニ準スルコトアルヘシ

○文部省令第九號

一 明治二十四年文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第七條第一第二第四ニ掲クル者  
ハ第四條第一ノ資格ヲ具フルコトヲ要セスシテ正教員ノ檢定ヲ請フコトヲ得  
一 小學校教員檢定等ニ關スル規則第十三條ハ尋常師範學校ニ於ケル小學校教員講習科ヲ終リタル  
者及高等女學校卒業生ニ適用ス  
一 小學校教員檢定等ニ關スル規則ニ依リ乙種檢定ヲ受クル者其ノ試驗ニ合格セサルモ一部ノ成績  
優等ナルトキハ其ノ部分ニ限リ次回ノ檢定期ニ於テ試驗ヲ缺クコトヲ得  
明治二十七年三月五日  
文部大臣 井上毅

〔參照〕

文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則(明治二十四年十一月十七日)抄録  
第四條 正教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス  
一 准教員ノ免許狀ヲ有シ一箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシコト但第七條第七款ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス  
第七條 甲種ノ檢定ハ左ニ掲クル者ニ限リ之ヲ行フモノトシ第九條乃至第十二條ニ掲クル科目及其程度ヲ參照シテ其學力  
及經歷ヲ調査スルモノトス但尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス  
一 高等師範學校女子高等師範學校又ハ尋常師範學校卒業生  
三 文部省直轄師範學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生  
四 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者  
第十三條 左ニ掲クル者ニシテ乙種ノ檢定ヲ請フ者ハ其學力ヲ第九條乃至第十二條ニ掲クル科目及其程度ニ對照シ同等以  
上ト認ムルトキハ其ノ科目若クハ數科目ノ試驗ヲ缺クコトヲ得  
一 他ノ府縣ニ於テ小學校教員免許狀ヲ受得シタル者  
二 文部省直轄師範學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生  
三 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

- 四 従前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀又ハ小學校師範學校卒業證書ヲ受得シタル者
- 五 准教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ其有效期間満チタル者
- 六 中學校卒業生
- 七 文部大臣ニ於テ尋常中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業生

○陸軍省令第三號

陸軍監獄看守採用規則左ノ通定

明治二十七年三月七日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

陸軍監獄看守採用規則

第一條 陸軍監獄看守ハ陸軍各兵科豫備後備役下士兵卒ヨリ其志願ニ依リ之ヲ採用ス但屯田兵豫  
備役及警備隊區所屬ノ者ハ採用スルノ限ニ在ラス

第二條 左ニ掲クル者ハ看守ニ採用セス

- 一 身體虛弱ノ者
- 二 年齡四十歳以上ノ者
- 三 重罪又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者但國事犯ニシテ復權ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス
- 四 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
- 五 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終  
ヘサル者

第三條 下士上等兵ニシテ監獄看守ヲランコトヲ望ムモノハ現役滿期前一月内若クハ滿期後三月  
内ニ志願書ニ履歷書ヲ添ヘ現役滿期前ニ係ルモノハ隊長若クハ長官ヲ經滿期後ニ係ルモノハ大  
隊區司令官ヲ經テ採用ヲ望ム地ノ師團長若クハ屯田兵司令官ニ出スヘシ  
屯田兵下士上等兵ニシテ監獄看守ヲランコトヲ望ムモノハ前項ノ規定ニ準シ豫備役滿期前ニ係  
ルモノハ隊長ヲ經滿期後ニ係ルモノハ直ニ志願書ヲ屯田兵司令官ニ出スヘシ但家族中本人ニ代

リテ耕耘ニ從事スルコトヲ得ル男子ナキモノハ志願スルコトヲ得ス

第四條 師團屯田兵副官ハ前條ノ志願書ニ依リ志願者名簿ヲ作り之ヲ備ヘ置クヘシ

第五條 看守ニ願員ヲ生シタルトキハ師團長屯田兵司令官第三條ノ志願者中ヨリ其身體ヲ検査シ品行方正學術優等ノ者ヲ撰ミ之ヲ採用スヘシ

第六條 前條ニ依リ看守ノ闕ヲ補フニ足ラサルトキハ師團長屯田兵司令官其管内居住ノ下士上等兵ヨリ募集シ身體ヲ検査シ之ヲ採用スヘシ

第七條 下士上等兵ノ志願者ヲ以テ看守ノ闕ヲ補フニ足ラサルトキハ師團長屯田兵司令官其管内居住ノ兵卒ヨリ募集シ身體検査學科試験ヲ行ヒ及第者中ヨリ之ヲ採用スヘシ

第八條 學科試験ノ項目ハ左ノ如シ

- 一 讀書 假名交リ文
- 二 作文 往復文
- 三 算術 四則分數比例

第九條 検査及試験ハ師團長屯田兵司令官委員ヲ命シテ之ヲ爲サシムヘシ

第十條 第七條ノ検査及試験ヲ行ヒタルトキハ委員長試験ノ成績ニ依リ順序ヲ定メタル及第者名簿ヲ作り之ヲ師團長屯田兵司令官ニ出シ其認可ヲ得テ及第者ニ證書ヲ付與スヘシ

第十一條 志願書及第證書ノ效力ハ總テ一年限トス

第十二條 本則ニ依リ採用シタル後ト雖モ看守ノ職務ニ堪ヘサル者アルトキハ監獄長ノ具申ニ依リ師團長若クハ屯田兵司令官之ヲ免スルコトヲ得

第十三條 豫備後備役服役中ノ者戰時召集ニ應シ戒護上差支ヲ生スルトキハ師團長屯田兵司令官一般人民ヨリ募集シ第七條ノ検査及試験ヲ行ヒ看守ヲ採用スルコトヲ得

附則

第十四條 本則ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 明治二十八年四月一日前屯田兵監獄ニ於テ看守ニ願員ヲ生シ本則ノ規定ニ依リ其闕ヲ補フ能ハサルトキハ司令官ヨリ第二師團長ニ照會シ第二師團長ハ本規則ニ照シ志願者ヲ採用シ赴任セシム

第十六條 本則施行ノ際ニ限リ現ニ陸軍監獄ニ在リテ看守卒タル者ハ本則ノ規定ニ拘ハラズ別ニ辭令ヲ須井スシテ看守ニ採用セラレタル者トシ押丁タル者ハ師團長屯田兵司令官看守ニ採用スルコトヲ得

○大藏省令第四號

明治二十七年三月十三日 大藏省令第三號所得稅法施行細則第一號書式備考第三項甲種ノ上ニ(稅法第二條第二項ニ屬スルモノニシテ)ノ十七字ヲ加フ

明治二十七年三月十三日 大藏大臣渡邊國武

(參照)

大藏省令第三號(明治二十七年二月二十一日)抄録  
所得稅法施行細則第一號書式備考第三項  
一 甲種ニ損失ヲ受ケ乙種ニ利益ヲ得タルモノ、類ハ所得總額上ニ於テ彼此差引キタル殘額ヲ屆書合計ノ位地ニ掲載シ其理由ヲ詳記スヘシ  
但固定資本ノ減價又ハ減耗ニ係ルモノハ損失トスルノ限ニ在ラス

○大藏省令第五號

明治二十一年當省令第三號烟草稅則施行細則中左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ實施ス

明治二十七年三月十三日 大藏大臣渡邊國武

第十九條但書左ノ通改正ス

但第二十條ノ認許ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第二十條第二十一條ヲ左ノ通改正ス

第二十條 烟草營業者營業場外ニ於テ烟草葉取葉拵又ハ貨卷ヲ爲サシメントスルトキハ其仕業ノ種類及職工ノ住所氏名年齢ヲ詳記シタル書面ヲ添へ所轄收稅署ニ申出テ認許ヲ受クヘシ

前項認許ヲ受ケタルモノハ通帳ヲ製シ烟草營業者何某使用職工住所何某ト記シ之ヲ職工ニ渡シ置キ烟草ヲ授受スヘシ但通帳ハ使用以前所轄收稅署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ其附込濟又ハ使用ヲ止メタルトキハ其時々消印ヲ受クヘシ

總テ烟草ヲ授受スルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ授受ノ證トシテ其時々受取人ニ於テ調印スヘシ

一 仕上ケ原料葉烟草又ハ貨卷原料烟草ノ量目及職工ノ受取タル年月日

一 紙卷烟草ニ用ユル卷紙、口紙ノ數量

通帳ハ一箇月分月計ヲ附シ置キ當該官吏ノ求メアルトキハ之ヲ差出シ檢査ヲ受クヘシ

營業者ハ職工ニ於テ烟草ヲ滅失シタルトキハ三日以内ニ其旨所轄收稅署ニ届出ツヘシ

一 職工ニ異動アリタルトキ

一 通帳紛失シタルトキ

第二十一條 職工氏名ヲ變更シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキ

第二十一條 烟草營業者又ハ烟草拵作人葉烟草又ハ製造烟草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スベシ

烟草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 葉烟草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷送主ノ氏名、住所  
一 製造烟草ノ種類、包裹ノ區別、箇數、荷送主ノ氏名、住所

第二十九條中第二十條ノ下「第一項乃至第五項第二十一條第一項」ノ十六字第十八條ノ下「第二十條第六項」ノ七字及第二十二條ノ下「第二項」ノ三字ヲ追加ス

〔參照〕

大藏省令第三號烟草稅則施行細則(明治二十一年四月二十六日)抄錄

第十九條 烟草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ烟草ヲ設置スルコトヲ得ス但葉取リ葉拵ノ爲ニ烟草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 烟草營業者又ハ烟草拵作人葉烟草又ハ製造烟草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條 烟草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 葉烟草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷送主ノ氏名、住所

一 製造烟草ノ種類、包裹ノ區別、箇數、荷送主ノ氏名、住所

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○文部省令第十號

明治二十五年文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第三條但書ヲ削除ス

明治二十七年三月十六日

文部大臣 井上毅

〔參照〕

文部省令第十號(明治二十五年七月十一日)抄錄

第三條 尋常師範學校ノ各學級ニ缺員アルトキハ前條第一款ノ資格ヲ有シ學力年齢トモ該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得但第二學年程度以上ノ學級ニ補缺スヘキ者ハ小學校教員免許狀ヲ有シテ教員ノ職ニ從事シタル經驗アル者ニ限ル

○大藏省令第六號

明治二十六年大藏省令第十九號預金取扱規程第十條ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治二十七年三月 省令 文部省第十號 大藏省第六號

「官立學校及圖書館會計規則第四條ニ依レル預金ノ拂戻額及公債證書購入代金トシテ仕拂額ハ同會計資金部歳出豫算額ニ超過スルヲ得ス」

明治二十七年三月二十八日

大藏大臣渡邊國武

○陸軍省令第四號

工事請負北海道ニ關スルノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ掲クル事項ノ外左ノ資格ヲ備フル者タルヘシ

明治二十七年三月二十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 第一條 工事ヲ請負ハントスル者ハ一箇年ニ付左ニ區分スル金額ノ直接國稅ヲ二箇年間引續キ納ムル者ニシテ其ニ以下ニ在リテハ尙ホ造家土木各其専門學士ヲシテ當該工事ヲ擔當セシムル者但砲臺建築工事ニ在テハ契約擔任者ニ於テ特ニ示シタルモノ、外技術者ヲ要セス
- 其一 工事一口ノ金額貳千圓以上五千圓未満ノ請負ニ在リテハ參圓以上ヲ納ムル者
- 其二 同五千圓以上壹萬圓未満ノ請負ニ在リテハ七圓五拾錢以上ヲ納ムル者
- 其三 同壹萬圓以上參萬圓未満ノ請負ニ在リテハ拾五圓以上ヲ納ムル者
- 其四 同參萬圓以上五萬圓未満ノ請負ニ在リテハ參拾圓以上ヲ納ムル者
- 其五 同五萬圓以上拾萬圓未満ノ請負ニ在リテハ六拾圓以上ヲ納ムル者
- 其六 同拾萬圓以上ノ請負ニ在リテハ百貳拾圓以上ヲ納ムル者
- 合名會社ニ在リテハ其社員ノ直接國稅ヲ併セテ其一乃至其六ノ例ニ依ル
- 合資會社、株式會社ニ在リテハ直接國稅ニ換フルニ資本金ヲ以テシ其一ニ在リテハ資本金壹萬圓以上其二ニ在リテハ同參萬圓以上其三ニ在リテハ同五萬圓以上其四ニ在リテハ同七萬圓以上其五ニ在リテハ同拾萬圓以上其六ニ在リテハ同拾五萬圓以上ノ拂込ヲ終ヘタルモノ
- 第二條 砲臺建築工事ニ於テハ第一條ノ其一乃至其六ニ掲クルモノ、外除積土工事石材切出及其

運搬放捨ニ關スル競争入札者ハ入札前契約擔任者ニ於テ定ムル所ノ職工人夫及船舶ノ員數ヲ豫定時日限内ニ準備シ得ルノ確證アルモノ

第三條 地方ノ狀況ニ依リ契約擔任者ニ於テ第一條ノ其一乃至其六ニ依リ難シト認ムルトキハ其具申ニ依リ資格ヲ輕減スルコトアルヘシ

〔參照〕

勅令第六十號會計規則(明治二十二年五月一日官報)抄錄

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

工事又ハ物品購買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

○陸軍省令第五號

軍馬ノ飼養ニ要スル干草供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ掲クル事項ノ外左ノ資格ヲ備フル者タルヘシ

明治二十七年三月三十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一條 購買金額ニ對スル資格ハ地方ノ狀況ニ依リ左ノ範圍内ニ於テ契約擔任者之ヲ定メ其金額ハ入札ノ時々廣告スヘシ

購買一口ノ金額五千圓未満ニ在リテハ一箇年參圓以上拾圓迄又五千圓以上ニ在リテハ一箇年拾圓以上參拾圓迄ノ直接國稅ヲ二箇年間引續キ納ムル者但所定資格ノ最上額ヲ超過スル者ノ入札ハ妨ケナシ

合名會社ニ在リテハ其社員ノ直接國稅ヲ併セ前項ノ例ニ依ル

合資會社、株式會社ニ在リテハ直接國稅ニ換フルニ資本金高ヲ以テシ購買一口ノ金額五千圓未満ニ在リテハ資本金高壹萬圓以上又五千圓以上ニ在リテハ資本金高參萬圓以上ノ拂込ミヲ終ヘ

タルモノ

第二條 前條資格ノ外干草ハ指定ノ場所ヨリ三里未滿ノ地ニ貯藏スル者ニシテ一時ノ購買ニ在リテハ其需用高ヲ數月ニ渉ル購買ニ在リテハ其需用高ノ六分ノ一以上ヲ所有スル者タルヘシ但其指定ノ場所ハ時々ノ廣告ニ依ル

第三條 地方ノ狀況ニ依リ契約擔任者ニ於テ第一條及第二條ニ依リ難シト認ムルトキハ其具申ニ依リ資格ヲ輕減スルコトアルヘシ

〔參照〕

會計規則第六十九條ハ陸軍省令第四號參照ニアリ

○大藏省令第七號

明治二十六年大藏省令第二十七號中第十號書式領收證書ノ下ニ左ノ一項ヲ加フ

本書式ノ外特別ノ領收證書式ヲ要スルモノアルトキハ別ニ之ヲ定ム

明治二十七年四月四日

大藏大臣渡邊國武

○文部省令第十一號

高等師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年四月六日

文部大臣井上毅

高等師範學校規程

- 第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科理科トス
- 第二條 文科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、英語、歴史、地理、哲學、經濟學、體操トス
- 前項科目ノ外獨語及習字ヲ隨意科トス又獨語ヲ以テ英語ニ換フルコトヲ得
- 第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、英語、數學、物理、化學、地學、植物、動物、生理、農業、手工、圖畫、體操トス但農業、手工ハ生徒ノ所長ニ依リ其一ヲ課ス
- 前項科目ノ外獨語ヲ隨意科トス又獨語ヲ以テ英語ニ換フルコトヲ得
- 第四條 高等師範學校ノ學科ハ尋常師範學校ノ課程ニ照ラシ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス
- 第五條 修業年限ハ四箇年トス
- 第六條 第四年級生徒ハ附屬學校ニ於テ實地授業ニ從事セシムヘシ
- 第七條 入學試験ニ及第シタル者ハ一定ノ期間假ニ入學セシメ其ノ資性品行才能ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限り本入學ヲ許スヘシ
- 假入學ノ生徒ハ自費トス但本項ハ明治二十八年度ヨリ施行スヘシ



第八條 本入學生徒在學中疾病ニ因ルノ外自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ

卒業ノ後正當ノ事由ナクシテ服務ノ義務ヲ盡サ、ル者亦前項ニ同シ

第九條 生徒在學中疾病ニ罹リ若ハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ

第十條 高等ナル學校ノ卒業生ニシテ尋常師範學校尋常中學校又ハ之ニ均キ程度ノ各種學校ノ教員タルトスルノ目的ヲ以テ教育學及教授法ヲ專修セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設ク

第十一條 研究生ノ在學期限ハ一箇年以下トス但必要ヲ認ムルトキハ延期ヲ許可スルコトヲ得

第十二條 尋常師範學校尋常中學校ノ教員ノ闕乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

第十三條 尋常師範學校尋常中學校ノ教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ文科又ハ理科中ノ一科目若ハ數科目ヲ撰ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得

第十四條 撰科生ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス

第十五條 明治十九年文部省令第十七號中男子師範學科ニ關スル規定ハ之ヲ廢ス

○外務省令第五號 明治二十七年勅令第四十一號ニ基キ布哇國民ノ國籍ヲ證明スル爲メ明治二十二年外務省令第三號ヲ以テ定メタル國籍證明書規則ヲ適用ス

明治二十七年四月十三日 外務大臣陸奥宗光

〔参照〕

外務省令第三號(明治二十二年七月二十九日)

明治二十一年十一月三十日帝國ト墨西哥合衆國トノ間ニ締結シタル修好通商條約ニ依リ墨西哥合衆國人民カ帝國内ニ於テ享有スヘキ權利ヲ實行スルニ際シ其國籍ヲ證明スルニ便ナランカ爲メ茲ニ國籍證明書規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

國籍證明書規則

第一條 墨西哥合衆國人民ハ本規則ノ手續ニ依リ地方廳ヲ經テ國籍證明書ヲ交付ヲ外務省ニ出願スルコトヲ得

第二條 國籍證明書ヲ得シコトヲ欲スル者ハ自ラ地方廳ニ出願シ其國籍ノ證據トナルヘキ書類ヲ添ヘ國籍氏名年齢ヲ記シタル願書ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ本國領事ノ駐在スル地ニ在リテハ其願書ニ領事ノ蓋印アルヲ要ス

第三條 出願人若シ國籍ノ證據トナルヘキ書類ヲ所持セサル時ハ其願書ニ記載シタル國籍ニ屬スルコトヲ書面ヲ以テ確言スヘシ

第四條 地方長官國籍證明書交付ノ願書ヲ受領シタル時ハ願書記載ノ事實ニ就キ取調ヲ送ケ意見ヲ具シテ其願書ヲ外務省ニ送致スヘシ

第五條 國籍證明書ハ外務省ヨリ地方廳ヲ經テ出願人ニ交付ス但シ之ニ對シ手数料ヲ要セス

○外務省令第六號

移民保護規則施行細則左ノ通相定ム

明治二十七年四月十八日

外務大臣陸奥宗光  
内務大臣伯耆井上 馨

移民保護規則施行細則

第一條 移民保護規則第一條ニ掲グル労働ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 耕作、漁業、鑛業、土木建築、運送、其他各種ノ製造業ニ従事シ勞力ヲ供スル者

一 炊事給仕等ノ爲メ家事ニ使役セララル、者

第二條 移民保護規則第四條ニ依リ身元引受人ヲ定メシムヘキ場合ハ豫メ之ヲ告示ス

第三條 移民保護規則第四條ニ地方長官トアルハ身元引受人ノ本籍地ノ地方長官ヲ謂ヒ第五條第六條第七條第八條及第十三條ニ地方長官トアルハ移民取扱人ノ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官

官ヲ謂フ

第四條 保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但國債證書ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第五條 保證金ニ代用スル國債證書ノ價格ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第六條 何等ノ場合ヲ問ハス保證金ニ缺損ヲ生シタルトキハ地方長官ハ相當ノ期限ヲ定メテ其缺

補ヲ命スヘシ

前項ノ填補期限ハ一箇月ヲ超ニルコトヲ得ス

第七條 移民取扱人ハ左ノ書式ニ依リ其取扱ニ係ル移民ノ名簿ヲ調製シ翌月五日限り主タル營業

所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出ヘシ

旅券番號	旅券下付年月日	姓名	職業及本籍	寄留地	年	齡	渡航ノ目的	移住地	渡航ノ年月日	契約期限
------	---------	----	-------	-----	---	---	-------	-----	--------	------

第八條 當該官廳ヨリ移民保護規則第八條ニ掲クル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ移民

及移民取扱人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 移民取扱人ハ其代理人ヲシテ業務ヲ執ラシムルトキハ代理人タルノ證書ヲ携帯セシムヘシ

○大藏省令第八號

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程附屬第六號書式中「領收證書ノ年月日」ノ下ニ「領收證書ニ記載アル期滿失效ノ年月日」ノ十七字及「金何圓也」ノ下ニ「權利者何ノ誰渡」ノ七字ヲ加フ

明治二十七年四月十八日 大藏大臣渡邊國武

○海軍省令第一號

明治二十一年六月海軍省令第七號海軍服裝規則ヲ廢ス

明治二十七年四月二十五日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○司法省令第三號

金澤地方裁判所管内能美郡白峰村ニ小松區裁判所出張所ヲ置キ白峰村及尾口村大字五味島釜谷深瀬搗ヶ谷ヲ其管轄トス

明治二十七年五月五日 司法大臣芳川顯正

○大藏省令第九號

大阪第二百二十六國立銀行須賀川第百八國立銀行大阪第二百二十六國立銀行東京第三十三國立銀行發行紙幣引換期限ノ儀今般更ニ明治三十二年十二月三十一日ト改定ス右期限後ハ政府ニ於テ一切引換ノ義務ヲ負ハス

明治二十七年五月七日 大藏大臣渡邊國武

○海軍省令第二號

船渠工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ掲クル事項ノ外左ノ資格ヲ備フル者タルヘシ

明治二十七年五月十二日 海軍大臣伯爵西鄉從道

船渠工事ヲ請負ハントスル者ハ船渠工事若クハ之ニ類似ノ水中工事ヲ請負ヒ之ヲ完全成功シタル確證アル者ニシテ毎年七拾圓以上ノ直接國稅ヲ三箇年以來引續キ規定ノ納期ニ納メ且土木專門ノ學士ヲシテ工事ヲ擔當セシムル者

前項ノ直接國稅ハ合名會社ニ在リテハ其社員ノ直接國稅ヲ併算シ合資會社及株式會社ニ在リテハ之ニ換フルニ資本金八萬圓以上ノ拂込ヲ終ヘタル者ヲ以テス

〔參照〕

勅令第六十號會計規則(明治二十二年五月一日官報)抄錄

明治二十七年五月 省令 司法省第三號 大藏省第九號 海軍省第二號

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシテハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來  
從事スルコトヲ證明スヘシ  
各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得  
工事又ハ物品買入ノ競争ニ加ハラントシテハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證券ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

○陸軍省令第六號

明治二十三年陸軍省令第三十號屯田兵召募規則左ノ通告正ス

明治二十七年五月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

屯田兵召募規則

- 第一條 屯田兵ハ志願者中召募検査ニ合格シタル者ヨリ採用シ毎年四月ニ於テ移住セシム
- 第二條 屯田兵召募検査ハ其年ノ召募區域内ニ於ケル大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ行フ
- 第三條 屯田兵召募區域及其人員ハ召募スヘキ前年ニ於テ之ヲ告示ス
- 第四條 屯田兵志願者ハ前條ノ告示ニ依リ其年ノ八月三十一日迄ニ第一書式ノ願書ニ第二第三第四書式ノ履歷書、戸籍明細書、家族身體證明書ヲ添ヘ市町村長東京都大阪ノ三市ニ在ニ差出スヘシ
- 第五條 市町村長前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ第五書式ニ依リ志願者ノ身元證明書ヲ作り願書ニ添ヘ府縣廳町村長ハ島司ニ差出シ府縣廳ニ於テハ之ヲ審査シ更ニ第六書式ノ連名簿ヲ作り九月三十日迄ニ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送附シ願書、履歷書、戸籍明細書及家族身體證明書ハ同時ニ屯田兵司令部ニ發送スヘシ
- 第六條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前條ノ連名簿ヲ受領シタルトキハ島司郡市長ニ協議シ検査場ヲ定メ検査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ之ヲ町村長ニ達シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者ヲ引纏メ検査場ニ出頭セシムヘシ但志願者ニハ第二書式履歷書ノ寫ヲ携帶セシムヘシ

志願者検査場ヘノ往復旅費並滞在日當ハ之ヲ給セス

- 第七條 屯田兵志願者願書ヲ差出シタル後自己及家族ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ書面ヲ以テ志願者ノ死亡失踪、刑市町村長及島司郡市長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出ヘシ等ニ在テハ其家族ヨリ市町村長及島司郡市長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ通報スヘシ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前項ノ届書ヲ受領シタルトキハ之ヲ屯田兵司令部ニ通報スヘシ
- 第八條 屯田兵召募検査終レハ大隊區司令官警備隊區司令官ハ第八書式ノ検査成績表不台私者及但里程表ノ調製ハ第十附表屯田兵集合地名表ニ基クヘシ
- 第九條 屯田兵司令官ハ検査成績表及第五條ノ書類ヲ審査シ採用スヘキ者ト豫備員トヲ定メ其人名簿竝ニ依リ之ヲ本人ニ告達シ又府縣廳ニ通知スヘシ
- 第九條 屯田兵移住ノ際ハ府縣知事吏員ヲ其集合地ニ派遣シ屯田兵受領員ニ引渡サシメ且其宿泊乗車乗船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ
- 第十條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ資格ハ左ノ如シ
  - 一 年齢 滿十七年以上二十五年以下召募年ノ四月一ノ者
  - 二 身長 五尺以上ノ者
  - 三 體質 強健ニシテ兵農ノ動作ニ堪ニル者
 但年齢二十年未滿ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上
- 第十一條 前條ノ資格アル者ト雖モ左ノ事項ニ該ル者ハ採用セス
  - 一 陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵

二 一家中耕稼ノ勞働ニ堪ニル強壯者（養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時本人ヲ併セテ三人ニ滿タサルモ）

三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者（其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者）

四 素行修マラサル者

五 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

六 養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

七 召募區域内ニ本籍ヲ定メ第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

第十二條 屯田兵志願者ノ身體検査ハ陸軍志願兵身體検査規則ニ依ル

屯田兵志願者身體検査醫官ハ検査場最寄衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシム之カ爲メ大隊區司令官ハ豫メ検査日割及検査場ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ軍醫ノ派遣ヲ請求スルモノトス

前項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受ケルモノトス

第十三條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ直ニ家族（成年以上ノ者）ト共ニ第七書式ノ誓文書ヲ作り市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出スヘシ

前項ノ誓文書ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ取纏メ屯田兵司令官ニ送附スルモノトス

第十四條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ支度料旅費日當及運搬料ハ屯田兵司令部ヨリ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附スヘシ

大隊區司令部又ハ警備隊區司令部前項諸費ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十五條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ニシテ移住前戸主トナラサル者若クハ第十一條ニ該當シ又ハ失踪死亡等ノ事故ヲ生シタルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其採用ヲ取消シ豫

備員ヲ以テ之ヲ補充シ其旨ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ但其採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及運搬料支給後ニ係ルトキハ之ヲ返納セシムヘシ

第十六條 疾病其他正當ノ事故ニ由リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ定メ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ戸主ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ移住ノ猶豫ヲ願出ヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ就キ旅費日當ヲ受領シ直ニ出發スヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ前項ノ許可ヲナストキハ其旨ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ

第十七條 臨時屯田兵ノ缺員ヲ補充スルノ必要アルトキハ屯田兵服役者ノ家族中男子ニシテ分籍ヲ志願スル者ノ内ヨリ採用スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ在テハ本規則第十條乃至第十三條ノ例ニ準據ス

第十八條 移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以内トシ一箇ノ重量ハ九貫目以内トス但左ニ掲クル物件ハ携帯スルヲ許サス

一 長持若クハ之ニ等シキ體積ノモノ

二 大形ノ箆筒若クハ之ニ類スルモノ

三 漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類

四 齋若クハ白類

五 危險物

六 以上掲クルモノノ外取扱ノ困難ナルモノ

附則

第十九條 本令施行期限以前從前ノ規定ニ依リ願書ヲ府縣廳ニ差出シタルモノハ之ヲ受理ス



第四書式

家族身體證明書

一 父 某 體格強壯ニシテ勞働ニ堪ユ○何歳ノ時何病ニ罹リシコトアリ  
 一 妻 某 體格稍弱○幼時ヨリ大患ニ罹リシコトナシト雖モ四年來歇斯の  
 一 弟 某 體格強壯○生來大患ニ罹リシコトナシ○本月何日來肺膿膜炎ニ罹  
 右診査ノ上及證明候也  
 (以下前例ニ倣フ)  
 年號月日 住所族籍 姓名 名印  
 右之通ニ候也

(養子ナレハ)何年何月入籍 何男(何女)養子女 某  
 陸海軍現役兵海軍豫後備兵 同上  
 ナレハ何年何月何日何役満期 兄弟(姉)妹 某  
 同上  
 同上  
 右之通ニ候也  
 年號月日 本人 姓名 名印  
 右取調候處相違無之候也  
 年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓名 名印

第五書式

身元證明書

一 本書ノ家族ハ十五歳以上六十歳未満ノ者ニ限ル  
 一 身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ(身代限ノ  
 處分ヲ受ケシモ既ニ負債ノ辨償ヲ了ル)(家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケシ  
 モ既ニ復権ヲ得タリ)  
 一 現今負債ナシ(現今裁許ノ負債アリト雖モ移住前ニ辨償シ得ル見込ナリ)  
 一 陸海軍現役兵海軍豫備兵後備兵ニ非ラス  
 一 禁錮ノ刑ニ處セラレタルコトナシ  
 一 品行方正  
 一 召集區域内ニ本籍ヲ定メ出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ  
 一 入籍後出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ(養子ナレハ)  
 一 家族中禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ノ有無(其何々ノ罪ニ由リ何年月日間何  
 等刑中)  
 右之通ニ候也  
 年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓名 名印

第六書式

屯田兵志願者連名簿

產地	住所	族籍	家族人員	誕生	姓名
			大 中 小		

何縣何市	何縣何市	士族	三	〇	何年何月何日	月主	何
何縣何市	何縣何市	平民	四	一	何年何月何日	某二男	何
何縣何市	何縣何市					某	某

一 家族人員ノ區畫中大ハ十五歳以上六十歳未満ノ者ヲ記シ中ハ六十歳以上及七歳以上十五歳未満ノ者ヲ記シ小ハ七歳未満ノ者ヲ記スヘシ  
 一 志願者月主ニ非ルトキハ姓名ノ下ニ月主ノ續柄(某子弟等)ヲ記スヘシ  
 第七書式 用紙並透紙

誓文

今般何某也田兵ニ御採用相成候ニ付テハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ誓テ兵農ニ從事可仕且服役中ハ決シテ自ラ免役ヲ請願致シ候等ノ儀仕間敷尙ホ左ノ條々堅ク相守リ聊カ違背不仕候仍テ家族連署誓文如件  
 一 服役中ハ年齢若クハ死亡其他ノ事故ニ由リ免役ト爲ルトキハ子弟ノキトキナハ子ニ於テ家名相續致シ本人ノ服役期間兵役ニ服シ可申事  
 二 月主ハ家族ヲ訓戒誘導シ家族ハ月主ヲ輔ケ一家ノ榮務ニ從事シ特ニ月主出務ノ間ハ家族中ノ年長者ニ於テ一切ノ取締ヲ爲シ月主ヲシテ内顧ノ憂ナカラシムル様可致事  
 三 官給ノ土地ヲ墾成セサル間ハ一意農業ニ從事シ許可ヲ得スシテ他所ニ寄寓シ或ハ他ノ事業ニ從事スル等ノコト致ス間敷事  
 四 時々ノ御達致ニ則旨等ハ家族ニ至ルマテ嚴重ニ遵守可仕事  
 年 月 日

本人 何 某 印  
 同人父 何 某 印  
 同人母 何 某 印(母印)

第八書式

検査成績表		何大隊區(警備隊區)	
住所	職業	兵役年	等位
何那何村	農	甲(乙)	五尺二寸
			上申(下不)
			(初)
			何 某

一 職業ニ兼業アル者ハ之ヲ併セ記スヘシ  
 二 年齢ハ召集年ノ四月一日ヲ以テ計算スヘシ  
 三 教育ノ程度ハ高等小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ上トシ尋常小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ中トシ簡易ノ算筆ヲ爲シ得ル者ヲ下トシ全ク之ヲ能クセザル者ヲ不ト記スヘシ  
 四 参考事項ニハ本表ニ例ヲ示スノ外町村中名望アル者又ハ擧黨ニ指彈セラル、者其他召集上参考トナルベキ事ノト認ムル事項ヲ記スヘシ  
 第九書式

里程表		何大隊區(警備隊區)	
住所	集各地	住所ヨリ集各地ニ至ル經路	同上里程
何那何村	地	道通	何十何里
			何
			某





第五條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗主事ヨリ及第證書ヲ與フヘシ  
及第證書ニハ試驗主事署名スヘシ

(參照)

內務省令第三號藥劑師試驗規則(明治二十二年三月二十七日)抄錄  
第五條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗主事者ヨリ試驗委員ト連署シタル及第證書ヲ與フヘシ

○遞信省令第四號

諸外國郵便爲替中效用期限經過ノ爲メ本邦ニ返送シ來リタルモノハ到著ノ日ヨリ起算シ一箇月以  
內ニ其金額ヲ拂戻スヘシ其拂戻ヲ爲スコト能ハサルモノハ郵便條例第四百四十六條及第四百四十七條  
ノ規定ニ準ス

明治二十七年五月二十五日

遞信大臣 伯耆黒田清隆

(參照)

第五十九號布告郵便條例(明治十五年十二月十六日)抄錄  
第四百四十六條 效用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ郵便爲替貯金管理所ニ納付シ其替換ヲ請求スヘシ  
第四百四十七條 爲替證書ノ效用ヲ失ヒタル日ヨリ二箇年以内ニ其替換ヲ請求セサルトキハ郵便爲替貯金管理所長新聞紙ヲ  
以テ公告スヘシ  
其公告ノ日ヨリ三箇年以内ニ爲替證書ノ替換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料トシテ徵收スヘシ  
其公告ノ日ヨリ三箇年ヲ過ルモ尙ホ其爲替證書ノ替換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ没入スヘシ

○陸軍省令第七號

陸軍獸醫部士官候補生及農科大學依託學生採用並免除規則左ノ通定ム

明治二十七年五月二十八日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

第一條 農科大學依託學生ハ陸軍省軍務局長ヲシテ帝國大學總長ニ協議セシメ志願者ヲ召募ス

農科大學獸醫學科卒業生ヨリ獸醫部士官候補生ヲ召募スルトキハ其時々之ヲ告達ス  
一年志願兵ヨリ獸醫部士官候補生ヲ召募スルトキハ軍務局長ヲシテ其要員ヲ師團長ニ移牒セシ  
メ師團長之ヲ部隊ニ告達ス

第二條 帝國大學農科大學獸醫學科學生ニシテ依託學生ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書及戶籍詳細  
書ヲ添ヘ帝國大學總長ヲ經テ陸軍省軍務局長ニ差出スヘシ軍務局長ハ軍醫ヲシテ身體ヲ検査セ  
シメ適當ノ者ニ依託學生ヲ命ス該學生卒業スルトキハ帝國大學總長其卒業成績ヲ軍務局長ニ  
通知ス軍務局長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ經テ獸醫部士官候補生ヲ命シ陸軍獸醫學校ニ通學セシム  
ヘシ

帝國大學農科大學獸醫學科卒業生ニシテ獸醫部士官候補生ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書卒業證  
書寫戶籍詳細書ヲ添ヘ陸軍省軍務局長ニ差出スヘシ軍務局長ハ軍醫ヲシテ身體ヲ検査セシメ且  
帝國大學總長ニ照會シ本人在校中學校ノ成績性質品行ノ證明書ヲ得陸軍大臣ノ認可ヲ經テ獸醫  
部士官候補生ヲ命シ陸軍獸醫學校ニ通學セシムヘシ

一年志願兵ヨリ獸醫部士官候補生ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書戶籍詳細書卒業證書寫ヲ添ヘ之  
ヲ所屬部隊長ニ出サシメ部隊長ハ本人ノ性質品行ニ係ル意見書ヲ調製シ本人ノ書類ニ添ヘ當該  
師團獸醫長ニ移ス獸醫長ハ更ラニ本人ノ學術ニ關スル意見書ヲ調製シ他ノ書類ヲ添ヘ軍務局長  
ニ進達ス軍務局長ハ其書類ニ就キ適當ノ者ヲ選拔シ陸軍大臣ノ認可ヲ經テ獸醫部士官候補生ヲ  
命シ陸軍獸醫學校ニ通學セシムヘシ

第三條 左ニ掲クル者ハ獸醫部士官候補生及農科大學依託學生ニ採用スルコトヲ得ス

- 一 有妻ノ者
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘ

サル者

第四條 獸醫部士官候補生在隊若クハ陸軍獸醫學校在校中陸軍獸醫部現役士官補充條例第九條ニ該ル者アルトキハ隊長若クハ校長書面ヲ以テ軍務局長ニ具申スヘシ但隊長ノ具申書ニハ師團獸醫長連署スルヲ要ス

第五條 農科大學依託學生ハ帝國大學總長ノ監督ニ屬シ大學一般ノ規定ニ從ヒ修學セシム

第六條 農科大學依託學生修學中傷病疾病ノ爲メ學業ニ堪ヘサル者アルトキハ帝國大學總長其狀況ヲ陸軍省軍務局長ニ通牒シ軍務局長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ經テ免除ノ處分ヲナスモノトス

第七條 農科大學依託學生修學中品行不良學業懈怠若クハ規則違反ノ故ヲ以テ帝國大學總長ニ於テ退學ノ處分ヲナストキハ之ヲ陸軍省軍務局長ニ通牒シ軍務局長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ經テ免除ノ處分ヲナスモノトス

第八條 獸醫部士官候補生並農科大學依託學生志願者ノ願書履歷書戸籍明細書々式ハ左ノ如シ

願書 其一 農科大學々生ノ分

農科大學獸醫學科第何年生ニ在候處陸軍獸醫部農科大學依託學生志願ニ付御検査ノ上御採用被下度就テハ勿論自己ノ情願ヲ以テ免除ノ儀出願致間敷且本人身上ニ關スルコトハ身元引請人ニ於テ萬事引請可申候依テ別紙履歷書戸籍明細書相添ヘ身元引請人連署ヲ以テ此段相願候也

明治何年何月何日

何府(縣)何族(平民)  
現在所東京府何區(郡)何町(村)番地  
本人 姓 名 印  
何府(縣)何族(平民)  
東京府何區(郡)何町(村)番地住(寄留)  
身元引請人 姓 名 印  
(身元引請人ハ現住地ノ在籍又ハ寄留)

右身元引請人ハ當區(郡)内ニ住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

陸軍省軍務局長姓名殿  
願書 其二 農科大學獸醫學科卒業生ノ分

陸軍獸醫部士官候補生志願ニ付御検査ノ上御採用被下度就テハ勿論自己ノ情願ヲ以テ免除ノ儀出願致間敷且本人身上ニ關スルコトハ身元引請人ニ於テ萬事引請可申候依テ別紙履歷書戸籍明細書卒業證書相添ヘ身元引請人連署ヲ以テ此段相願候也

明治何年何月何日

何府(縣)何族(平民)  
現在所東京府何區(郡)何町(村)番地  
本人 姓 名 印  
何府(縣)何族(平民)  
東京府何區(郡)何町(村)番地住(寄留)  
身元引請人 姓 名 印  
(身元引請人ハ現住地ノ在籍又ハ寄留  
ニシテ公民タル者ニ限ル  
身元引請人ノ身上ニ異動アルトキハ  
相當ノ繼續者ヲ定ムヘシ)  
何區(郡)長 姓 名 印

陸軍省軍務局長姓名殿

右身元引請人ハ當區(郡)内ニ住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也



○陸軍省令第八號

明治二十一年陸軍省令第二十五號陸軍獸醫部講習生規則ヲ廢止ス

明治二十七年六月六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令第九號

新聞紙條例第二十二條ニ依リ當分ノ内軍隊ノ進退及軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙雜誌ニ記載スルコトヲ禁ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十七年六月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第三號

新聞紙條例第二十二條ニ依リ當分ノ内軍艦軍隊ノ進退及軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙雜誌ニ記載スルコトヲ禁ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十七年六月七日

海軍大臣伯爵西郷從道

〔參照〕陸軍省令第九號  
海軍省令第三號

勅令第七十五號新聞紙條例(明治二十年十二月二十九日官報)抄錄  
第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退及ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

○大藏省令第十號

明治二十一年大藏省令第九號醬油稅則施行細則中第二條ヲ削除ス

明治二十七年六月八日

大藏大臣渡邊國武

〔參照〕

大藏省令第九號醬油稅則施行細則(明治二十一年八月三日)抄錄  
第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其願取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

○司法省令第四號

明治二十六年六月 司法省令第十號登記管轄區域中左ノ通改定ス

- 一 高松地方裁判所管内高松區裁判所由佐出張所管轄大野村ヲ百相出張所ノ管轄トス
- 一 大分地方裁判所管内杵築區裁判所管轄奈狩江村 大字横城、奈多ヲ瀬戸田出張所ノ管轄トス
- 一 福島地方裁判所管内福島區裁判所桑折出張所管轄保原町ヲ掛田出張所ノ管轄トシ小濱出張所管轄石井村ヲ二本松出張所ノ管轄トシ白岩村 大字白岩、長屋、松澤ヲ本宮出張所ノ管轄トス
- 中村區裁判所原町出張所管轄上真野村 大字上枌窪、枌窪、御山ヲ同區裁判所ノ管轄トス

明治二十七年六月八日 司法大臣芳川顯正

○司法省令第五號

- 一 安濃津地方裁判所管内安濃津區裁判所松ヶ崎出張所ヲ中原村ニ移シ中原出張所ト改稱ス
- 一 山口地方裁判所管内柳井津區裁判所呼阪出張所ヲ三丘村ニ移シ安田出張所ト改稱ス

明治二十七年六月八日 司法大臣芳川顯正

○陸軍省令第十號

明治二十七年陸軍省令第九號禁スノ下左ノ二十三字ヲ加フ  
明治二十七年六月十一日 陸軍大臣伯爵大山 巖

但豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

○海軍省令第四號

明治二十七年海軍省令第三號禁スノ下左ノ二十三字ヲ加フ  
明治二十七年六月十一日 海軍大臣伯爵西郷從道

但豫メ海軍大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

○大藏省令第十一號

本年法律第二十號施行手續左ノ通之ヲ定ム

明治二十七年六月十三日

大藏大臣渡邊國武

第一條 法律第二十號第三條ニ依リ給與ヲ出願セントスルモノハ其認定書證明書ト共ニ願書ヲ本籍地ノ道廳府縣ヘ差出スヘシ  
但願書ニハ收祿當時ノ管轄廳名ヲ記入スヘシ  
出願者ニシテ家名繼承人タルトキハ戶籍上ノ證明書ヲ本籍地ノ市町村長若クハ區戶長ヨリ申受ケ之ヲ添付スヘシ

第二條 道廳府縣ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ左ノ各項ニ依リテ調査シ該法律第一條第二條ニ基キ別記書式ニ依リ給與金額任譯書ヲ製シ願書及附屬書トモ之ヲ大藏大臣ヘ差出スヘシ

- 一 法律第二條但書ニ該當スルモノハ收祿ノ當時實際給與ヲ受ケタル祿高ヲ認ムルニ足ルヘキ舊記其他ノ參考書類ニ就キ之カ當否ヲ調査スヘシ
- 二 明治八年九月太政官第三百二十八號布告實施以前ノ收祿ニ係ルモノハ道廳府縣ニ保存スル士族卒祿高取調帳副本ニ就キ其祿高ノ當否ヲ調査スヘシ
- 三 前項布告實施後明治九年八月第八號布告實施以前ノ收祿ニ係ルモノハ地方廳ニ保存スル金祿調帳ニ就キ其當否ヲ調査スヘシ

(別記)

法律第二十號特別給與金任譯書式

元 祿 高	金 祿 高	石代相場	種 類	公債證書額	舊管轄	出願人姓名
一五〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇	五〇〇〇	高 類	六四〇〇〇〇	府 名	某
			永 世		府 何	



第十五條第二項

諸學校學生及要塞砲兵幹部練習所練習員野外作業又ハ學術上ニ就テ實地研究ノ爲メ出張セシムルトキハ出發當日ヨリ歸著當日迄其日數ニ應シ甲表ノ金額ヲ給ス若シ舟車馬ヲ要スルトキハ實費支辨ス其作業ニ係ルモノハ總テ演習費ニ屬ス

○司法省令第六號

本年法律第二十號發布ニ付キ犯罪ノ認定及收祿ノ證明ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム  
明治二十七年六月十三日 司法大臣芳川顯正

第一條 本年法律第二十號第三條ニ記載シタル事務引繼ヲ受ケタル官廳ハ處刑ヲ宣告シタル官廳カ管轄セシ地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ其支部トス  
司法省佐賀秋其他ノ臨時裁判所ノ宣告ニ係ルモノニ付テハ大審院ヲ以テ事務引繼ヲ受ケタル官廳トス

第二條 裁判所ニ於テ犯罪ノ認定及收祿ノ證明ニ付請求ヲ受ケタルトキハ訴訟記録ニ依リ之ヲ調査シ認定及證明ヲ與フ可シ

認定及證明書ニハ受刑者ノ族籍氏名認定及證明ノ年月日及裁判所名ヲ記載シテ廳印ヲ捺ス可シ  
認定及證明ヲ與ヘサルトキハ其旨ヲ請求者ニ告知ス可シ

第三條 法律第二十號第三條但書ニ記載シタル期限後ノ請求ニ付テハ認定及證明ヲ與フ可ラス

第四條 第一條ニ記載シタル裁判所ニ於テ訴訟記録ヲ保存セサルトキハ之ヲ保存スル裁判所ニ認定及證明ノ請求書ヲ移送シ其旨ヲ請求者ニ告知ス可シ  
移送ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ前二條ニ從ヒ處分ス可シ

○大藏省令第十二號

明治二十三年二月 大藏省令第三號國稅徵收法施行細則左ノ通改正ス  
明治二十七年六月十四日 大藏大臣渡邊國武

國稅徵收法施行細則

大藏大臣渡邊國武

第一條 國稅徵收法第八條ニ依リ市町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號第二號様式ニ依リ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第三號様式ニ依ルヘシ

第二條 府縣知事ハ徵稅令書ヲ收入官吏ニ送付シ收入官吏ハ收入簿及徵稅簿ノ各調定濟額欄内ヘ其金額ヲ記入シ徵稅令書ハ直チニ市町村長又ハ各納稅人ニ交付スヘシ

第三條 府縣知事ハ徵稅令書發付ノ後納期以前ニ於テ其市町村ノ納額ニ異動ヲ生シタルトキハ彙キノ徵稅令書ヲ更正スヘシ  
市町村長ハ徵稅傳令書發付ノ後納期以前ニ於テ各納稅人又ハ納額ニ異動ヲ生シタルトキハ彙キノ徵稅傳令書ヲ更正スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ税金ヲ金庫ニ納付スルトキハ第四號様式ノ納付書ヲ添付スヘシ

第五條 各納稅人ニ於テ税金ヲ金庫ニ納付スルトキハ徵稅令書ヲ添付スヘシ

第六條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ收入簿現金出納簿及徵稅簿ニ其金額ヲ記入シ出納官吏現金取扱規則第十五條第十六條ニ依リ金庫ニ拂込ムヘシ

第七條 收入官吏ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ税金領收濟ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ收入簿及徵稅簿各收入濟額欄内ニ其金額ヲ記入スヘシ

第八條 府縣知事ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ收入官吏ノ拂込ニ係ル税金領收濟ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適宜帳簿ヲ設ケテ其金額ヲ記入シ置クヘシ

第九條 徵收法第六條第二項ニ依リ税金ノ徵收猶豫ヲ請ハントスル者ハ被害ノ實況ヲ詳具シ府縣知事ニ願出ヘシ

前項ノ願出アリタルトキハ府縣知事之ヲ調査シ徵收ノ猶豫ヲ與フヘキモノト認ムルトキハ大藏大臣ニ稟申スヘシ

第十條 分任收入官吏ハ收入簿及徵稅簿ニ依リ明治二十六年大藏省令第三十二號第四號書式ニ準シタル收入報告書及本則附屬様式第五號ノ納期別内譯表ヲ調製シ歲入金突合表ヲ添ヘ翌月五日

迄ニ其地ヲ差立主任收入官吏ニ送付スヘシ  
 第十一條 主任收入官吏ハ分任收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ依リ收入簿ヘ其金額ヲ記入シ更ニ之ヲ總計シタル收入報告書及納期別内譯表ヲ調製シ歳入金月計對照表ヲ添ヘ府縣知事ヲ經テ翌月十五日迄ニ其地ヲ差立大藏省ヘ送付スヘシ  
 第十二條 收入官吏ハ第六號第七號様式ノ徵稅簿第八號様式ノ繰越額整理簿ヲ備ヘ調定濟額收入濟額收入未濟額缺損額及繰越額等ヲ記載シ之ヲ整理スヘシ

第一號様式  
 用紙適宜 縦四寸五分 横三寸三分

徵 稅 令 書

第「何」號「某」	年	度	「何」郡市何町村長「納
經 常 租	稅「地 租」	「第何期分」	明治「何」年「何」月「何」日限
大藏省主管「何」府 縣			
主任收入官吏官氏名所屬 分任收入官吏官氏名			
「金」何程 「烟」 租			
「金」何程 「郡村宅地租」			
「金」何程 「雜地租」			
右納期限後三日以内ニ「何」々「金庫」ヘ納付スヘシ			
明治「何」年「何」月「何」日			
府縣之印			
「何」府縣知事氏名			

第二號様式

用紙寸法 同上

徵 稅 令 書

第「何」號「某」	年	度	「何」郡市何町村長「納
經 常 租	稅「菓 子 稅」	「第何期分」	明治「何」年「何」月「何」日限
大藏省主管「何」府 縣			
主任收入官吏官氏名所屬 分任收入官吏官氏名			
「金」何程 「但製造稅」			
「金」何程 「何」ノ 雜			
內金「何程」 「何」ノ 雜			
金「何程」 「何」ノ 雜			
右納期限後三日以内ニ「何」々「金庫」ヘ納付スヘシ			
明治「何」年「何」月「何」日			
府縣之印			
「何」府縣知事氏名			

「備考」  
 「領收證書及通知書用紙」ノ納入金額納入年度科目等ハ總テ徵稅令書發行總ニ於テ記入ス  
 「其合計ヲ記入シ一人別ノ納稅額ヲ別紙ニ記載添付スヘシ」



第三號樣式

用紙適宜 縱四寸五分ノモノ三枚綴紙

徵 稅 令 書

第「何」號	「某」年	度	「何」郡市	「何」町村	「何」某納												
經 常 租	稅	酒 造 稅	第 何 期	分													
大藏省主管「何」府 縣																	
主任收入官吏官氏名所屬 分任收入官吏官氏名扱																	
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(金庫)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> </tr> </table>						(金庫)	(金)	(金)	(金)	元	元	元	元	印	印	印	印
(金庫)	(金)	(金)	(金)														
元	元	元	元														
印	印	印	印														
「金、何程」 「醸造酒稅」																	
「金、何程」 「蒸溜酒稅」																	
「金、何程」 「再製酒稅」																	
右「何」年「何」月「何」日限「何」々「金庫」へ納付スヘシ																	
明治「何」年「何」月「何」日																	
府縣廳 之印																	
「何」府縣知事氏名																	

領 收 證

第「何」號	「某」年	度	「何」郡市	「何」町村	「何」某納												
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(金庫)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> </tr> </table>						(金庫)	(金)	(金)	(金)	元	元	元	元	印	印	印	印
(金庫)	(金)	(金)	(金)														
元	元	元	元														
印	印	印	印														
「金、何程」 「醸造酒稅」																	
「金、何程」 「蒸溜酒稅」																	
「金、何程」 「再製酒稅」																	
取扱主任 之印																	

右領收候也

明治「何」年「何」月「何」日

「何」地金庫 (印)

通 知 書

第「何」號	「某」年	度	「何」郡市	「何」町村	「何」某納												
經 常 租	稅	酒 造 稅	第 何 期	分													
大藏省主管「何」府 縣																	
主任收入官吏官氏名所屬 分任收入官吏官氏名扱																	
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(金庫)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> </tr> </table>						(金庫)	(金)	(金)	(金)	元	元	元	元	印	印	印	印
(金庫)	(金)	(金)	(金)														
元	元	元	元														
印	印	印	印														
「金、何程」 「醸造酒稅」																	
「金、何程」 「蒸溜酒稅」																	
「金、何程」 「再製酒稅」																	
取扱主任 之印																	

右領收濟ニ付通知候也

明治「何」年「何」月「何」日

「何」地金庫 (印)

第四號樣式

用紙適宜 縱四寸五分ノモノ三枚綴紙

納 付 書

第「何」號	「某」年	度	「何」郡市	「何」町村	「何」某納												
經 常 租	稅	酒 造 稅	第 何 期	分													
大藏省主管「何」府 縣																	
主任收入官吏官氏名所屬 分任收入官吏官氏名扱																	
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(金庫)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> <td style="text-align: center;">(金)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> <td style="text-align: center;">元</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">印</td> </tr> </table>						(金庫)	(金)	(金)	(金)	元	元	元	元	印	印	印	印
(金庫)	(金)	(金)	(金)														
元	元	元	元														
印	印	印	印														
「金、何程」 「醸造酒稅」																	
「金、何程」 「蒸溜酒稅」																	
「金、何程」 「再製酒稅」																	
取扱主任 之印																	

書

右納付候也

明治何年何月何日

何郡市何町村長氏名

「某」年

度「何」郡市「何」町村長納

徵稅令書第「何」號ノ「分」(金何程ノ内)

「金」何程「畑」租

「金」何程「郡村宅地租」

「金」何程「雜地租」

右領收候也

明治何年何月何日

何地金庫



「某」年 度「何」郡市「何」町村長納

經常租

稅地租

租「第何期分」

大藏省主管

何府縣何地收稅署

徵稅令書第「何」號ノ「分」(金何程ノ内)

「金」何程「畑」租

「金」何程「郡村宅地租」

「金」何程「雜地租」



書

右領收濟ニ付通知候也

明治何年何月何日

主任收入官吏官氏名宛

何地金庫

第五號樣式

「備考」  
 「摘要ノ區ニハ稅目及過年度繰越等ノ區別ヲ掲クヘシ」  
 「納期別ノ區ニハ各納期隨時收入及繰越ニ係ル元年度ヲ掲クヘシ」  
 「調定額以下ノ三區ハ收入報告書調定額收入濟額缺損額ノ本月分ノ金額ヲ掲クヘシ」  
 「過年度ニ屬スルモノハ賦課洩追込ト繰越額收入トヲ分チ賦課洩ハ其摘要ノ區ニ賦課洩何租ト記シ納期別ノ區ニ元年度ヲ掲クヘシ」  
 「調定外誤納科目金員ノ増減等總テ收入報告書本月分ノ異動ニ係ルモノハ亦々本表ヘモ之ヲ記入スヘシ」

年度分内譯表		
調定額	收入額	缺損額
0	250 0	0
0	0	100 0
1,566 00 0	0	0
8 00 0	300 0	0
0	100 0	0
1,569 00 0	6 50 0	100 0
何府縣何々收入官吏官氏名印		

明治何年何月		納期別
田 如何何	租 租々々	三期 收入
		第二期 随時

- 記帳凡例
- 一 收入官吏ニ於テ徵稅令書ノ送達ヲ受タルトキハ其納額ヲ一市町村毎ニ第六號様式ノ帳簿ヘ①印ノ如ク記帳シ其増額ハ②印ノ如ク記帳シ其減額ハ③印ノ如ク記帳スヘシ  
但調定外誤納アリタルトキハ摘要ノ區ヘ其事由ヲ掲ケ調定額ノ區ヘ④印ノ如ク其金額ヲ記入シ置クヲ要ス
  - 二 金庫ヨリ稅金領收濟ノ通知ヲ受タルトキハ調定額ニ照合シ⑤印ノ如ク記帳シ滞納處分ニヨリ現金ヲ收入セシトキハ⑥印ノ如ク記帳シ缺損ヲ生セシトキハ⑦印ノ如ク記帳スルモノトス  
隨時收入ニ係ル徵稅令書ノ送達ヲ受ケタルトキハ第七號様式ノ帳簿ヘ⑧印ノ如ク記帳シ金庫ヨリ稅金領收濟ノ通知ヲ受ケ若クハ滞納處分ニ依リ現金ヲ收入セシトキハ⑨印ノ如ク其缺損ニ屬セシトキハ⑩印ノ如ク記帳スルモノトス
  - 三 但市町村ニ對シ發スル徵稅令書ニシテ其調定額ニ對シ數回ニ分納スヘキモノアル場合ニハ便宜第六號様式ニ準シタル帳簿ヲ調製スルコトヲ得
  - 四 第六號様式ノ帳簿ハ納期毎ニ合計ノ口取ヲナシ第七號様式ノ帳簿ハ六箇月毎ニ同シク口取ヲナシ記入スルモノトス
  - 五 前年度繰越ニ係ル稅金ハ別冊ニ調製整理スルヲ要ス

第六號様式

何年度烟租  
徵稅簿

(此帳簿ハ日限リ調製シ毎納期ノ坐ヲ區分スヘシ)

何地收稅署

年月日	摘要	調定額	收入額	缺損額	未濟額
八月十日	徵稅令書ノ送達ヲ受ク	① 二五〇,〇〇〇〇			二五〇,〇〇〇〇
九月二十五日	領收濟通知書ヲ受ク		② 七〇〇,〇〇〇〇		
同月同日	増額ノ分徵稅令書ノ送達ヲ受ク	③ 一〇〇,〇〇〇〇			一,七〇〇,〇〇〇
九月三十日	領收濟通知書ヲ受ク		④ 一,六〇〇,〇〇〇〇		三〇〇,〇〇〇〇
十月一日	減額ノ分減額通知書ノ送達ヲ受ク	⑤ 一〇〇,〇〇〇〇			一〇〇,〇〇〇〇
十月三日	調定外誤納額	⑥ 一〇〇,〇〇〇〇			二〇〇,〇〇〇〇
十月十日	滞納處分ニヨリ收入		⑦ 一〇〇,〇〇〇〇		一〇〇,〇〇〇〇
十月二十日	滞納處分ノ未何々ニヨリ缺損			⑧ 一〇〇,〇〇〇〇	完結



摘要	目	元 年 度
<b>二十七年 度</b>		
何郡何村何某分何々ニヨリ徵收未済前年度ヨリ繰越	租 稅 稅 稅 稅 租	二十五年 度
何郡何村何某分	酒 業 酒 業	二十六年 度
何郡何村何ノ誰分何々ニヨリ 收入	草 造 草 造	二十七年 度
何々ニヨリ 欠損	田 酒 田 酒	二十八年 度
何々ニヨリ 收入	田 酒 田 酒	二十九年 度
二十八年度へ繰越		
<b>二十八 年 度</b>		
何郡何村何某分何々ニヨリ徵收未済前年度ヨリ繰越	租	二十五年 度
何々ニヨリ 收入	田	二十七年 度
前年度ヨリ繰越	田	二十八年 度
何々ニヨリ 收入	田	二十九年 度

二十八年度  
三十一日

年度ヲ締切り更  
ニ移ルヘシ  
ノ記入

年 月 日
明治二十七年四月 一日
九月 二日
十一月 三日
十二月 四日
二十八年三月 三十一日
明治二十八年四月 一日
五月 二日
九月 三日

○大藏省令第十三號

明治二十二年ハ大藏省令第十號特別輸出港規則施行細則左ノ通改正シ本年七月一日ヨリ施行ス

明治二十七年六月十四日

特別輸出港規則施行細則

大藏大臣渡邊國武

- 第一條 特別輸出港規則第二條ニ依リ外國船ノ雇入ヲ出願スル者ハ第一號書式ノ願書ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ
- 第二條 外國船雇入ノ期限ハ六箇月以内トス
- 第三條 二人以上共同シテ外國船ヲ雇入ントスルトキハ其雇入願書ニ各署名捺印シ又代人ナルトキハ雇主及代人ノ住所氏名ヲ詳記シ代人ノ捺印スヘシ但代人ナルトキハ其委任狀ヲ添フヘシ
- 第四條 雇入外國船仕出港ニ入港ノ期日切迫シ仕出港税關出張所ニ電報ヲ請ハントスル者ハ其入港日ヲ雇入願書ニ追記出願スヘシ
- 第五條 外國船雇入免狀ヲ亡失シタルトキハ直ニ其事由ヲ具シ大藏大臣ニ届出ヘシ
- 外國船雇入免狀ヲ亡失毀損シ若クハ免狀ニ記載ノ事項中變更ヲ生スルトキハ其再渡又ハ訂正ヲ大藏大臣ニ出願スルコトヲ得
- 前項ノ再渡願書ハ第二號書式ニ訂正願書ハ第三號書式ニ依ルヘシ
- 第六條 外國船雇入免狀ハ仕出港税關ニ差出シ其裏面ニ入出港年月日ノ記入及證明ヲ受クヘシ

第七條 外國船雇入ノ期限經過シ又ハ其使用ヲ了スルトキハ直ニ其雇入免狀ヲ返納スヘシ  
 雇入外國船使用前ニ解雇シタルトキ亦前項ニ同シ  
 第八條 雇入ヲ出願スル船舶他人ノ雇入中ニ係ルトキハ其雇入願書ヲ却下ス  
 第九條 雇入外國船特別輸出港ニ於テ船舶ニ對スル規則ニ違背スルトキハ直ニ雇入ノ許可ヲ取消シ其雇入免狀ヲ返納セシムヘシ  
 第十條 第五條第一項第六條及第七條ニ違背スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第一號(用紙美濃紙)

外國船雇入願

- 一 國名 何國
  - 一 船種 蒸汽又ハ帆走
  - 一 船名 何號(原簿用文字ヲ併記スヘシ)
  - 一 登簿噸數 何噸
  - 一 船長姓名 何之誰(原簿用文字ヲ併記スヘシ)
  - 一 仕出港 貨物ヲ輸出セントスル特別輸出港ノ名ヲ記スヘシ
  - 一 外國仕向港 何國何港
  - 一 碇泊港 現ニ本船ノ碇泊シアル港ノ名ヲ記スヘシ
  - 一 輸出品 輸出セントスル貨物ノ名ヲ記スヘシ
  - 一 雇入期日 何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ
- 右特別輸出港規則第二條ニ依リ雇入度候ニ付免狀御交付相成度此段相願候也

大藏大臣氏名殿

何處何市何町何番地  
 何會社長(若シキハ)  
 雇主 氏 名 印

第二號(用紙美濃紙)

外國船雇入免狀再渡願

何年何月何日御交付ノ何國船何號(原簿用文字ヲ併記スヘシ)雇入免狀何々(船名又ハ噸數)ニ由リ亡失(又ハ毀損)候ニ付右船何號雇入免狀再御交付相成度此段相願候也

何處何市何町何番地  
 何會社長(若シキハ)  
 雇主 氏 名 印

大藏大臣氏名殿

第三號(用紙美濃紙)

外國船雇入免狀訂正願

何年何月何日御交付ノ何國船何號(原簿用文字ヲ併記スヘシ)雇入免狀中何々(噸數又ハ噸數)ハ何々(噸數)ニ付何々ト御訂正相成度此段相願候也

何處何市何町何番地  
 何會社長(若シキハ)  
 雇主 氏 名 印

大藏大臣氏名殿

○文部省令第十二號

工業教員養成規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年六月十四日

文部大臣井上毅

工業教員養成規程

第一條 實業教育費國庫補助法第七條ニ基キ徒弟學校及工業補習學校教員ヲ養成スル爲ニ工業教員養成所ヲ置ク

工業教員養成所ハ東京工業學校長ヲシテ之ヲ管理セシム  
第二條 工業教員養成所ニ本科及速成科ヲ置キ本科生徒ノ定員ハ百名トシ速成科生徒ノ定員ハ四十名トス

第三條 本所生徒ニハ學資ヲ補給ス

第四條 本科ノ修業年限ハ二箇年トス但學校長ノ意見ニ依リ仍一箇年間補習セシムルコトヲ得  
速成科ノ修業年限ハ一箇年トス

第五條 本科ニ入ルヘキ生徒ハ年齢十七年以上ノ男子ニシテ尋常中學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

入學生ノ一部ハ地方長官ヲシテ之ヲ薦舉セシメ他ノ一部ハ競争試験ニ依ル  
速成科ニ入ルヘキ生徒ノ資格ハ文部大臣ノ許可ヲ經テ東京工業學校長之ヲ定ム

第六條 本科生徒ハ卒業ノ日ヨリ六箇年間文部大臣ノ指定スル學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス其ノ地方長官ノ薦舉ニ依ル者ハ地方長官ニ於テ指定スル學校教員ノ職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス但薦舉シタル地方ニ於テ就職スヘキ學校ナキトキハ文部大臣ニ於テ指定スヘシ

第七條 速成科生徒ハ卒業ノ日ヨリ二箇年間文部大臣ノ指定スル學校教員ノ職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス

第八條 半途退學ノ者又ハ卒業後第六條及第七條ニ定ムル義務ヲ盡サ、ル者ハ補給シタル學資ヲ償還スヘシ但文部大臣ハ學校長ノ具申ニ依リ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條 本規程ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

○文部省令第十三號  
尋常中學校實科規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年六月十五日

文部大臣 井上 毅

尋常中學校實科規程

第一條 明治二十七年文部省令第七號第四條ノ規定ニ依リ第四年級以上ニ於テ設クル所ノ實科ノ科目ハ倫理、國語及漢文、歴史、地理、數學、博物、物理及化學、實業要項、體操トス

前項ノ外隨意科トシテ簿記、習字、圖畫、測量、外國語ノ一科又ハ數科ヲ加フルコトヲ得  
第二條 地方ノ必要ニ從ヒ專ラ實業ニ就カントスル者ニ適切ナル教育ヲ施ス爲ニ第一年級ヨリ專ラ實科ヲ授クル所ノ尋常中學校ヲ設クルコトヲ得此場合ニ於テハ第一條ニ掲ケタル科目ニ依リ仍習字、圖畫ヲ必修科トスヘシ

第三條 前條ノ尋常中學校ハ實科中學校ト稱フルコトヲ得

第四條 實科ノ各學科及授業時數ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ  
學科ノ教授時數ハ體操及實習時間ヲ除キ每週二十七時ヲ越ユヘカラス

尋常中學校實科規程說明

一 本年文部省令第七號ハ其ノ第四條ヲ以テ既ニ尋常中學校第四年級以上ニ於テ分チテ實科ヲ設クルヲ得ルノ制ヲ定メタリ而シテ今ハ其ノ節目ヲ制定スルト同時ニ實科中學校即チ第一年級ヨリ實科ノ學科ヲ授クル所ノ尋常中學校ヲ設クルコトヲ得ルノ途ヲ開キ以テ將來益々實科ヲ匿クノ旨趣ヲ擴張シタリ此レ地方ノ情況ニ依リ諸種ノ就學生徒ニ便益ヲ與ヘ中學教育ノ普及ヲ圖ルノ主意ナリ

一 實科及實科中學校ノ科目ハ各地方ノ事情ニ應ジ實際ニ適切ナルヲ便トシ又地方ノ需要ニ伴ヒテ各別ニ發達セシムヘキモノナルヲ以テ各科目ノ課程ハ畫一ノ制ヲ定メス其ノ教授時數ハ最多ノ制限ヲ示スニ止リ之ヲ同型一律ニ規定スルヲ避ケタリ但本科ノ科目ト同一ナルモノ、課程ハ概ネ之ヲ準用スヘキモノトス

一 實科ノ教授法ハ普通ノ各科目ニ於テモ成ルヘク實業ニ近切ナル事項ヲ授ケ應用ノ感想ヲ誘起スルコトヲ勉メ殊ニ其ノ地方ノ製造産物ニ注意スヘシ

一 實科及實科中學校ニ於テ教授上注意スヘキハ青年生徒ノ天然ニ有スル所ノ事業ヲ嗜好スル其能ヲ發育セシメ將來ノ勤勞ニ從事スル思想ヲ養成シ又其ノ勤勞ヲシテ及ブタケ效果多カラシムル爲ニ必要ナル知識ヲ得シムルニ在リ故ニ實業要項ハ實業學校又ハ中學專修科ノ實業科ニ於ケルカ如ク專門ノ藝術ヲ實習ト俱ニ授クルノ旨ニ非ス地方ノ必要ニ應ジ農業商業工業ノ一科若クハ數科若クハ一科中ノ或ル部門ニ關シ選抜シタル要領ノ項目ニ依リ概括ノ知識ヲ授クルヲ以テ足レリトス

〔參照〕

文部省令第七號(明治二十七年三月一日)抄錄  
第四條 尋常中學校ニ於テハ實業ニ就カント欲スルモノニ適切ナル教育ヲ施ス爲ニ第四年級以上ニ於テ本科ノ外分テ實科ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣立學校ハ地方長官ニ於テ、郡市町村立又ハ私立學校ハ地方長官ヲ經テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○文部省令第十四號

實業教育費國庫補助法施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年六月二十日

文部大臣井上毅

實業教育費國庫補助法施行規則

第一條 實業教育費國庫補助法ニ依リ補助ヲ受ケントスルトキハ府縣立學校ニ在リテハ府縣會ノ議決ヲ經テ地方長官ニ於テ其ノ他ノ學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

- 一 學校ノ名稱位置
  - 二 學則(入學ノ程度、學科課程、教授日數、教科書ヲ用井ルトキハ其ノ書名)
  - 三 設備(校舍、校地、校具)
  - 四 生徒定員及現員
  - 五 職員履歷書
  - 六 經費豫算ノ細目並學校ノ諸收入
  - 七 學校設立以來ノ沿革及既往三箇年ノ收支計算
  - 八 農工商組合ニ係ルモノハ組合規約及其ノ沿革
- 新ニ學校ヲ設立セントスル場合ニ於テ未タ職員ヲ定メサル者ハ其ノ履歷書ヲ具スルヲ要セス設備ハ其ノ豫定書ヲ附スヘシ

第二條 補助ヲ受クヘキ學校ハ左ノ條件ニ依ル

- 一 明治二十三年十月三十日勅語ノ趣旨ニ基キ教育ノ精神ヲ誤ラサルコト
- 二 修業年限ハ二箇年以上タルコト
- 三 工業農業商業學校ノ每週教授時間ハ二十七時以上簡易農學校簡易商業學校徒弟學校實業補習學校ノ每週教授時間ハ十二時以上タルコト
- 四 工業農業商業學校ノ入學者ノ資格ハ尋常中學校第二級卒業又ハ修業年限四箇年ノ高等小學校卒業以上ニ於テ簡易農學校簡易商業學校徒弟學校實業補習學校ハ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムルコト
- 五 工業農業商業學校ハ生徒百名以上、徒弟學校及實業補習學校ハ五十名以上ヲ教授シ得ヘキ設備ヲ爲スコト
- 六 授業料ヲ徴收スル場合ニ於テ其ノ額及徴收方法ハ文部大臣ノ認可ヲ受クルコト
- 三條 補助ヲ受クル學校ノ經費豫算ハ每會計年度前三十日ヲ限リ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ功程及收支計算ハ每會計年度經過後六十日以内ニ文部大臣ニ報告スヘシ
- 四條 各學校ニ交付スル補助金ハ每會計年度豫算ヨリ其ノ學校ノ授業料及雜收入ヲ以テ支辨スルコトヲ得ル金額ヲ控除シタル經費ノ半額以内トス但學校ノ基本財産ヨリ生スル收入ハ控除スルノ限ニアラス
- 五條 監督官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ吏員ヲ派シテ補助ヲ受クル學校ノ帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ
- 六條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ凡テ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第一條ノ申請書ヲ進達スル場合ニ於テ地方長官ハ精査ノ上詳細ナル意見ヲ附シ併セテ其ノ地方實業ノ情況ヲ具申スヘシ
- 第七條 補助金交付ノ手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル



○外務省令第七號

明治二十六年勅令第二百十三號外交官及領事官試驗規則施行細則左ノ通相定ム  
明治二十七年六月二十二日

外交官及領事官試驗規則施行細則

外務大臣陸奥宗光

- 第一條 外交官及領事官試驗規則第四條ニ依リ差出スヘキ出願書及履歷書ハ別記甲號雛形及乙號雛形ニ依リ調製スヘシ
- 第二條 前條ノ出願書及履歷書ハ試驗期日十日前ニ差出スヘシ
- 第三條 受験者ニシテ試驗當日開試ノ時刻ニ出席セサル者ハ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 外交官及領事官試驗規則第八條ニ掲クル受験者ノ選擇科目ハ別ニ記載シ出願書ニ添ヘ差出スヘシ

現ニ受験者官廳へ奉職ノ者ハ所屬長官ノ認可證書ヲ要ス

第五條 外交官及領事官試驗規則第六條ニ依リ第二次試験ノ召集ヲ受ケサル者ハ第一次試験ニ合格セサルモノトス

第六條 外交官及領事官試驗規則第九條ニ依リ第二次口述試験ノ召集ヲ受ケサル者ハ第二次筆記試験ニ合格セサル者トス

(別記)

甲號雛形(用紙美濃紙但譯文用紙ハ西洋紙美濃紙ノ幅員ニ均シキモノ)

試驗願書

紙

姓 名  
生年 月 日  
満何年 何箇月

私儀外交官及領事官試験相受度候ニ付同規則第四條ニ掲クル書類相添此段奉願候也

(外交官及領事官試験規則第十條ニ依リ英、佛、獨語ノ外尚ホ他ノ外國語試験志願ノ者ハ其旨ヲ追書ニ記載スヘシ)  
年 月 日 本籍 現住所

乙號雛形(用紙美濃紙但譯文用紙ハ西洋紙美濃紙ノ幅員ニ均シキモノ)

履歷書

- 父 (何府縣華土族平民) (官位)何某(亡)
- 母 (同上) 何某(亡)女某(亡)
- 養父(同上) 何某(亡)
- 養母(同上) 何某(亡)女某(亡)
- 妻 (同上) 何某(亡)女某(亡)
- 子某(男女)
- 本籍(何府縣何國何郡何町村何番地)
- 現住地(同上)
- 學事(何年何月ヨリ何地何官公私立學校ニ入り何學科ヲ修業何年何月卒業其證書ヲハ)
- 職業(何年何月ヨリ何地何會社又ハ何某ニ雇ハレ何種何々ノ業務ニ従事シ何年何月解雇又ハ辭職)
- 任免(何年何月何官廳何官拜命何年何月増俸、轉官、辭職、免職ノ各別)
- 賞罰(賞狀寫及懲罰文寫)
- 右ノ通

(參照)

勅令第二百十三號外交官及領事官試驗規則(明治二十六年十一月二十四日官報)抄錄  
第四條 外交官及領事官試験ヲ受ケント欲スル者ハ其ノ出願書ニ履歷書及論文並ニ之ヲ英文、佛文又ハ獨逸文ニ翻譯シタル

モノヲ添ヘ之ヲ試験委員ニ差出スヘシ  
 前項ノ書類ハ總テ出願人ノ自筆タルヘシ  
 第六條 外交官及領事官試験ヲ分チテ第一次試験及第二次試験トス第一次試験ニ合格シタル者ニアラサレハ第二次試験ヲ受クルコトヲ得ス  
 第八條 第二次試験ハ左ノ科目ヲ用井テ之ヲ行フ

- 一 憲法
  - 二 行政法
  - 三 經濟學
  - 四 國際公法
  - 五 國際私法
- 以上ノ科目ハ試験ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス
- 一 刑法
  - 二 民法
  - 三 財政學
  - 四 商法
  - 五 刑事訴訟法
  - 六 民事訴訟法
  - 七 外交史

第九條 以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其ノ中ニ就キ豫メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試験ス  
 第十條 第二次試験ハ分チテ筆記試験及口述試験トス筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

○陸軍省令第十二號

明治二十七年法律第二十號發布ニ付軍衛ニ於テ處分シタル犯罪ノ認定及收祿ノ證明ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

明治二十七年六月二十二日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

第一條 明治二十七年法律第二十號第三條ニ記載シタル事務引繼ヲ受ケタル官廳ハ陸軍ニ在テハ當時處刑ヲ宣告シタル軍衛ノ事務ヲ承繼シタル師管軍法會議トス

第二條 軍法會議ニ於テ犯罪ノ認定及收祿ノ證明ニ付請求ヲ受ケタルトキハ訴訟記録ニ依リ之ヲ調査シ認定及證明ヲ與フヘシ  
 認定及證明書ニハ受刑者ノ族籍氏名認定及證明ノ年月日及軍法會議ノ名ヲ記載シ其會議ノ印ヲ捺スヘシ  
 認定及證明ヲ與ヘサルトキハ其旨ヲ請求者ニ告知スヘシ

第三條 法律第二十號第三條但書ニ記載シタル期限後ノ請求ニ付テハ認定及證明ヲ與フヘカラス  
 第四條 第一條ニ記載シタル軍法會議ニ於テ訴訟記録ヲ保存セサルトキハ之ヲ保存スル軍法會議ニ認定及證明ノ請求書ヲ移送シ其旨ヲ請求者ニ告知スヘシ  
 移送ヲ受ケタル軍法會議ニ於テハ前二條ニ從ヒ處分スヘシ

○海軍省令第五號

明治二十七年法律第二十號發布ニ付海軍法衛ニ於テ處分シタル犯罪ノ認定收祿ノ證明及其請求ニ關スル手續左ノ通定ム

明治二十七年六月二十六日

海軍大臣 伯爵 西郷 從道

第一條 明治二十七年法律第二十號第三條ニ記載シタル事務引繼ヲ受ケタル官廳ハ海軍ニ在テハ東京軍法會議トス

第二條 犯罪ノ認定及收祿ノ證明ヲ受ケントスル者ハ其請求書ニ左ノ事項ヲ記載シ本籍地ノ市町村長若クハ區戸長ノ戸籍上ノ證明書ヲ添ヘ且處刑ノ宣告又ハ收祿ニ關スル公文書等アルモノハ之ヲ添付スヘシ

一處刑ヲ宣告シタル軍衛 一受刑者受刑當時ノ族籍氏名

第二條 東京軍法會議ニ於テ犯罪ノ認定及收祿ノ證明ニ付請求ヲ受ケタルトキハ訴訟記録ニ依リ之ヲ調査シ認定及證明ヲ與フヘシ

認定及證明書ニハ受刑者ノ族籍氏名認定及證明ノ年月日及軍法會議ノ名ヲ記載シ、應印ヲ捺スヘシ  
認定及證明ヲ與ヘサルトキハ其旨ヲ請求者ニ告知スヘシ  
第四條 法律第二十號第三條但書ニ記載シタル期限後ノ請求ニ付テハ認定及證明ヲ與フヘカラス

○陸軍省令第十三號

明治二十二年陸軍省令第二號中割註「野戰砲兵」ノ下ニ「及工兵隊電信通信術卒業證書ヲ所持スル者」ノ十九字ヲ加フ

明治二十七年六月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

陸軍省令第二號(明治二十三年一月十一日)

陸軍豫備兵ノ定時演習召集ハ陸軍召集條例ニ依リ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集軍隊ヲ戰時定員ニ充足シ殘餘ノ者ハ召集不致候歲本年ヨリ在役第二年第四年ノ者ハ昭和三年ノ者ヲ召集ス但撥助演習ニ當リ兵員ノ補足ヲ要スル場合ハ其年級ニ拘ハラズ召集スルコトアルヘシ

○海軍省令第六號  
海軍豫備役後備役下士卒中寄留地又ハ乗組船舶ノ船籍港等ニ於テ召集ニ應セントスル者ノ願届手續左ノ通定ム

明治二十七年七月二日

海軍大臣伯爵西郷從道

一 豫備役及後備役下士卒他廳府縣ニ寄留スル者其ノ地ニ戶籍ヲ有スル者ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ與書證印ヲ受ケ豫メ本籍鎮守府海兵團長ニ願出其ノ許可ヲ受クヘシ但本項ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ寫ニ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ與書證印ヲ受ケ原籍地ノ町村長(町村制ヲ施行セサル地ハ戶長)ヲ經テ郡長ニ島嶼ハ島司ニ市制施行地ハ直ニ市長ニ北海道函館區及札幌區ハ直ニ區長ニ届出且寄留地郡長島司ニモ届出ツヘシ  
本項ノ許可ヲ得タル者其ノ寄留地若シ他鎮守府志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

一 豫備役及後備役下士卒海員トナリテ船舶乗組中ノ者ハ願ニ依リ其ノ船舶ノ船籍港若クハ平常運航ノ一港ニ戶籍ヲ有スル豫備役後備役下士卒ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應スルコトヲ得但其ノ願届ノ手續ハ前項ノ例ニ從フヘシ  
本項ノ場合ニ於テハ召集ノ令アリシトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ(陸上ニ在ル者ニシテ船舶所有者若クハ其ノ代理人等最モ良シ)本項ノ願書中ニ其ノ者ノ住所姓名ヲ記入シ其ノ者ノ捺印ヲ受クヘシ  
本項ノ許可ヲ得タル者其ノ召集ニ應スル港地若シ他鎮守府ノ志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ

通知スヘシ

○海軍省令第七號

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令左ノ通定ム

明治二十七年七月二日

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令

海軍大臣伯爵西郷從道

第一章 總則

第一條 海軍豫備役後備役下士卒臨時召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ鎮守府司令長官ヲシテ行ハシムルモノトス

第二條 臨時召集ハ時トシテ同時ニ全豫備役若クハ全後備役下士卒ヲ召集スルコトナク時ノ形勢ニ應シ所要ノ人員ノミヲ召集スルコトアルヘシ但此ノ場合ニ於テハ特ニ明治何年何月何日以後ニ現役ヲ離レタル者ヲ召集スヘキノ令アルモノトス

第三條 臨時召集地ハ常ニ各豫備役後備役下士卒ノ兵籍ヲ管スル鎮守府海兵團トス

第四條 臨時召集ニハ召集令狀ヲ發スルモノトス

第五條 臨時召集ノ發令アリタルトキハ各當事者ハ晝夜ヲ分タス其ノ事務ヲ處理スヘキモノトス

第二章 召集ニ關スル平常ノ準備

第六條 召集令狀<sup>第一式</sup>ハ其ノ封筒<sup>第二式</sup>及領收證<sup>第三式</sup>ト共ニ海兵團ニ於テ之ヲ調製シ豫メ之ヲ島廳郡區市役所ニ送附シ島廳郡區市役所ニ於テハ之ヲ海軍豫備役(後備役)下士卒(卒)名簿ニ照シ合セ其ノ異同ヲ確メ召集ノ發令アル迄之ヲ保管シ且豫備役後備役下士卒身上ニ異動アル毎ニ適當ノ訂正ヲ施スヘシ

第七條 海兵團ニ於テハ前條ノ召集令狀ノ外ニ尙ホ旅費交附時日證票<sup>第四式</sup>ヲ作り召集令狀ト共ニ

島廳郡區市役所ニ送附シ置クヘシ

旅費交附時日證票ハ實際ノ旅費ヲ交附シタル時日ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニシテ島司郡長及市ノ收稅署長ハ各自ニ旅費ヲ交附スルト同時ニ該票ニ其ノ月日時ヲ記入スヘキモノトス

第八條 豫備役後備役下士卒他ノ島郡區市ニ轉籍シタルトキ及海軍省令第六號ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ者ノ召集令狀及旅費交附時日證票等ハ其ノ都度速ニ之ヲ轉籍若クハ應召地ノ島廳郡區市役所ニ轉送スヘシ

第九條 北海道廳及各府縣ニ於テハ召集ニ應スル豫備役後備役下士卒休泊ノ爲メニ豫メ鎮守府ニ到ル沿道便宜ノ地ニ於テ海軍軍用旅舎ヲ選定シ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ但本條ノ旅舎ヲ選定スルハ約束ヲ以テ定ムルモノトス

第十條 豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參著スルトキ之ニ被服、食器ヲ給與シ私服ヲ格納シ補充隊ヲ編制シ又ハ直ニ兵員ヲ要スル艦船隊廳等ニ勤務ヲ命スル等ノ方法ハ豫メ鎮守府ニ於テ之ヲ定メ事ニ當テ混雜ノ憂ナキヲ期スヘシ

第十一條 臨時召集ニ關セル達文、通知書等<sup>第十三條第十條等參看</sup>ハ各當事者ニ於テ豫メ簡明ナル文案(電報案共)ヲ定メ且成ルヘク之ヲ關係ノ官廳役場等ニ通知シ置クヘシ

第十二條 島廳郡區市役所ニ於テハ管地内ニ在籍ノ豫備役若クハ後備役下士卒ノ人員、地形等ニ應シ召集令狀ヲ配達スルニ最モ便宜且迅速ナル方法ヲ豫定シ置クヘシ

第三章 召集手續

第十三條 豫備役若クハ後備役下士卒臨時召集ノ令アリタルトキハ鎮守府司令長官ハ之ヲ其ノ部下ニ達シ且同時ニ北海道廳長官、府縣知事、憲兵司令官<sup>東京外ニ於テハ憲兵隊長以下皆同</sup>、警視總監、大審院長、控

訴院長、地方裁判所長、檢事總長、檢事長及檢事正ニ通知スヘシ

第十四條 北海道廳長官、府縣知事ハ前條ノ通知ニ從ヒ之ヲ島司郡區市長及警察署長ニ達シ警視





様式第二

曲尺六寸二分

此召集令狀ノ配達ヲ受ケタルトキ名宛ノ本人犯罪失踪旅行寄留等ニテ家ニ在  
ラス二十四時以內ニ發足シテ召集ニ應ジシムル能ハサル者ハ家族親族若ク  
ハ召集通報人其事由ヲ詳記シ憲兵ニ報告セシムルハサレバ召集令狀ハ  
與書證印ヲ受ケ島司郡區市長ヲ經テ海軍團長ニ届出ツヘシ召集令狀ハ之レト  
スヘシ其召集令狀受領後逃亡セル者アルトキモ亦同シ  
何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地  
(何)備役

海軍(何官職) (姓 名) 殿

召集令狀在中

封筒ハ糊封スヘカラス

此處へ赤キ紙  
片ヲ貼附  
スシ

曲尺四寸

裏

表

(何) 鎮守府

様式第三

曲尺四寸

裁切線

領收證

一召集令狀 一通

右正ニ領收候也

明治(何)年(何)月(何)日午前

(何)備役

海軍(何官職)(姓名)印

召集令狀到着ノ時若シ本人不在ナルトキハ家族親族若クハ召集通  
報人ニ於テ之ヲ受取り空白ノ處へ署名捺印スヘシ

本領收證ハ封筒ノ下ニ貼附シアルモノトス

曲尺四寸

様式第四

旅費交附時日證書

(何)備役

海軍(何官職)(姓名)

右(何)月(何)日午前(何)時定規ノ旅費ヲ交附セ  
リ  
明治(何)年(何)月(何)日

署名

様式第五

警報

海軍豫備役(後備役)下士卒召集相成候事(何)年(何)月(何)日以後現役ヲ離レタル者ヲ召集スルノ令アリタルトキハ之ヲ明記スヘシ

明治(何)年(何)月(何)日

○海軍省令第八號  
海軍臨時召集旅費支出規程左ノ通定ム  
明治二十七年七月二日

海軍臨時召集旅費支出規程

海軍大臣伯倫西郷從道

第一條 海軍臨時召集旅費ハ島司郡長北海道函館區及札幌市長ニ於テ毎年三月一日現在スヘキ其ノ管内在住ノ海軍豫備後備ノ臨時應召員ヲ豫定シ之ニ要スル召集旅費ヲ計算シ召集旅費概算表ヲ作リ三月三十一日マテニ所轄鎮守府海兵團ヘ差出スヘシ鎮守府海兵團ハ前項概算表ノ金額ヲ調査シタル後鎮守府監督部ニ送付ス鎮守府監督部ハ該金額人員ノ合計表ヲ調製シ海軍省ニ届出テ概算表ハ海軍司計部ニ交付スヘシ  
海軍省ハ毎年一回海軍臨時召集旅費概算表ヲ作リ大藏省ニ送付ス此ノ概算表ハ翌年四月三十日マテ有效ノモノトス

第二條 北海道廳長官府縣知事ハ前條召集旅費ヲ應召者ニ給與スル爲メ便宜ノ地ヲ撰定シ其ノ市町村名及第六條第一項ノ現金前渡ヲ受ケ仕拂フナスヘキ島司郡長若クハ收稅署長ノ官職姓名ヲ

取調當該鎮守府監督部ニ豫メ通牒シ置キ爾後該吏員變更アルトキハ其時々通牒スヘシ  
鎮守府監督部長前項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ即時當該海軍司計部ニ通知シ又海軍省ニ報告スヘシ

第三條 海軍省ハ第一條ノ届書ニヨリ平時ニ於テ豫メ臨時召集旅費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ調製シ置キ戰時若クハ事變ニ際シ大藏省ヲ經テ要求書ノ裁定ヲ得即時電信其ノ他ノ方法ヲ以テ鎮守府監督部ヲ經テ海軍司計部ヘ配付豫算ヲ令達スヘシ

第四條 鎮守府監督部ハ前條ノ令達ニ接シタルトキハ臨時召集概算表ノ金額ヲ目的トシ現金前渡ヲ受クヘキ官吏ハ旅費金額送付方ヲ當該海軍司計部ニ請求スヘシ

第五條 海軍司計部ハ前條ノ請求ヲ調査シ直ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發行スヘシ  
第六條 現金前渡ヲ受クヘキ官吏ハ島司郡長收稅署長トス  
島司郡長若クハ收稅署長前條ノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ出納官吏現金取扱規則ニ依リ現金ヲ取扱ヒ其ノ管内召集ニ應スヘキ豫備後備在任軍人ニ對シ各自ニ召集地ニ到ル定則ノ旅費ヲ支給スヘシ

臨時召集旅費支給ニ係ル事務ハ最モ迅速ヲ要ス故ニ出納官吏タルモノノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ分タス處辨スヘシ  
第七條 島司郡長若クハ收稅署長ハ召集終レハ會計検査院ニ提出スヘキ仕拂計算書及證憑書類ヲ當該海軍司計部ニ送付スヘシ

附則

第八條 演習召集旅費モ此ノ規程ニ準據シ取扱フヘシ  
第九條 本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス但第一條ノ召集旅費概算表ハ本年ニ限り本規程到達ノ日ノ現在員ニ依リ取調一週日内ニ所轄鎮守府海兵團ニ差出スヘシ



○外務省令第八號

明治二十六年勅令第七十一號公使館領事館費用條例第十九條第二項ニ因リ外交官及領事官以下ニ支給スヘキ船車料左表ノ通相定ム  
 明治二十七年七月三日

外務大臣陸奥宗光

船車料		往	返
東京上海間	銀貨	五三	五三
同 釜山間	同	四五	四五
同 仁川間	同	五六	五六
同 京城間	同	六三	六三
同 芝罘間	同	六八	六八
同 天津間	同	七八	七八
同 北京間	同	一〇〇	一〇〇
同 元山間	同	五六	五六
同 浦潮斯德間	同	六五	六五
同 香港間	同	七二	七二
同 マニラ間	同	一一二	一一二
同 新嘉坡間	同	一五〇	一五〇

同 馬耳塞間	同	四九五	金貨	三七五
同 馬耳塞里昂間	金貨	九	同	九
同 巴里間	同	二二	同	二二
同 羅馬間	同	二二	同	二二
同 伯林間	同	四八	同	四八
同 維也納間	同	四八	同	四八
同 倫敦間	同	三七	同	三七
同 海牙間	同	三四	同	三四
同 比特堡間	同	八七	同	八七
同 東京桑港間	同	一六八	同	二一四
同 ホノル、間	同	一一二	同	一六一
同 ヴァンクーバ	同	一六八	同	二一四
同 桑港盛頓間	同	一四八	同	一四八
同 紐育間	同	一四八	同	一四八
同 墨西哥間	同	一一三	同	一一三

〔參照〕

勅令第七十一號公使館領事館費用條例(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

本邦ト在歐洲各地間ノ旅費ヲ算スルニハ東京馬耳塞間ノ金額ニ馬耳塞各地間ノ金額ヲ加ヘ又本邦ト華盛頓、紐育、墨西哥間ニ在テハ東京桑港間ノ金額ニ桑港各地間ノ金額ヲ加フヘシ

第十九條第二項

船車料ノ定額ハ外務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

○遞信省令第五號

內國電報ニ著信局所ヲ指定スルノ規程左ノ通之ヲ定ム

明治二十七年七月七日

遞信大臣伯爾黑田清隆

- 一 電報ノ發信人ハ速達上必要トスルトキハ別使又ハ郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ニ限リ特ニ著信局所ヲ指定スルコトヲ得
- 二 特ニ著信局所ヲ指定セントスルトキハ別使配達、郵便配達又ハ書留郵便配達ノ略符號ノ前ニ其局所名 郵便電信局、電信局又ハ電 ヲ記載スヘシ
- 三 著信局所名ノ記載方不相當ト認ムルモノハ電信局所ニ於テ之ヲ訂正又ハ削除スルコトアルヘシ但料金ハ其訂正又ハ削除シタル字數又ハ電信局所ニ依リ計算スヘシ
- 四 特ニ著信局所ヲ指定シタル電報ト雖モ電信局所ニ於テ送達上遲延ヲ來スノ虞アリト認ムルトキハ指定外ノ局所ヲ著信局所ト爲スコトアルヘシ

○內務省令第六號

明治二十二年三月三號藥劑師試驗規則中左ノ通改正ス

明治二十七年七月十一日

內務大臣伯爾井上 馨

- 第二條 藥劑師試驗ハ毎年二回舉行シ其舉行ノ地及ヒ期日ハ六箇月前之ヲ告示スヘシ
- 第五條 削除
- 第七條中「主事者」ヲ「試驗委員長」ニ改ム

〔參照〕

內務省令第三號藥劑師試驗規則(明治二十二年三月二十七日)抄錄  
第二條 藥劑師試驗ハ內務大臣ニ於テ毎年二回試驗主事者及ヒ試驗委員ヲ選任シテ舉行スヘシ其舉行ノ地及ヒ試驗期日ハ

六箇月前之ヲ告示スヘシ

第五條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗主事者ヨリ及第證書ヲ與フヘシ

及第證書ニハ試驗主事者署名スヘシ

第七條 受験上不都合ノ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ

○大藏省令第十四號

明治二十三年大藏省令第二十號酒造稅則施行細則第二十四條左ノ通更正ス

第二十四條 仕込桶及稅則第十條ノ検査ヲ受クヘキ酒類ヲ容ル、桶類ヲ除クノ外ハ管廬ノ都合ニ依リ漸次第十二條ニ據リ改測スルコトヲ得但新調修繕ニ係ル分ハ其時々第十二條ニ據リ改測スヘシ

明治二十七年七月十一日

大藏大臣渡邊國武

〔參照〕

大藏省令第二十號酒造稅則施行細則(明治二十三年八月二十日)抄錄

第十二條 酒造用 容器ハ左ニ掲クル方法ニ依リ其容積ヲ量リ所轄租稅検査員派出所ニ申出検査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號格印及石數ノ配服ヲ受クヘシ(方法略ス)

第二十四條 第十二條ハ此細則實施以後新調修繕ニ係ル分ヨリ施行ス

○文部省令第十五號

第三高等學校ニ法學部醫學部工學部ヲ設置シ第一第二第四第五高等學校ニ醫學部及大學豫科ヲ設置ス

此ノ省令ハ明治二十七年九月十一日ヨリ施行ス

○文部省令第十六號

高等學校ノ修業年限及入學程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年七月十二日

文部大臣井上 毅

高等學校修業年限及入學程度

- 第一條 第三高等學校ノ法學部工學部及各高等學校ノ醫學部ノ修業年限ハ四箇年トス但醫學部ニ於ケル藥學科ノ修業年限ハ舊ニ仍ル
- 大學豫科ノ修業年限ハ三箇年トス
- 第二條 高等學校入學ノ程度ハ尋常中學校卒業ノ程度ニ依ル

○陸軍省令第十四號

陸軍獸醫部現役士官補充條例第十八條ニ該ル者ノ召募採用規則左ノ通定ム

明治二十七年七月十三日

陸軍大臣伯耆大山 巖

陸軍獸醫部現役士官補充條例第十八條ニ該ル者ノ召募採用規則

- 第一條 陸軍獸醫部現役士官補充條例第十八條ノ各項ニ該ル者ニシテ陸軍獸醫ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書卒業證書若クハ之レニ代ハルヘキ有效證書ノ寫ヲ添ヘ毎年一月一日ヨリ三十一日迄ニ陸軍大臣ニ差出スヘシ
- 但一年志願兵ニ在リテハ順次ヲ經テ師團長ヨリ陸軍大臣ニ差出スヘシ
- 第二條 陸軍大臣ハ願書ヲ軍務局長ニ下附シテ採否ニ關スル調査ヲ爲サシム
- 第三條 軍務局長ハ志願者ヲ其所在地最寄ノ衛戍病院ニ委託シテ身體ヲ検査セシメ且本人ノ性質品行學術其他身上ニ關スル必要ノ事件ヲ調査シ然ル後意見書ヲ作り之ニ一切ノ書類ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス
- 第四條 陸軍大臣ハ前條ノ書類ニ就キ採否ヲ決定シ候補名簿ヲ製シ所要ニ從ヒ該名簿ノ順序ニ依リ補任ノ手續ヲナス
- 但候補名簿ハ毎年三月一日新ニ調製スルモノトス
- 第五條 候補名簿ニ登載セラレタル者ニシテ直ニ補任セサル者ハ軍務局長其候補者タルコトヲ本

人ニ通達ス

- 第六條 左ニ掲グル者ハ志願ヲ採用セス
  - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
  - 二 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
  - 三 第九條第一項ニ依リ一旦受ケタル採用ノ資格ヲ失ヒタル者
- 第七條 候補名簿ニ登載セラレタル者ハ其身上ニ異動アル毎ニ軍務局長政課長ニ届出ヘシ
- 第八條 検査ヲ受ケル爲メノ往復旅費ハ自辨トス
- 第九條 候補名簿ニ登載セラレタル者ト雖トモ左ノ諸項ニ該ルトキハ其效力ヲ失フモノトス
  - 一 補任期ニ際シ海外ニ旅行シ若クハ所在不分明ノ者
  - 二 第六條第一項第二項ニ該ル者
  - 三 明治三十年十二月三十一日ニ至ル迄補任ノ命ヲ受ケザル者
- 第十條 志願者ノ願書履歷書戸籍明細書々式ハ雛形ノ如シ
- 第十一條 第一條ノ願書差出期限ハ本年ニ限り七月三十一日迄トス

雛形

願書

陸軍獸醫部現役士官補充條例第十八條何項ニ該ル者ニシテ陸軍獸醫ニ奉職仕度候間御採用被下度御採用ノ上ハ陸軍將校相當官タルノ體面ヲ毀損スルコトナク一切ノ法規ヲ遵守シ忠實職務ニ従事可仕別紙履歷書戸籍明細書卒業證書(有効)寫相添此段相願候也

明治何年何月何日

何府(縣)何族(平民)

本人

現住所何府何縣何區(郡)何町(村)番地

氏名印

右ハ當區(郡)内ニ在籍シ陸軍醫部現役士官補充條例第十八條第何項ニ該ル者ニシテ召募採用規則第六條各項ニ該ル者ニ無之候也

陸軍大臣爵氏名殿

何區(郡)長 氏 名印

履歷書

- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ入り何學科修業
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學研究ノ爲メ何國ニ留學
- 一 何年何月何學校ニ於テ何學科(醫學)卒業
- 一 何年何月帝國大學農科大學獸醫科第何年生ニ入ル
- 一 何年何月何學校何々被申付(何官職被任何官)
- 一 何年何月何々被免(被免本官)
- 一 何年何月一年志願兵トシテ何兵第何聯隊ニ入營
- 一 何年何月何々ニ依リ賞典下賜
- 一 何年何月何々ノ科ニ依リ何罰

右之通相違無之候也

戶籍明細書

氏 名印

- 一 祖父 某
  - 一 祖母 某
  - 一 父 某
  - 一 母 某
  - 一 兄 某
  - 一 弟 某
  - 一 姉 某
  - 一 妹 某
- 何年何月何日生
- (同戶籍中ニ現在スルモノヲ職スヘシ)
- 右之通相違無之候也

何府(縣)何市(區)(郡)何町(村)番地住

何族(平民)(父)(兄)ノ職業

戶主(戶主ニ非ル者ハ某長(次男等)

氏 名印

何年何月何日生

氏 名印

右證明候也  
明治何年何月何日 何府(縣)市(何郡)何町(村)長 東京、京都、大阪市ニ在テハ區長

〔參照〕

勅令第五十五號陸軍醫部現役士官補充條例(明治二十七年五月二十五日官報)抄錄

第十八條 明治三十年十二月迄ハ左ニ掲クル者ハ士官候補生ヲ命セスシテ直ニ陸軍三等獸醫ニ任スルヲ得但召募採用ノ方

法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

帝國大學農科大學獸醫學科卒業生

元駒場農學校獸醫學科卒業生

元東京農林學校獸醫學科卒業生

帝國大學農科大學獸醫學科准卒業生

○海軍省令第九號

海軍志願兵徵募細則中左ノ通改正ス

明治二十七年七月十六日

第二十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十二條乙

兵員入營スルトキハ直ニ身體檢査ヲ施行ス此檢査ニ於テ到底海軍兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ之ガ採用ヲ取消シ旅費ヲ給シテ歸郷セシメ海兵團長ヨリ採用取消書ヲ地方長官ニ送付シ之ト同時ニ本人ノ戶籍明細書及誓約書ヲ市町村長ニ返付スヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ更ニ補缺員ヲ同府縣内同兵種ノ合格者ヨリ徵募スルモノトス但同府縣内ニ於テ徵募スルコト能ハサルトキハ同鎮守府徵募區内ヨリ補フコトヲ得

海軍大臣伯爵西鄉從道

補缺徵募兵員ノ採用證書送付方及入營期日ノ通知其他ノ手續ハ一般ノ徵募兵員ニ準ス  
 第二十六條中戸籍明細書ノ下ニ採用取消書ノ五字ヲ加フ  
 第五樣式ノ次ニ左ノ樣式ヲ加フ  
 第六樣式 採用取消書(用紙厚紙)

曲 尺 五 寸

右採用ヲ取消ス 明治 年 月 日	第何海軍志願兵徵募區 府(縣)郡(市)町(村)住 氏 名
何鎮守府海兵團印	

曲 尺 七 寸

○海軍省令第十號  
 海軍臨時召集旅費支出規程第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第八條以下順次繰下ク  
 明治二十七年七月十六日 海軍大臣伯爵西郷從道  
 第八條 應召員ニシテ行程ノ便宜ニ依リ旅費ノ支給ヲ受ケスシテ直ニ召集地ニ參著シタルトキハ所轄鎮守府海兵團ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ海兵團ヨリ當該現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ其旨ヲ通牒スヘシ

○陸軍省令第十五號  
 陸軍隊附下士卒埋葬規則ヲ陸軍隊附准士官下士卒埋葬規則ニ改メ同規則中左ノ通改正追加ス  
 明治二十七年七月十七日 陸軍大臣伯爵大山 巖

第一條中「隊附下士卒」ヲ「隊附准士官下士卒」ニ改ム  
 第四條ニ左ノ第一項ヲ加ヘ「其殘金ハ以下二十七字ヲ刪ル  
 一准士官ニハ金貳拾圓  
 第五條中「略服」ヲ「帽衣袴靴」ニ改ム  
 第七條中「其寸法」ノ下「准士官ハ高サ三尺方七寸」ノ十一字ヲ加フ

〔參照〕

陸軍省令 第三十四號 陸軍隊附下士卒埋葬規則(明治十九年七月二十四日)抄錄  
 第一條 隊附下士卒死去シタルトキハ此規則ニ依リ取扱フモノトス 隊附諸工及ヒ諸生徒死去シタルトキ亦之ニ準ス但營外居住ノ者ニ在テハ此規則ニ依ルノ限ニ在ラス  
 歸休兵及ヒ豫備後備ノ兵籍ニ在ル者ハ召集中死去シタルトキニ限リ此規則ニ依リ取扱フヘシ  
 第四條 死去シタル者アルトキハ埋葬料トシテ左ノ金額ヲ給ス 其殘金ハ陸軍經理部ニ貯藏シ墓標朽敗ノ時建換費ニ充ツヘシ  
 一 下士及ヒ士官生徒及ヒ士官候補生ニハ金拾五圓  
 一 卒諸工及ヒ諸生徒ニハ金拾圓  
 第五條 死者ヲ欲スルトキハ略服ヲ著セシムルモノトス  
 第七條 墓標ハ木柱ヲ以テ之ヲ製シ其寸法下士及ヒ士官生徒及ヒ士官候補生ハ高サ二尺五寸方六寸卒諸工及ヒ諸生徒ハ高サ二尺方五寸トシ其表面ニハ官位勳氏名墓ト記シ側面ニハ死去ノ年月日ヲ記スヘシ其墓標朽敗スルトキハ更ニ之ヲ製シ書法ハ悉ニ依ル

○陸軍省令第十六號  
 戰時陸軍埋葬規則左ノ通定ム  
 明治二十七年七月十七日 陸軍大臣伯爵大山 巖

戰時陸軍埋葬規則  
 第一條 戰時戰地ニ於テ死去シタル軍人軍屬ハ此規則ニ依テ取扱フモノトス  
 但此規則ニ規程ナキモノハ陸軍隊附准士官下士卒埋葬規則ニ依ル  
 軍屬タル高等官ハ將校ニ判任官ハ下士ニ其他ハ兵卒ニ準ス

第二條 死體ハ陸軍埋葬地共同墓地若クハ特ニ撰定シタル土地ニ埋葬ス但場合ニ依リ火葬シ又ハ合葬スルコトヲ得

海上ニ在テハ水葬スルコトアルヘシ

第三條 墓標ハ木柱ヲ以テ之ヲ製シ將官ハ高サ五尺方一尺上長官ハ高サ四尺五寸方九寸七官ハ高サ四尺方八寸トス但地方ノ情況ニ依リ材料ヲ變更シ又ハ尺度ヲ伸縮スルコトヲ得

第四條 埋葬諸費ハ總テ實費ヲ以テ官ヨリ仕拂フモノトス

第五條 戰役終ルノ後親族故舊ヨリ改葬ヲ願フトキハ之ヲ許スコトアルヘシ

第六條 埋葬ヲ了シタルトキハ之ヲ所屬各部各隊ヨリ直チニ其遺族ニ通達スルモノトス

○文部省令第十七號

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令第四條ニ依リ第三高等學校ニ設置スル法學部工學部及高等學校ニ設置スル醫學部ノ學科目及講座ノ數左ノ如シ

明治二十七年七月十七日 文部大臣井上毅

- 法學部
- 一 講座 商法
  - 二 講座 憲法行政法
  - 三 講座 民法
  - 四 講座 國際法
  - 五 講座 刑事訴訟法
  - 六 講座 民事訴訟法裁判所構成法
- 工學部
- 一 講座 圖畫測量
  - 二 講座 土木工學
  - 三 講座 機械工學
- 醫學部
- 一 講座 解剖學組織學
  - 二 講座 生理學
  - 三 講座 衛生學法醫學
  - 四 講座 病理學
  - 五 講座 內科學藥物學
  - 六 講座 外科學
  - 七 講座 眼科學
  - 八 講座 產科學婦人科學
  - 九 講座 藥學
- 前ニ掲ケタル學科目ノ外必修科トシテ外國語ヲ置ク

前ニ掲ケタル學科目ノ外必修科トシテ體操ヲ置キ隨意科トシテ外國語ヲ置ク

- 醫學部
- 一 講座 解剖學組織學
  - 二 講座 生理學
  - 三 講座 衛生學法醫學
  - 四 講座 病理學
  - 五 講座 內科學藥物學
  - 六 講座 外科學
  - 七 講座 眼科學
  - 八 講座 產科學婦人科學
  - 九 講座 藥學
- 但第三高等學校醫學部ニ於テハ藥學ヲ設ケス
- 前ニ掲ケタル學科目ノ外必修科トシテ醫用動物學醫用植物學醫用物理學醫用化學體操ヲ置キ隨意科トシテ外國語ヲ置ク

○遞信省令第六號

明治二十五年九月遞信省令第十三號小包郵便法施行細則中左ノ通追加ス

明治二十七年七月十九日 遞信大臣伯耆黒田清隆

小包郵便法施行細則

第二十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但留置證ヲ差出シ能ハサル場合ニ在テハ第二十五條第三項ニ依リ證明書ヲ以テ受取人タルコトヲ證シ別ニ受領證ヲ差出スヘシ

第二十五條第二項本文ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ニ依リ差出人ニ報スヘキ場合ニ於テ其ノ差出人旅行其ノ他ノ事故ニ依リ小包郵便物ニ表記シタル宿所ヲ異ニシ所在判明ナラサルカ爲メ差出人ヲシテ前項ノ手續ヲ爲サシムル能ハサルトキハ受取人ニ於テ確實ナル保證人ヲ立テ其ノ事由ヲ證明スヘシ此手續ニ依リ留置小包郵便物



法科ニ在テハ第一外國語ハ獨語若クハ佛語トシ第二外國語ハ英語トス  
文科ニ在テハ英文學科志望者ニハ英語ヲ第一外國語トシ獨語若クハ佛語ヲ第二外國語トシ佛蘭西文學科志望者ニハ  
佛語ヲ第一外國語トシ英語若クハ獨語ヲ第二外國語トシ其他ノ學科志望者ニハ獨語ヲ第一外國語トシ英語若クハ佛  
語ヲ第二外國語トシテ之ヲ課ス  
第一年ニ於テ法科志望者ニハ數學ヲ缺キ文科哲學志望者ニハ地理ヲ缺キ其他ノ學科志望者ニハ生徒ノ隨意ニヨリ其  
一ヲ缺クコトヲ得第二年ニ於テ法科志望者ニハ物理ヲ缺キ文科志望者ニハ經濟通論ヲ缺ク第三年文科ニ於テハ化學  
及法學通論ヲ生徒ノ隨意科トシ其一ヲ撰修セシムルコトヲ得漢文學科志望者ニハ第二外國語ヲ課セス其時間ニ於テ  
漢文ヲ課ス

大學豫科第二部(工理農)

物	數	第一外國語	第二外國語	國語及漢文	倫理	第一一年			第二二年			第三三年		
						計	體操	法學通論	計	體操	法學通論	計	體操	法學通論
物理	五	五	八	五		三〇	三	三〇	三	三〇	三	三〇	三	三
數學														
第一外國語														
第二外國語														
國語及漢文														
倫理														
體操														
法學通論														
計	五	五	八	五		三〇	三	三〇	三	三〇	三	三〇	三	三

工 理 農  
三 年

第一外國語ハ英語トシ第二外國語ハ獨語トス  
理科第三年ニ於テ數學(星學)物理學科志望者ニハ化學三時(實驗)圖畫(動物及植物ヲ缺ク)化學科志望者ニハ圖畫(測  
量)動物及植物ヲ缺ク(動物植物學科)地質及礦物學科志望者ニハ數學(測量)ヲ缺キ林學科志望者ニハ化學二時(實驗)ヲ缺ク  
藥化學科志望者ニハ數學ヲ缺キ獸醫學科志望者ニハ數學(測量)ヲ缺キ林學科志望者ニハ化學二時(實驗)ヲ缺ク

大學豫科第二部(醫)

物	數	第一外國語	第二外國語	國語及漢文	倫理	第一一年			第二二年			第三三年		
						計	體操	法學通論	計	體操	法學通論	計	體操	法學通論
化學														
動物及植物														
地質及礦物														
圖畫														
測量														
體操														
法學通論														
計	三〇	三	三	三		三〇	三	三〇	三	三〇	三	三〇	三	三



化學	四	四	四
動物及植物	四	實三	實四
體操	三	三	八
計	二九	二八	三〇

第一外國語ハ獨語トス

○農商務省令第六號

鑛業條例施行細則左ノ通改正ス

明治二十七年七月二十四日

鑛業條例施行細則

農商務大臣子爵榎本武揚

- 第一條 鑛業條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第十三號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ
- 試掘地略測圖、鑛區略測圖、試掘地實測圖、鑛區實測圖、鑛業施業案、鑛業條例第二十九條ノ屆書及同條例第四十條ノ帳簿ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル雛形ニ準シ調製スヘシ
- 第二條 試掘願書及試掘地實測圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ニ第一號雛形ノ試掘地略測圖ヲ添ヘ差出シ置キ試掘地實測圖ハ出願ノ日ヨリ五十日以内ニ差出スヘシ
- 第三條 鑛業條例第十二條第二項ニ依リ願書ノミ差出ストキハ第一號雛形ノ鑛區略測圖ヲ添フヘシ
- 第四條 願書屆書請求書施業案及圖面ニ代印セシムルトキハ之ニ委任狀ノ正本ヲ添フヘシ
- 第五條 試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第二項ニ依ルヘシ
- 第六條 試掘地若クハ鑛區最短徑ハ其最長徑ノ四分ノ一ヨリ下ルコトヲ得ス

但所轄鑛山監督署長ニ於テ適當ト認ムルトキハ本文ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

- 第七條 鑛業人ノ承諾ヲ經スシテ其試掘地若クハ鑛區ニ接近シ試掘地若クハ鑛區ヲ得ントスル者ハ其中間ニ十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ
- 所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛利ヲ保護スル爲メ必要ト認メタルトキハ五十間迄前項ノ距離ヲ延長セシムルコトヲ得
- 第八條 鑛業ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ
- 第九條 試掘願採掘願ハ鑛山監督署長ニ於テ實測圖受理ノ日ヨリ五日以内ニ出願地所在ノ地方官ニ通知スヘシ
- 地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ其事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否ヲ取調ヘ其意見ヲ試掘ニ付テハ所轄鑛山監督署長ニ通知シ採掘ニ付テハ農商務大臣ニ上申スヘシ
- 第十條 試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ハ總テ試掘願若クハ採掘願ノ手續ニ依ルヘシ
- 第十一條 試掘延期ハ滿期前ニ出願シ試掘ノ成蹟及事業ヲ竣ヘ難キ事由ヲ詳記スヘシ
- 第十二條 鑛業條例第十三條ニ依リ鑛物ノ存在ヲ證明スルニハ願書發送ノ日ヨリ三十日以内ニ其鑛物ノ標品又ハ證明書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ
- 第十三條 鑛業人及鑛業出願人所轄鑛山監督署長ヨリ實地調査ノ爲メ立會ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ
- 第十四條 鑛業人及鑛業出願人所轄鑛山監督署長ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第十五條 鑛業特許證書換願、鑛區訂正願、鑛區合併若クハ分割願、採掘權書入登録願及鑛業條例第九十條ニ依レル採掘特許願ニハ鑛業特許證書若クハ借區券ヲ添フヘシ

第十六條 坑内實測圖ハ毎年一月七月ノ兩度ニ之ヲ調製シ前期末日ノ現況ヲ記載スヘシ  
坑内實測圖ハ前項調製期月ノ翌月中ニ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ  
但前實測圖ト交換スルコトヲ得

第十七條 鑛業條例第三十一條第三項ノ證明ヲ必要トスル者ハ其理由ヲ詳記シタル請求書ヲ差出スヘシ

第十八條 鑛業條例第三十九條ノ屆書ハ届出ツヘキ事項ナキ場合ト雖モ其旨ヲ記載シ差出スヘシ

第十九條 鑛業條例第三十九條ノ屆書ハ鑛業ヲ廢止又ハ讓渡シタル場合ニ於テハ廢業又ハ讓渡ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ  
但届出ツヘキ事項ナキ場合ト雖モ其旨ヲ記載シ差出スヘシ

第二十條 鑛業條例第四十七條ニヨリ測量ノ認可ヲ受ケントスル者ハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ  
但土地ノ所有者又ハ關係人ニ於テ承諾シタルトキハ認可ヲ受クルヲ要セス

第二十一條 鑛業條例第三十五條第三十六條又ハ第五十五條ニ依リ鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルモノハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ詳細ノ實測圖其他關係書類ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

鑛業條例第五十五條土地貸渡ノ場合ニハ前項書類ノ外建設スヘキ工事ノ設計書ヲ添フヘシ

第二十二條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辯明書ヲ差出サシムヘシ

第二十三條 試掘人ハ試掘地實測圖ヲ採掘人ハ左ノ書類ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

- 一 鑛區實測圖
- 二 坑内實測圖
- 三 鑛業施業案
- 四 鑛業條例第四十條ノ帳簿

第二十四條 鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ代理人ヲ置キ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ  
前項代理人ノ權限左ノ如シ

- 一 鑛山監督署ヨリ發スル命令通知ヲ受クルコト
- 二 鑛業施業案ノ認可ヲ受クルコト
- 三 坑内實測圖ヲ差出スコト
- 四 鑛業條例第三十九條ノ屆書ヲ差出スコト
- 五 鑛夫使役規則及鑛夫救恤規則ノ認可ヲ受クルコト
- 六 鑛業稅及鑛區稅ヲ納ムルコト
- 七 本則第十八條及第十九條ノ屆書ヲ差出スコト
- 八 鑛業警察規則第十七條及第十九條ノ屆書ヲ差出スコト
- 九 鑛業警察規則第十八條ノ場合ニ於テ必要ノ事務ヲ處辨スルコト

第二十五條 鑛業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

但採掘權ヲ相續シタル者ハ其屆書ニ鑛業特許證ヲ添フヘシ

第二十六條 鑛業條例第三十條第三十三條第二項第三十四條第二項第四十三條第二項及第七十六

條ニ依リ行政裁判所ニ出訴シタルトキ及同條例第三十四條第一項ニ依リ農商務大臣ニ訴願シタルトキハ七日以内ニ其旨所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第二十七條 鑛業ニ關スル書類ハ一通毎ニ一件ヲ限り認ムヘシ

試掘願採掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ハ總テ一件毎ニ別封トシ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ書類ヲ差出ストキハ發送郵便局ヨリ受付ノ年月日及時刻ヲ記入シタル受領書ヲ請置クヘシ

第二十八條 鑛業ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出タルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス

試掘願採掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ニ付キ日時ノ前後ヲ定ムルニハ前條第三項ノ日時ヲ以テス

但前條第三項ノ受領書ナキモノハ本條第一項ニ依ル

第二十九條 試掘又ハ採掘ノ廢業屆書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

廢業ノ日時ハ屆書差出ノ日時ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 鑛業ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

第三十一條 左ニ掲グル願書及請求書ハ之ヲ受理セス

一 明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セサル願書又ハ請求書

二 圖面添屬ナキ試掘願採掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願

三 添屬圖面中出願區域不分明ナル試掘願採掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域

變更願

四 書留郵便ヲ以テ差出サ、ル試掘願採掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ出願ヲ無効トス

一 本則第二條ノ期限内ニ試掘地實測圖ヲ差出サ、ルトキ

二 本則第八條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充ヲナサ、ルトキ

三 本則第十二條ノ期限内ニ鑛物標品又ハ證明書ヲ差出サ、ルトキ

四 正當ノ理由ナク本則第十三條ノ立會ヲ爲サ、ルトキ

五 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ

六 添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スルトキ

七 出願人ノ住所不分明ナルトキ

第三十三條 鑛業條例第三十九條ノ届出ヲナサ、ル者本則第十三條第十四條第十八條又ハ第十九條ヲ犯シタル鑛業人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 本則第二十三條(第二號)第二十四條第一項又ハ第二十六條ヲ犯シタル者ハ一圓以上

一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 本則第二十五條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第三十六條 鑛業條例施行以前ニ差出シタル試掘願書若クハ借區願書ニシテ同條例施行ノ日マテ

ニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ同條例ニ依レル試掘願書若クハ採掘願書ト看做シ處分スヘシ

第三十七條 本則施行以前ニ差出シタル願書ニシテ本則施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總

テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ  
第三十八條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治二十五年農商務省令第六號鑛業條例  
施行細則ハ同日限り之ヲ廢止ス  
書式(用紙美濃紙)

第一號(正副四通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

何鑛試掘認可願

何府縣國郡市町村大字  
小字 全地 官地又ハ民地  
小字 官地又ハ民地  
ノ内 官地又ハ民地  
何坪 官地又ハ民地

右ノ場所ニ於テ何鑛試掘致度候間認可相成度試掘地實測圖相添此段相願候也

年 月 日

住所族籍

願人 氏

名 印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

第二號(正副四通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試掘出願中ニ係ル區域變更願

何府縣國郡市町村大字  
小字 全地 官地又ハ民地  
小字 官地又ハ民地  
ノ内 官地又ハ民地  
何坪 官地又ハ民地

年 月 日

住所族籍

願人 氏

名 印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

第三號(正副四通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試掘地訂正願

何年何月何日認可第何號  
一何府縣國郡市町村大字小字何坪  
官地又ハ民地  
増減ノ減 何郡市町村大字小字 官地又ハ民地  
合計ノ差引何坪  
右ノ場所ニ於テ試掘致居候處何々山ノ爲メ區域訂正致度候ニ付認可相成度別紙訂正試掘地實測圖相添此段相願候也

年 月 日

住所族籍

願人 氏

名 印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

第四號(正副四通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試掘延期願

何年何月何日認可第何號  
一何府縣國郡市町村大字小字何坪  
右ノ場所ニ於テ試掘致居候處尙試掘繼續致度候間延期認可相成度別紙(試掘ノ成績及事業ヲ)相添此段相願候也

年月日

何鐵山監督署長氏名殿

第五號(正副五通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

何鐵採掘特許願

何府縣國郡市町村大字

小字

官地又ハ民地  
官地又ハ民地  
官地又ハ民地

小字

官地又ハ民地  
官地又ハ民地  
官地又ハ民地

何坪

右ノ場所ニ於テ標本(若クハ證明書)ノ通り礦物存在候ニ付採掘致度候間特許相成度鐵區圖相添此段相願候也

住所族籍

願人氏

名印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣爵氏名殿

第六號(正副五通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

採掘出願中ニ係ル區域變更願

何府縣國郡市町村大字

小字

官地又ハ民地  
官地又ハ民地  
官地又ハ民地

小字

官地又ハ民地  
官地又ハ民地  
官地又ハ民地

何坪

明治何年何月何日採掘出願致置候處右ノ通り更ニ區域變更致度ニ付鐵區圖相添此段相願候也

住所族籍

願人氏

名印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣爵氏名殿

第七號(正副五通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鐵區訂正願

何年何月何日特許第何號

何府縣國郡市町村大字

小字何坪

何府縣國郡市町村大字

小字何坪

増減

何府縣國郡市町村大字

小字何坪

合計

何府縣國郡市町村大字

小字何坪

右ノ場所ニ於テ採掘致居候處何々由ヲノ爲メ鐵區訂正致度候ニ付許可相成度別紙理由書訂正鐵區圖及鐵業特許證相添此段相願候也

住所族籍

鐵業人氏

名印

又ハ共同鐵業人總代氏名印

農商務大臣爵氏名殿

第八號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鐵業條例第九十條ニ依レル採掘特許願

借第何號  
何府縣國郡市町村大字何坪  
右借區鐵業致居候處引續キ鐵業致度候間鐵業特許證御下付相成度鐵區實測圖及借區券相添此段相願候也

年 月 日

鐵業人 氏 名 印  
又ハ共同鐵業人總代氏名印

農商務大臣爵氏名殿

第九號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鐵區合併願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

合計何坪

右鐵區合併致度候間許可相成度別紙合併鐵區實測圖及鐵業特許證相添此段相願候也

年 月 日

鐵業人 氏 名 印  
又ハ共同鐵業人總代氏名印

農商務大臣爵氏名殿

第十號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鐵區分割願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

此分割

何府縣國郡市町村大字小字<sub>地地又ハ民</sub>何坪

何府縣國郡市町村大字小字<sub>地地又ハ民</sub>何坪

右ノ通鐵區分割致度候間許可相成度別紙分割鐵區實測圖相添此段相願候也

年 月 日

鐵業人 氏 名 印  
又ハ共同鐵業人總代氏名印

農商務大臣爵氏名殿

第十一號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鐵業特許證書換願

何年何月何日特許何府縣國郡市町村

一第何號鐵業特許證

右探掘權令般賣買(若クハ讓與)ノ契約相整候ニ付鐵業特許證書換相成度特許證相添此段相願候也

年 月 日

鐵業人 氏 名 印  
又ハ共同鐵業人過半数連署連印スヘシ

住所族籍

買受又ハ讓受人

氏 名 印  
但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣爵氏名殿







探掘額	何貫目	何立方尺	最低含有高百分中何々
何貫	同	同	同
何貫	同	同	同
延人員何人	實人員何人	同	同
坑夫	同	同	同
手子	同	同	同
支柱夫	同	同	同
車夫	同	同	同
火夫	同	同	同
機械夫	同	同	同
雜夫	同	同	同
運搬夫	同	同	同
計	同	同	同
原動機	何式	何馬力	何臺
機械	同	同	同
通氣ノ方法	一分時間何立方尺	燃燒質瓦斯ノ有無	
排水ノ方法	同		
運搬ノ方法	一分時間何立方尺		
薪炭消費高			

記事(探掘ノ方法及之カ爲メ要スル處ノ機械並ニ其建築及使用ノ方法ヲ詳記スヘシ)  
右ノ通り施業致度候間認可相成度候也

年月日

何鑛山監督署長氏名殿

鑛業人 氏 名 印  
又ハ共同鑛業人總代氏名印

雛形(用紙美濃紙)  
第四號(正副四通) 鑛業條例第三十九條屆書

鑛年何治明			鑛區位	何鑛山	住所族籍	何 某 印
高製元株製	高掘採	高越	種鑛	何鑛山	人業鑛	
			續區坪數			
			特許番號			
			施業年月日			
			認可番號			
高製出製	高越					
販數						





明治二十七年七月 省令 農商務省第六號

一七〇

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ  
 若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ  
 試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得  
 前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其  
 ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特  
 許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
 前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條  
 但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得  
 第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得  
 第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數製産物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督  
 署ニ届出ツヘシ  
 第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製産物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ  
 第四十一條 第二項  
 鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限ラス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千  
 坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス  
 第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署  
 長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特  
 許ヲ取消スコトヲ得  
 鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ違フ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 第四十七條 試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲メ他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受ケヘシ  
 此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ  
 請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ  
 測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ該メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帶スヘシ  
 第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地賃渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賃  
 買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得  
 第七十六條 鑛業人納税期限内ニ鑛業税及鑛區税ヲ納ムサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ  
 不服アルトキハ其ノ違フ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此  
 ノ條例ニ依リ出願スヘシ

農商務省令第七號鑛業警察規則(明治二十五年三月十六日)抄録

第十七條 鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十八條 農商務省鑛山局長及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ監視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ査閱スルコトヲ得

第十九條 鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事由ヲ届出ツヘシ

○農商務省令第七號

砂鑛採取法施行細則左ノ通告正ス

明治二十七年七月二十四日

農商務大臣子爵榎本武揚

砂鑛採取法施行細則

第一條 砂鑛採取ノ願書ハ第一號又ハ第二號書式ニ從ヒ之ヲ認メ第一號又ハ第二號雛形ニ依リ調  
 製シタル採取區域ノ實測圖ヲ添ヘ明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ  
 貼用シ差出スヘシ

但砂鑛採取ノ願書ニハ登記印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第二條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ  
 添フヘシ若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ添フヘシ

土地所有者又ハ關係人砂鑛採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以内ノ期  
 限ヲ定メ其土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出シヲ命スヘシ若シ此期限内ニ願書ヲ差出サ  
 サルトキハ出願セサルモノト看做スヘシ

第三條 鑛山監督署長砂鑛採取ノ願書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ之ヲ出願地所在ノ地方長官  
 ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ土地ノ狀況ニ依リ特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外三十日  
 以内ニ採取ノ事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否竝ニ出願地所有者ノ住  
 所氏名ヲ取調ヘ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ

第四條 砂鑛採取ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ

第五條 砂鑛採取人及砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署長ヨリ實地調査ノ爲メ立會ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ

第六條 砂鑛採取人及砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署長ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ差出スヘシ

第七條 願書屆書請求書及圖面ニ代印セシムルトキハ之ニ委任狀ノ正本ヲ添フヘシ

第八條 砂鑛採取法第十條ニ依リ採取許可ノ取消ヲ請求スル者及同法第十八條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第九條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辯明書ヲ差出サシムヘシ

第十條 採取人ハ毎年二月第三號雜形ニ從ヒ調製シタル前年中ノ採取業明細表ヲ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採取人廢業シタルトキハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出スヘシ

第十一條 採取業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十二條 採取人廢業シタルトキハ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項廢業ノ日時ハ屆書差出ノ日時ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス

第十四條 砂鑛採取ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

得ス

第十五條 左ニ掲グル願書及請求書ハ之ヲ受理セス

- 一 明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セサル願書又ハ請求書
- 二 採取地實測圖ノ添屬ナキ願書
- 三 土地所有者又ハ關係人ノ承諾書若クハ其承諾ヲ得ル能ハサル旨ノ書面ヲ添ヘサル願書
- 四 添屬圖面中出願區域不分明ナル願書

第十六條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス

- 一 本則第四條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充ヲ爲サハルトキ
- 二 正當ノ理由ナクシテ本則第五條ノ立會ヲ爲サハルトキ
- 三 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ
- 四 添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スルトキ
- 五 出願人ノ住所不分明ナルトキ

第十七條 本則第五條又ハ第六條ヲ犯シタル砂鑛採取人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本則第十條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 本則第十一條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十條 砂鑛採取法施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ同法施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサル者ハ總テ同法ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第二十一條 本則施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ本則施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第二十二條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治二十六年農商務省令第八號砂鑛採取法施行細則ハ同日限り之ヲ廢止ス

書式(用紙美濃紙)

第一號(正副四通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ但砂採取ニハ

砂(金)(錫)(鐵)採取願

何府縣國郡市町村大字

小字 全地 地質地又ハ民  
小字 ノ内 地質地又ハ民  
何坪 地種地ハ民

右ノ場所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付採取致度候間許可相成度實測圖相添此段相願候也

年月日

住所族籍  
願人氏 名印  
但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣爵氏名殿

第二號(正副四通)(河床ニ於ケル採取願ノ分)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ但砂採取ニハ

砂(金)(錫)(鐵)採取願

何川筋何府縣國郡市町村大字小字ヨリ

延長何里何町何間(幹流支流ヲ通算スヘシ)  
右ノ場所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付採取致度候間許可相成度實測圖相添此段相願候也

年月日

住所族籍  
願人氏 名印  
但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣爵氏名殿

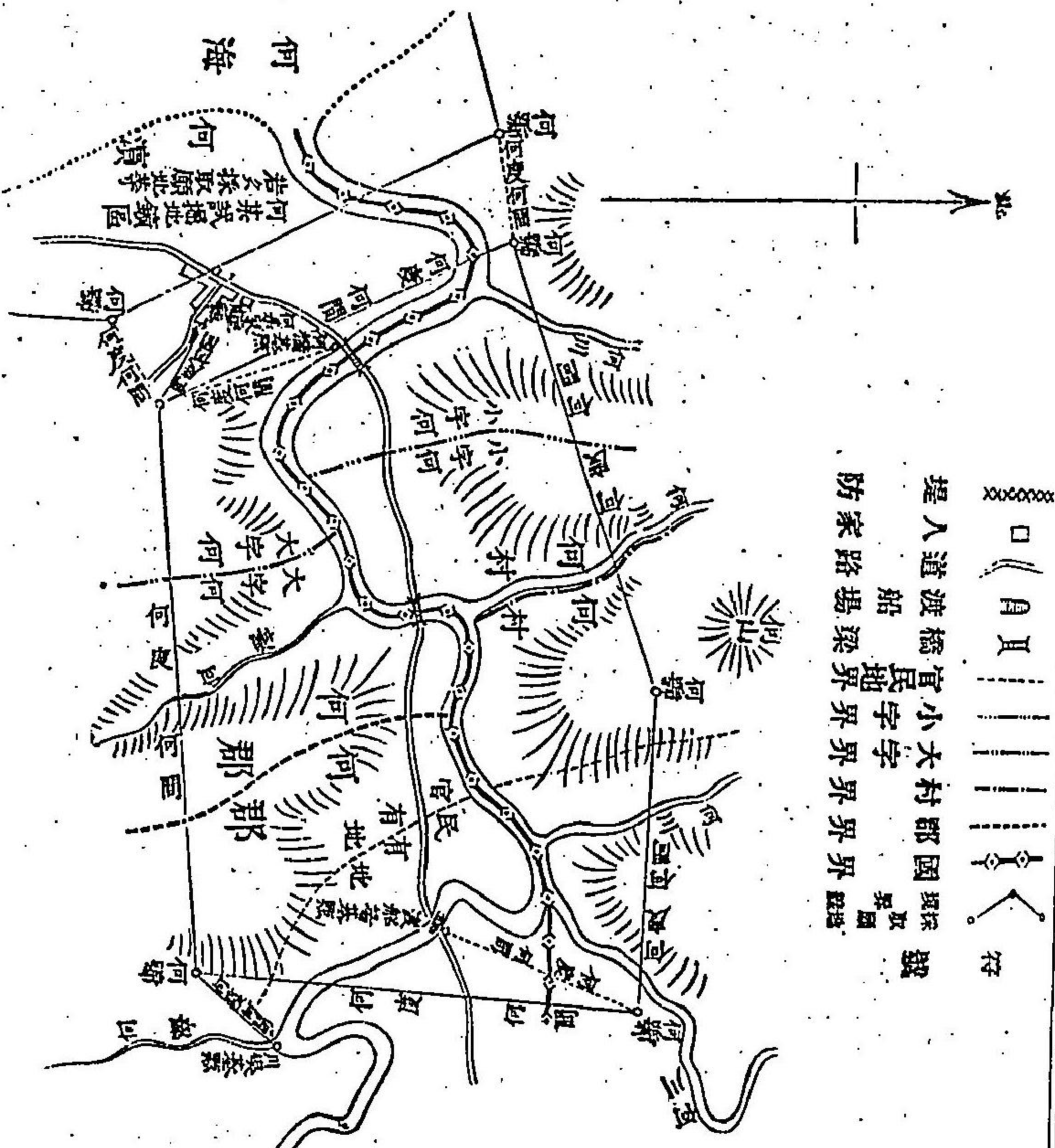
地形

第一號(枚數願書ニ同シ)

砂(金)(錫)(鐵)採取地實測圖

明治年月日出願  
何府縣國郡市町村何大字何字  
住所族籍  
測量者 氏 氏  
名印 名印

名印 名印



注意

一 區域境界ハ隅角ノ少半樓區並ニ各隔ニ願者ナル標木ヲ設クヘシ  
二 坪數ハ四拾五入シテ坪ニ止ムヘシ  
三 若シ八二箇以上ヲ設ク名稱テル川澤家屋橋築道路辻段石大木等容易ニ動シ可カラサルモ  
四 百間以内ノ地ニ於テ自他ノ試掘地若クハ鑛區砂鑛採取地ヲハ相互接近シタル隅角ノ方位  
間數ヲ測定シ圖上ニ描クヘシ



〔參照〕

法律第十號砂礫採取法(明治二十六年三月六日官報)抄録  
第十條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ若其ノ許可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ許可ヲ取消ヲ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得

○文部省令第十九號

簡易農學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年七月二十五日

文部大臣井上毅

簡易農學校規程

- 第一條 簡易ナル方法ニ依リ農事教育ヲ施サントスル者ハ此ノ規程ニヨルヘシ
- 第二條 簡易農學校ノ學科ハ算術、物理化學博物ノ大要、耕種、園藝、肥料、土壤、排水、灌溉、害蟲養畜、農産製造、氣象、農業工事、農業經濟ノ類トシ地方ノ情況ニ依リ斟酌シ又ハ併合シテ教授スルヲ要ス又水産、森林、養蠶、獸醫ノ科目ヲ加フルコトヲ得
- 第三條 簡易農學校ハ農隙又ハ其他便宜ノ時期ヲ選ミ之ヲ開設スルコトヲ得
- 第四條 地方ノ狀況ニヨリ必要ノ各地ニ分教場ヲ設置シ巡回教授ノ方法ニヨリテ教授ヲナスコトヲ得
- 第五條 簡易農學校ニ入學スル生徒ハ年齢十四年以上トス
- 第六條 簡易農學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルト否トハ各地方ノ便宜タルヘシ
- 第七條 水産養蠶獸醫ヲ専修スル簡易學校ハ此ノ規程ニ準スヘシ

省令說明

一簡易農學校ハ地方經濟ヲ以テ一所又ハ數所ヲ一府縣内ニ置キ又ハ郡或ハ町村組合ノ支費ヲ以テ區域ヲ限リ之ヲ置クモ俱ニ其

ノ便宜ニ任ス而シテ其ノ設備ノ大小ニ從ヒ學課程度ニ高低ノ差アリ學年ニ長短ノ別アルコトヲ妨ケサルヘシ  
一簡易農學校ノ目的ハ農家ヲシテ從來沿習セル耕種ノ外ニ科學的進歩ノ利益ヲ知ラシムルニ在リ故ニ務メテ農家子弟ノ爲ニ入  
リ易キノ門ヲ開キ普通學校ニ於ケル一定ノ規則ヲ以テ檢束スルノ例ニ倣ハサルヘシ其ノ授業ハ成ルヘク平易近ナル言語ニ  
由リ學術講義ヨリモ寧ロ談話ノ體ヲ用ウヘク其ノ學科ハ併合簡括ナルヲ要シ分科ノ多キヲ要セス其ノ授業時間ハ或ハ農隙ニ  
於テ數月又ハ數十日間之ヲ開キ或ハ夜間ニ之ヲ開クカ如キ務メテ農家ノ生計ヲ妨ケサル事ニ注意スヘシ  
一現ニ各地方ニ於テ設置スル農事講習所及農談會ノ如キハ此レ亦農事進歩ノ上ニ於テ重要ナル機關ニシテ農學校ト相依リ相助  
クヘキモノナリ今此ノ規程ニヨリテ之ヲ農學校ノ組織トナスノ必要アルコトナシ何トナレハ彼此各々地方ノ情況ニ適スル者  
アルヘク其ノ效用ニ於テ亦一ヲ取リテ他ヲ廢スヘキニ非サレハナリ

○文部省令第二十號

徒弟學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年七月二十五日

文部大臣井上毅

徒弟學校規程

- 第一條 徒弟學校ハ職工タルニ必要ナル教科ヲ授クル所トス
- 第二條 徒弟學校入學者ノ資格ハ年齢十二年以上及尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ但尋常小學校卒業ノ者ニアラサルモ特ニ學校長ノ許可ヲ得テ入學スルコトヲ得
- 第三條 徒弟學校ニ於テハ男女ヲ混同スルコトヲ得
- 第四條 徒弟學校ハ尋常小學校又ハ高等小學校ニ附設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ小學校ノ教授ヲ妨ケサル限ハ校舍及備品器具ヲ使用セシムルコトヲ得
- 第五條 徒弟學校ノ教科目ハ修身、算術、幾何、物理、化學、圖畫及職業ニ直接ノ關係アル諸教科目並實習トス
- 第六條 前項ノ教科目ハ修身ヲ除ク外學校長ニ於テ便宜取捨撰擇シ又ハ隨意科トスルコトヲ得但實習ハ設備上又ハ其ノ他ノ關係ニ依リ學校ニ於テ教授スルニ不便ナル職業ニ限リ之ヲ缺クコトヲ得
- 第七條 徒弟學校ニ於ケル教科ハ一種又ハ數種ノ職業ニ就テ之ヲ定メ若ハ數種ノ職業ニ共通シテ



之ヲ定ムヘシ

第六條 尋常小學校ヲ卒業セシテ入學ノ許可ヲ得タル者ニハ本科ノ外讀書、習字ヲ課スヘシ又作文ヲ加フルコトヲ得

尋常小學校卒業ノ者ト雖其ノ志望ニ依リ讀書、習字、作文ノ一科目又ハ數科目ヲ授クルコトヲ得本條ノ場合ニ於テ修身ハ讀書ニ附帶シテ之ヲ教授スルコトヲ得

第七條 徒弟學校ノ修業年限ハ六箇月以上四箇年以下トス

第八條 徒弟學校ハ日曜日又ハ夜間タリトモ便宜教授時間ヲ設クルコトヲ得

第九條 徒弟學校ハ土地ノ情況ニ應ジ季節ヲ限リ教授スルコトヲ得

第十條 徒弟學校ノ教員ハ文部大臣ニ於テ工業教員タルニ適當ナリト認ムル者又ハ小學校教員ノ資格アル者又ハ相當ノ普通教育ヲ受ケ職業上ノ知識又ハ經驗ヲ有シ地方長官ノ許可ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第十一條 徒弟學校ニ於テ教科用圖書ヲ用フル場合ニハ修身、讀書、習字ニ係ルモノハ尋常小學校高等小學校補習科又ハ實業補習學校用トシテ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノタルヘシ其ノ他ノ教科目ニ係ルモノハ檢定ヲ經ルノ限ニ在ラス

第十二條 徒弟學校ノ教科用圖書ハ府縣ニ於ケル審査探定ヲ要セス各學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 市町村立徒弟學校ニ於テハ實業又ハ教育ニ經歷アル者及其ノ學校ノ設立維持ニ功勞アル者ヲ以テ商議員トシ其ノ學校ニ關スル事件ヲ商議セシムルコトヲ得

第十四條 市町村立徒弟學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルト否トハ市町村ノ便宜タルヘシ

第十五條 女子ニ刺繡、機織及其ノ他ノ職業ヲ授クル爲ニ設クル所ノ女子職業學校ニシテ此ノ規程ニ依ルモノハ徒弟學校ノ種類トス

省令說明

一 徒弟學校ヲ卒業シタル者ハ一ノ職工タルニ關ク所ナカラシムルコトヲ期ス故ニ徒弟學校ハ職工タルニ必要ナル教科ヲ授クル所トス蓋シ小學教育ヲ補習セシメ且實業ノ思想ヲ與ヘ又ハ準備ノ實業教育ヲ授クルハ實業補習學校ノ任務ニシテ徒弟學校ハ之ニ反シ職業教科ヲ授クルヲ以テ主トスルモノナレハナリ

○陸軍省令第十七號

陸軍准士官以上ニシテ定年限年齢ニ達スル者ハ當分現役ヲ繼續セシム

陸軍豫備後備准士官以上及現役豫備後備下士兵卒雜卒職工ニシテ服役滿限ニ至ル者ハ當分該服役ヲ延期ス

明治二十七年七月二十八日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

○海軍省令第十一號

海軍准士官以上ニシテ定年限年齢ニ達スル者ハ當分現役ヲ繼續セシム

明治二十七年七月 省令 陸軍省第十七號 海軍省第十一號

海軍豫備後備准士官以上及現役豫備役後備役下士卒ニシテ服役滿限ニ至ル者ハ當分該服役ヲ延期ス  
明治二十七年七月三十一日  
海軍大臣伯爵西鄉從道

○内務省令第七號

勅令第三百二十四號ニ依リ許可ヲ受クヘキ草稿ハ東京府下ニ在テハ内務省其他ノ地方ニ在テハ北海道廳府縣廳長官府縣知事ニ於テ遠隔ト認メ其旨ヲ公布シタル地方ニ在テハ其地方所轄警察署ニ差出スヘシ  
明治二十七年八月二日  
内務大臣伯爵井上 馨

○陸軍省令第十八號

陸軍監獄看守給助例施行細則左ノ通定ム

明治二十七年八月三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍監獄看守給助例施行細則

第一條 陸軍監獄看守ニシテ明治二十七年勅令第八十一號ニ依リ給助ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ書類ヲ具シ師團長又ハ屯田兵司令官ニ願出ツヘシ

- 一 退職給助 願書履歷書
- 一 傷痕給助 願書履歷書軍醫診斷證書
- 一 死亡給助 願書履歷書軍醫若クハ主治醫ノ診斷證書及戶籍寫
- 一 療治料 願書
- 一 祭祀料 願書戶籍寫

死亡給助ノ願書ニハ親戚二名若クハ死亡者居住地ノ戶主二名連署スヘシ

戶籍寫ニハ市町村長ノ證明市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區戶長ノ證明ヲ要ス

第二條 師團長又ハ屯田兵司令官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ監獄長ヲシテ在職中ノ功勞又ハ傷

疾疾病若クハ死亡ノ原因及金額ノ等差ヲ調査セシメ適當ト認ムルトキハ陸軍大臣ニ進達スヘシ  
第三條 年金ハ四月十月ノ兩度ニ於テ前六箇月分ヲ給與ス但六箇月ニ滿タサルモノハ現月數ニ應

シ給與ス

第四條 年金ハ之ヲ受クヘキ事故ノ生シタル翌月ヨリ給與ス

第五條 年金ヲ受ケタル者給助例第八條第一項ニ當ルトキハ其日ヨリ之ヲ給セス第九條ニ當ルトキハ其日ヨリ給助ヲ停止ス

第六條 年金ヲ受ケタル者死亡又ハ給助例第五條第一項後段ニ當ルトキハ其翌月ヨリ給助ヲ廢止ス

第七條 年金ヲ受ケントスルトキハ其前月ノ盡日ニ於テ市町村長市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區戸長ノ證明シタル生存證書ヲ添ヘ元所屬衛戍監獄ニ出願スヘシ

〔參照〕

勅令第八十一號(明治二十七年七月二日官報)抄錄  
陸軍監獄看守海軍監獄看守ノ給助ハ明治十五年太政官達第四十一號巡查看守給助例ニ依ル  
但會計卒ニシテ看守ノ職ヲ奉シタル者引續キ看守トナリタル者若クハ看守卒ヨリ看守トナリタル者ハ前在職中ノ年數ヲ看守在職年數ニ通算ス

太政官達第四十一號巡查看守給助例(明治十五年七月十七日)抄錄

第五條 死亡給助ノ額

一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス

第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

一 俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者  
二 公權ヲ停止セラレタル者  
三 失踪シタル者  
四 許可ヲ得シテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

○陸軍省令第十九號

明治二十七年陸軍省令第九號ヲ廢止ス

明治二十七年八月二日

〔參照〕

陸軍省令第九號(明治二十七年六月七日)  
新聞紙條例第二十二條ニ依リ當分ノ内軍隊ノ進退及軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙雜誌ニ記載スルコトヲ禁ス但豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

○海軍省令第十二號

明治二十七年海軍省令第三號ヲ廢止ス

明治二十七年八月三日

〔參照〕

海軍省令第三號(明治二十七年六月七日)  
新聞紙條例第二十二條ニ依リ當分ノ内軍艦軍隊ノ進退及軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙雜誌ニ記載スルコトヲ禁ス但豫メ海軍大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

海軍大臣 伯爵 西郷 從道

○農商務省令第八號

農事講習所規程左ノ通相定ム

明治二十七年八月六日

農事講習所規程

第一條 此規程ニ農事講習所ト稱スルハ地方勸業費若クハ之カ補助ヲ以テ設立スル普通農事、蠶業、茶業、獸醫、蹄鐵、畜産ノ講習所若クハ傳習所ヲ謂フ

第二條 農事講習所ハ地方産業ノ改良進歩ヲ圖ルヲ目的トスヘシ

農商務大臣 子爵 榎本 武揚

第三條 農事講習所ノ教科目ハ農事ニ係ルモノヲ主トシ地方ノ情況ニ應シ補助教科トシテ數學、丈量、氣象、物理、化學、博物、地理、圖畫ノ類ヲ加フルコトヲ得

第四條 農事講習所ハ實習ヲ主トシ授業時間ノ過半ヲ之ニ充ツヘシ

第五條 農事講習所ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第六條 地方長官ニ於テ農事講習所ヲ設立シ若クハ補助セントスルトキハ講習所規則各種ノ豫定設備及經費概算額ヲ具シ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 地方長官ハ前條ノ認可ヲ經農事講習所ヲ設立シ若クハ補助スルトキハ速ニ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ但第二項ハ毎年三月三十一日マテニ其他ノ各項ハ變更ノ都度本條ノ手續ヲ爲スヘシ

一、名稱及位置

二、經費ノ種別及其豫算金額

三、實習設備ノ種別及其數又ハ其面積

四、建物ノ種別及其坪數

五、職員ノ履歷及教師ノ擔任教科目

第八條 地方長官ハ農事講習所ノ教師ヲシテ農事ニ關スル巡迴講話ヲナサシムルコトヲ得

第九條 農事講習所ハ便宜ノ季節ヲ撰ヒ隨所ニ開設スルコトヲ得

第十條 農事講習所業務ノ功程ハ前年度分取纏メ毎年四月二十日マテニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 水産講習所又ハ傳習所ハ此規程ニ準スヘシ

附則

第十二條 地方長官ハ現在ノ講習所若クハ傳習所ニ付來十月三十一日マテニ其規則ヲ添ヘ第七條ノ手續ヲ爲スヘシ

○文部省令第二十一號

明治二十四年文部省令第二十號小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則第五條第一項ノ次ニ左ノ三項ヲ加ヘ第六條第一項第三ヲ削リ同條第二項ノ末ニ「休職者ノ休職期限滿ツルトキ亦同シ」ノ十六字ヲ加フ

府縣知事ハ小學校正教員ニシテ高等師範學校、女子高等師範學校、工業教員養成所、尋常師範學校又ハ尋常師範學校ニ於ケル小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ休職ヲ命スルコトヲ得

豫備後備ノ軍籍ニ在ル小學校正教員戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職ヲ命セラレタルモノトス

休職ノ期限ハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス

明治二十七年文部省令第六號ヲ廢ス

明治二十七年六月五日以後此ノ省令施行以前ニ召集セラレタル者ハ其ノ召集ノ日ヨリ休職ヲ命セラレタルモノトス

明治二十七年八月十日

文部大臣 井上毅

〔參照〕

文部省令第二十號小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則(明治二十四年)抄錄

第五條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ其情狀ニ依リ休職ヲ命スヘシ但休職ノ期限ハ一箇年以内トス

一、傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者其職務ヲ行フニ妨ケアルコトニ箇月以上ニ及フトキ

二、學校編制ノ變更等ニ依リ其人ヲ要セサルニ至リタルトキ

休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサル等ノ外總テ本職者ト異ナルコトナシ

第六條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ退職ヲ命スヘシ

一、正當ノ理由ニ基キ退職ヲ願出テタルトキ

二、傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ終身其職務ニ堪ヘサルトキ

三、休職ノ期限滿ツルモ休職ヲ命シタル事由消滅セサルトキ

四 休職者ノ代員トシテ任用セラレタル場合ニ於テ休職者ノ復職スルトキ  
從前ノ成規ニ依リ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ效ヲ有スル小學校師範學科卒業證書ヲ有シ教員タル者ニシ  
テ其有效期間滿ツルトキハ特ニ辭令書ヲ用ヒシテ前項ニ依リ退職ヲ命シタル者ト同一ニ見做スヘシ

文部省令第六號(明治二十七年三月一日)

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ニ依リ高等師範學校ニ入學ノ許可ヲ得タル者現ニ市町村立小學  
校正教員ノ職ニ在ルトキハ地方長官ニ於テ其ノ在學中休職ヲ命スヘシ

○文部省令第二十二號

文部省版權所有ノ圖書ノ翻刻出版ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

明治二十七年八月十一日

文部大臣井上毅

第一條 文部省版權所有ノ圖書ハ其ノ種類ニ依リ明治二十七年十二月十一日以後此ノ省令ノ規定  
ニ依リ廣ク翻刻出版ヲ許可スヘシ但翻刻出版ヲ許可スヘキ圖書ノ名目ハ官報ヲ以テ公告スヘシ  
第二條 翻刻出版ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ其圖書ノ名目及翻刻出版シテ發賣スヘキ定價ヲ具シ  
文部大臣ニ願出ヘシ

前項及其ノ他此ノ省令ノ條項ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ  
第三條 翻刻出版ノ圖書ハ紙質脆弱又ハ粗惡ナルヘカラス印刷鮮明ニシテ製本鞏固ナルヲ要ス  
第四條 翻刻出版ノ圖書ハ文字ノ大小字體圖畫冊數枚數及每行ノ字數ハ原本ト異ナルヘカラ  
ス但圖書ノ種類又ハ部分ニ依リ本文ノ制限ニ依ラサラントスルトキハ見本ヲ添ヘテ豫メ文部大  
臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 翻刻出版ノ圖書ハ每冊ニ翻刻出版許可ノ年月日ヲ明記スヘシ

第六條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後定價ヲ變更セントスルトキハ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 翻刻出版ノ圖書ハ見本三部ヲ文部省ニ差出シ検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ經タル後ニアラ  
サレハ發行スルコトヲ得ス改版シタルトキモ亦同シ

第八條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後三箇月ヲ經テ出版セサルトキハ翻刻出版許可ノ效ヲ失フ

第九條 翻刻出版者ニ於テ定價ヲ超エタル價格ヲ以テ其ノ圖書ヲ發賣シ又ハ文部省ノ検査ヲ經タ  
ル見本ト異ナルモノヲ發行シ其ノ他前諸條ノ規定ニ背クトキハ文部大臣ハ何時ニテモ翻刻出版  
ノ許可ヲ取消スヘシ

第十條 前諸條ニ依ルノ外文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ翻刻出版者ヲシテ特ニ契約書ヲ差  
出サシメ相當ノ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十一條 地方長官ハ其ノ管内ニ行ハルノ翻刻出版ノ圖書ヲ監視シ若シ此ノ省令ノ規定ニ背クモ  
ノアルトキハ文部大臣ニ報告スヘシ

○大藏省令第十五號

本年勅令第四百四十四號軍事公債條例第四條ニ據リ其取扱順序左ノ通相定ム

明治二十七年八月十七日

大藏大臣渡邊國武

軍事公債取扱順序

第一條 軍事公債ノ募集ニ應シ大藏大臣ノ告示スル第一回ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假公債  
證書ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ假公債證書ト引換ニ本公債證書ヲ交付スヘシ  
第二條 前條ノ假公債證書ハ賣買讓與及抵當トナスコトヲ得  
但本條ニ關スル取扱順序ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 軍事公債ノ募集ニ際シ大藏大臣ノ指定シタル割合ヲ以テ納付シタル保證金ハ應募額確定  
ノ日ヲ以テ之ヲ第一期拂込金トナシ此拂込金ニ對シテハ整理公債條例第十二條ニ據リ本證書ト  
同一ノ率ヲ以テ之カ利子ヲ付シ整理公債條例第七條ニ據リ應募額減少ノ爲メ還付スル保證金ニ  
ハ之カ利子ヲ付セサルモノトス

第四條 軍事公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル期日ニ於テ第二期以下ノ拂込金ヲ爲スヘシ

但本條拂込金額ハ其時々之ヲ假公債證書ニ記入スヘシ  
 第五條 假公債證書ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ取扱店ニ證明シ更ニ假公債證書ヲ請求スルコトヲ得  
 第六條 應募者ニ交付スヘキ軍事假公債證書ハ取扱店ニ於テ保證金額收證書ト引換ニ之ヲ交付スヘシ  
 第七條 軍事公債取扱ニ關スル順序ハ本令ニ規定シタルモノ、外明治十九年十月十日大藏省令第二十號整理公債取扱順序ニ據ル

〔參照〕

勅令第六十六號整理公債條例(明治十九年十月十六日)抄錄  
 第七條 整理公債應募者每期需要ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス  
 但時宜ニ依リ或百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セサルコトアルヘシ  
 第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

○文部省令第二十三號

實業教育費國庫補助法ニ依リ補助金交付ノ手續並補助ヲ受クル學校ノ豫算決算ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

明治二十七年九月七日

文部大臣 芳川顯正

第一條 實業教育費國庫補助金ハ補助ヲ與フル月ヨリ月割ヲ以テ計算ス  
 第二條 實業教育費國庫補助金ハ每會計年度ヲ三期ニ區分シ四箇月分ヲ七月十一月三月ニ交付ス但實業教育費國庫補助法第六條但書ニ依リ補助ヲ廢止若クハ停止シタルトキハ本文ノ期月ニ拘ラス其月マテノ分ヲ交付ス  
 第三條 實業教育費國庫補助法施行規則第三條ノ經費豫算書ハ前年度豫算額及之ニ對スル比較増減ヲ示シ且ツ其細目ニ就キ説明ヲ付スヘシ  
 經費豫算書ニハ府縣稅又ハ市町村稅國庫補助金授業料等其ノ經費ニ充ツヘキ收入ノ豫算書ヲ添付スヘシ其ノ收入豫算書ハ前年度豫算額及比較増減ヲ示シ且ツ説明ヲ付スヘシ  
 第四條 實業教育費國庫補助法施行規則第三條ノ收支計算書ハ明治二十三年會計検査院達第四號書式ニ依リ調製シ正副二通ヲ差出スヘシ  
 第五條 基本財産ヲ有スル學校ハ前年度十二月末現在ノ種類數量及價格ヲ記載シ經費豫算書ニ添付スヘシ

〔參照〕

法律第二十一號實業教育費國庫補助法(明治二十七年六月十二日官報)抄錄  
 第六條 各學校ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後必要ニ依リ仍之ヲ繼續スルコトヲ得但シ文部大臣ニ於テ學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ第四條其ノ他文部大臣ノ定ムル所ノ規則ニ違背シタルトキ又ハ第五條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖補助ヲ廢止若ハ停止スルコトヲ得  
 文部省令第十四號實業教育費國庫補助法施行規則(明治二十七年六月二十日)抄錄

第三條 補助ヲ受クル學校ノ經費豫算ハ每會計年度前三十日ヲ限リ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ功程及收支計算ハ每會計年度經過後六十日以内ニ文部大臣ニ報告スヘシ

○內務省令第八號

本年內務省令第七號ヲ廢止ス  
明治二十七年九月十三日

內務大臣伯爵井上 馨

〔參照〕

內務省令第七號(明治二十七年八月二日)  
勅令第三百四十四號ニ依リ許可ヲ受クヘキ草稿ハ東京府下ニ在テハ內務省其他ノ地方ニ在テハ北海道廳府縣廳ニ差出スヘシ  
島嶼所在ノ地ニ在テハ島廳ニ差出スヘシ但北海道廳長官府縣知事ニ於テ遠隔ト認メ其旨ヲ公布シタル地方ニ在テハ其地方  
所轄警察署ニ差出スヘシ

○大藏省令第十六號

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程第二十一條ヘ左ノ一項ヲ加フ前項保管金ニシテ權利者自ラ其權利ヲ拋棄シ又ハ其他ノ事故ノ爲メ保管ノ必要ナク歳入ヘ編入スヘキモノハ其旨ヲ金庫ヘ通知スヘシ  
明治二十七年九月十三日

大藏大臣渡邊國武

〔參照〕

大藏省令第二十號保管物取扱規程(明治二十六年九月二十日)抄錄  
第二十一條 官廳ニ於テ金庫ヘ寄託シタル保管金ニシテ權利移轉又ハ其他ノ事故ノ爲メ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月日(本支期滿失効ノ年月日トハ各其詳ルヘキ)ニ變更ヲ生スルトキハ即日其旨ヲ金庫ヘ通知スヘシ

○陸軍省令第二十號

新聞紙條例第二十二條ニ依リ當分ノ內軍隊ノ進退及軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙雜誌ニ記載スルコトヲ禁ス但豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十七年九月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第十三號

新聞紙條例第二十二條ニ依リ當分ノ內軍艦軍隊ノ進退及軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙雜誌ニ記載スルコトヲ禁ス但豫メ海軍大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス  
明治二十七年九月十三日

海軍大臣伯爵西鄉從道

〔參照〕

勅令第七十五號新聞紙條例(明治二十年十二月二十九日官報)抄錄  
第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

○陸軍省令第二十一號

明治二十七年陸軍省令第十四號陸軍獸醫部現役士官補充條例第十八條ニ該ル者ノ召募採用規則第十一條ノ願書差出期限ヲ改正シ本年ニ限リ十二月十五日迄延期ス  
明治二十七年九月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○大藏省令第十七號

明治二十七年勅令第四百四十四號軍事公債條例第四條ニ據リ軍事公債假證書買賣讓與及抵當ニ關スル取扱順序左ノ通相定ム

大藏大臣渡邊國武

明治二十七年九月二十四日

軍事公債假證書買賣讓與及抵當ニ關スル取扱順序

第一條 軍事公債假證書買賣讓與ニ就テハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例第十六條第十七條第十八條第十九條ニ據リ尙明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序第二十七條第二

十八條第二十九條ヲ適用ス

第二條 軍事公債各期拂込ノ期日ヲ經過シ尙拂込ノ未済ナルモノハ其拂込ヲ了シタル後ニアラサレハ取扱店ニ於テハ軍事公債假證書ノ賣買讓渡等ニ係ル名前書換ヲ爲サ、ルヘシ  
但家名相續及遺產相續ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三條 軍事公債假證書ヲ抵當ニ差入レタル場合ニ於テモ各期ノ拂込金ハ其時々之ヲ該證書ニ記入スヘシ

〔參照〕

勅令第四百四十四號軍事公債條例(明治二十七年八月十六日官報)抄錄  
第四條 此ノ公債ヲ募集スルニ付キ其ノ總額價格利子歩合 應募申込日限 應募金拂込度數其ノ他必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

勅令第六十六號整理公債條例(明治十九年十月十六日)抄錄

第十六條 記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ雙方連署ノ請求書ヲ添へ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人タルコトヲ證明スル戸長ノ與書ヲ受ケ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續人ニ非スシテ證書ヲ讓リ受クルモノアルトキハ右相續人ヲ以テ保證人ト爲シ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ 但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有權他(移轉シタルトキ其引受人ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添へ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

大藏省令第三十號整理公債取扱順序(明治十九年十月十九日)抄錄

第二十七條 整理公債條例第十七條第十八條及第十九條ニ據リ記名證書ノ名前書換ノ請求アルトキハ取扱店ニ於テ其證書ニ證明シ記名簿ニ判印シテ證書ヲ交付スヘシ

第二十八條 整理公債記名證書ノ所有者其取扱店ヲ變換セントスルトキハ其旨ヲ甲店ニ申出テ其證書ヲ乙店ニ差出シ記名簿ニ登錄ヲ請フヘシ

第二十九條 甲(讓渡又ハ買渡人)乙(讓受又ハ買受人)取扱店ヲ異ニスルモノニシテ整理公債記名證書ノ賣買讓渡ヲナシタルトキハ順序第二十七條及第二十八條ノ手續ヲナスヘシ

○文部省令第二十四號

尋常中學校入學規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年九月二十九日

尋常中學校入學規程

文部大臣芳川顯正

第一條 尋常中學校ノ第一級ニ入學セシムヘキ者ハ身體健康年齡滿十二年以上ニシテ高等小學校第二級ノ課程ヲ卒業シタル者若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スル者トス

第二條 尋常中學校第一級入學者ノ學力ノ檢定ハ高等小學校第二級ノ課程ヲ卒業シタル志願者ニ對シテハ其修業證書ニ依リ其他ノ志願者ニ對シテハ試驗ニ依ル

高等小學校第二級ノ課程ヲ卒業シタル志願者ニハ其他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スコトヲ得但高等小學校第二級ノ課程ヲ卒業シタル志願者ノ數入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ仍試驗ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

第三條 尋常中學校第一級ノ入學試驗ハ高等小學校第二級ノ課程ヲ卒業シタル者ニ對シテハ讀書作文習字、算術ニ就キ其他ノ志願者ニ對シテハ尙日本歴史、日本地理ヲ加ヘ高等小學校第二級卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ



○文部省令第二十五號  
女子高等師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十七年十月二日

文部大臣 芳川顯正

女子高等師範學校規程

- 第一條 女子高等師範學校ノ學科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、歷史、地理、數學、理科、家事、習字、圖畫、音樂、體操トス
- 前項學科目ノ外外國語ヲ隨意科トス
- 第二條 女子高等師範學校ノ學科ハ尋常師範學校女子部ノ課程ニ照ラシ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス
- 第三條 修業年限ハ四箇年トス
- 第四條 第四年級生徒ハ附屬學校及幼稚園ニ於テ實地授業及保育ニ從事セシムヘシ
- 第五條 女子高等師範學校生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ地方長官之ヲ薦舉シ學校長ニ於テ試験ノ上選拔スルモノトス但臨時ニ缺員ヲ補充スルノ必要アルトキハ明治二十六年文部省令第十一號ニ依ルヘシ
- 一 身體健全品行方正ニシテ教員ニ適當ナリト認ムル者
- 二 尋常師範學校二箇年ノ課程ヲ終ヘタル者若ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者
- 三 年齡十六年以上二十一年未滿ノ者
- 第六條 入學試験ニ及第シタル者ハ一定ノ期間假ニ入學セシメ其ノ資性品行才能ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限リ本入學ヲ許スヘシ
- 假入學ノ生徒ハ自費トス但本項ハ明治二十八年度ヨリ施行スヘシ
- 第七條 生徒在學中疾病ニ依ルノ外自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還ス

明治二十七年十月 省令 文部省令第二十五號

卒業ノ後正當ノ事由ナクシテ服務ノ義務ヲ盡サ、ル者亦前項ニ同シ  
 文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ  
 第八條 尋常師範學校女子部又ハ高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル女子ニシテ女子高等師範學校學科中ノ一科目若ハ數科目ヲ撰ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得  
 第九條 明治十九年文部省令第十七號ヲ廢ス

〔參照〕

明治十九年四月十日 文部省令第十七號 高等師範學校ノ學科及其程度ナリ  
 文部省令第十一號(明治二十六年八月五日)  
 高等師範學校及女子高等師範學校ニ於テ生徒ノ缺員ヲ臨時補充スル必要アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則第一條乃至第三條ノ規程ニ依ラス學力年齡當該學級ニ相當ノ資格アル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

○內務省令第九號

米國ニ於テ發行スル金門日報第四百五十號第四百五十四號第四百五十五號第四百五十六號及ヒ第四百五十七號ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例第二十一條ニ依リ自今內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フ可シ

明治二十七年十月十九日

內務大臣子爵野村 靖

○陸軍省令第二十二號

大隊區司令部條例第十條ニ依リ漸ヲ以テ司令部ヲ置クヘキ大隊區ノ兼轄所屬左ノ通定  
 明治二十七年十月二十日 陸軍大臣伯爵西鄉從道  
 函館大隊區、空知太大隊區、天鹽大隊區、浦河大隊區、札幌大隊區司令部ノ所轄トス  
 釧路大隊區、十勝大隊區ハ根室大隊區司令部ノ所轄トス

〔參照〕

勅令第二十九號大隊區司令部條例(明治二十一年五月十四日官報)抄錄  
 第十條 函館、空知太、天鹽、釧路、十勝、浦河ノ各大隊區ハ土地ノ狀況ニ依リ漸ヲ以テ司令部及監視區長ヲ置ク其司令部及監視區長ヲ置ク迄ノ間ハ其大隊區ハ最寄大隊區司令部ヲ兼轄セシメ其監視區長ノ事務ハ最寄監視區長ヲシテ兼務セシムルヲ得  
 但函館大隊區中函館、江差、福山ハ第七師團設置迄青森大隊區司令部ノ管轄ニ屬ス  
 前項司令部及監視區長ノ設置並大隊區ノ兼轄所屬ハ陸軍大臣之ヲ定メ監視區長兼務ノ區域ハ師團長之ヲ定ム

○海軍省令第十四號

海軍少主計候補生採用試験規則左ノ通改ム

明治二十七年十月二十日

海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍少主計候補生採用試験規則

第一條 海軍高等武官候補生規則第五條ニ依リ海軍少主計候補生タラントスル者ハ願書第一號書式ニ履歷書第二號書式ヲ添ヘ告示シタル試験期日十日前マテニ海軍省軍務局ニ差出スヘシ  
 前項ノ試験期日ハ一箇月前ニ官報ヲ以テ告示スヘシ  
 第二條 試験ヲ受ケントスル者ニハ先ツ身體檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス  
 第三條 學術試験ハ左ノ科目ヲ用井テ之ヲ行フ  
 一 憲法 二 民法 三 行政法  
 四 財政學 五 經濟學 六 國際法  
 前記科目ノ外ニ外國語學簿記及數學ノ三科目ヲ試験ス該試験ノ項目及程度ハ每試験期日一箇月前ニ官報ヲ以テ告示スヘシ  
 以上ノ科目ハ試験ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス但外國語學ハ英佛獨ノ中ニ就キ受験者ヲシテ豫メ其一ヲ選擇セシメ之ヲ試験ス

一 刑法 二 商法

三 刑事訴訟法 四 民事訴訟法

以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其中ニ就キ豫メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試験ス

第四條 試験ハ分チテ筆記試験及口述試験トス

筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 試験合格ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

試験合格ノ有効期限ハ一箇年間トス

第六條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケント企タル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其期

ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス試験合格ノ後等ノ事實ヲ發見シタルトキハ其合格ハ無効トス

試験當日開始ノ時刻ニ出席セサルモノハ其期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第一號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)

海軍少主計候補生採用試験願

姓 名

何年何月何日生  
年號月 何年何箇月

私儀海軍少主計候補生採用試験相受度履歴書相添此段奉願候也

選擇科目 何

本籍  
現住所

姓 名 印

年 月 日

海軍省軍務局長宛

第二號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)

履歷書

何府縣華士族平民  
戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

姓 名

何年何月何日生  
年號月 何年何箇月

- 一 祖父母父母(養子ハ養實共ニ之ヲ記ス亡ナレハ亡ト記シ父兄位勳アレハ存亡共ニ之ヲ記ス(ハシ)
- 一 兄弟姊妹名
- 一 本籍(國郡市町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ詳記ス(ハシ))
- 一 現住地(右同)
- 一 官立公立尋常中學校若クハ之ト同等以上ト認メラレタル學校ノ卒業證書寫
- 一 法律及經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年以上ノ課程ヲ終ヘタル該校ノ證明書
- 一 職業技藝等
- 一 官廳會社等ノ職務ニ従事シタル事 各辭令ノ寫全文
- 一 現ニ官廳ニ奉職スル者ハ所屬長官ノ受驗認可書ヲ要ス
- 一 賞罰 賞狀寫及 罰文寫

右者海軍高等武官候補生規則第八條ニ抵觸セス且其出生年月ニ相違無之候也

何府縣何國何郡市區何町村

市區町村長 本籍ノ市  
區町村長 姓

名 印

年 月 日

○大藏省令第十八號

軍事公債假證書ノ利子ハ支拂期ニ至リ利札ヲ交付シ該利札引換ニ現金ヲ支拂フヘシ  
明治二十七年十一月一日  
大藏大臣渡邊國武

○海軍省令第十五號

明治十七年<sup>十月</sup>乙第十六號艦隊職員條例ヲ廢ス  
明治二十七年十一月十日  
海軍大臣伯爵西鄉從道

○司法省令第七號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改定追加ス  
一京都地方裁判所管内福知山區裁判所管轄金谷村ヲ下夜久野出張所ノ管轄トス  
一名古屋地方裁判所管内一宮區裁判所稻置出張所ヲ犬山出張所ト改稱ス  
一岐阜地方裁判所管内岐阜區裁判所管轄七鄉村、上西鄉村、中西鄉村、中村、小野村、網代村ヲ北方出張所ノ管轄トス  
一福島地方裁判所管内郡山區裁判所管轄内ニ田村郡小泉村ヲ加フ  
明治二十七年十一月二十日  
司法大臣芳川顯正

○大藏省令第十九號

明治二十七年法律第二十五號ニ據リ軍事公債五千萬圓ヲ募集ス  
此公債利子ハ一箇年百分ノ五トス  
此公債償還利子仕拂其他ノ取扱ハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ノ規定ニ準據スヘシ  
明治二十七年十一月二十二日  
大藏大臣渡邊國武

明治二十七年十一月 省令 大藏省第十八號 第十九號 海軍省第十五號 司法省第七號

〔參照〕

法律第二十五號(明治二十七年十月二十四日官報)  
清國及朝鮮國トノ交渉事件ニ關スル軍費支辨ノ爲メ 懲儉圖ヲ限リ一箇年六米以下ノ利子ヲ以テ漸次公債ヲ募集シ若クハ借入金ヲ爲スコトヲ得  
但募集借入ノ方法規約償還年限其他必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

○大藏省令第二十號

明治二十七年十一月十一日 大藏省令第十九號ヲ以テ募集スヘキ軍事公債取扱順序ハ同年八月八日大藏省令第十五號同年九月同省令第十七號及同年十一月同省令第十八號ヲ適用ス  
明治二十七年十一月二十二日 大藏大臣 渡邊 國武

〔參照〕

明治二十七年八月十日 大藏省令第十五號ハ軍事公債取扱順序 同年八月四日同省令第十七號ハ軍事公債假證書賣買譲與及抵當ニ關スル取扱順序ナリ

○逓信省令第七號

明治二十三年八月逓信省令第十七號電報局渡規則第八條中一箇年六圓ノ下ニ左ノ三十九字ヲ追加ス  
明治二十七年十一月二十六日 逓信大臣 伯爵 黒田 清隆  
及一名ノ受信人ニシテ二箇以上ノ局渡證票ヲ受領シタル者ハ一箇ヲ増ス毎ニ一箇年三圓

〔參照〕

逓信省令第十七號電報局渡規則(明治二十三年八月二十五日)抄録  
第八條第一項  
電報局渡證票ヲ受領シタル者ハ電報局渡料トシテ一箇年六圓ヲ納ムヘシ

○逓信省令第八號

明治十八年五月布達第九號本文第二項及第三項中「釜山」ノ二字ヲ删除シ明治二十七年十二月一日ヨ

リ施行ス

明治二十七年十一月二十七日

逓信大臣 伯爵 黒田 清隆

〔參照〕

布達第九號(明治十八年五月七日)抄録

第二項

一本邦ヨリ朝鮮國釜山ニ發著スル電報ハ和文片假名七字歐文ハ一語ヲ以テ一音信トス片假名七字ニ滿タサルモ亦同シ

第三項

一本邦ヨリ朝鮮國釜山ニ發著スル電報和文ハ受信人ノ住所氏名ヲ字數ニ算入セス歐文ハ發信人受信人ノ住所氏名共ニ字數ニ算入ス

○陸軍省令第二十三號

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則細則左ノ通定ム

明治二十七年十一月一日

陸軍大臣伯爵西鄉從道

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則細則

- 第一條 本規則第二條ノ手當金ハ傷疾疾病者現時所屬ノ師團若クハ其留守師團司令部所在地ノ監督部ニ於テ毎月之ヲ支給ス但師團ニ屬セサル者ハ總テ臨時陸軍中央金櫃部ニ於テ支給ス  
歸鄉療養者ハ毎月末日ニ於テ其月分ノ手當金請求書<sup>第一號</sup>ニ郡區長若クハ市町村長ノ生存證明ヲ得師團若クハ其留守師團司令部又ハ陸軍省經理局第三課ヲ經テ當該監督部又ハ臨時陸軍中央金櫃部ニ出シテ受領スヘシ
- 第二條 手當金ハ歸鄉療養ヲ命セラレタル翌日ヨリ退職、免官、免役<sup>現役免除常備後備免役</sup>若クハ復職復隊ヲ命セラレタル日マテ支給ス但死亡スルトキハ其當日マテ支給ス<sup>除ヲ包含ス以下同シ</sup>
- 第三條 本規則第三條ノ病衣、補缺器械又ハ副木類ハ歸鄉ヲ命シタル病院ニ於テ支給ス
- 第四條 本規則第四條ノ旅費ハ行程三里以上ニアラサレハ之ヲ給セス但三里未満ト雖モ步行シ難キモノハ車馬料ヲ給ス
- 第五條 旅費計算ノ法ハ陸軍給與令第六十六條及同細則第九章第一條乃至第三條ニ依ル
- 第六條 本規則第五條ノ治療費ヲ請求セントスル者ハ地方醫師若クハ地方病院ノ證明書<sup>第二號</sup>ニ
- 第五條 歸鄉旅費ハ歸鄉ヲ命シタル病院ニ於テ支給シ召喚旅費ハ召喚ヲ命シタル廳ニ於テ支給ス
- 第六條 本規則第五條ノ治療費ヲ請求セントスル者ハ地方醫師若クハ地方病院ノ證明書<sup>第二號</sup>ニ

請求書<sup>第三號</sup>ヲ添へ歸郷ヲ命セラレタル病院へ差出スヘシ但平時ノ姿勢ニ復シ歸郷ヲ命セラレタル病院閉鎖セル場合ニ在テハ在住所ノ師團司令部ヲ經テ當該備成病院へ差出スヘシ

第七條 傷痍疾病再發者ニシテ陸軍病院ニ於テ治療ヲ爲ストキハ其治療費ヲ官給トス但入院セシムルトキハ其食料ヲ自辨セシム

第八條 傷痍疾病全癒シ復職復隊ヲ命セラレタル者ハ其所屬部隊ニ於テ居住地ヨリ部隊所在地マテ第四條ノ例ニ依リ陸軍給與令第三十二表ノ旅費ヲ給ス

第九條 歸郷療養ヲ命シタル病院ハ當該傷痍疾病者ノ所屬部隊並居住地官氏名及歸郷ヲ命シタル年月日ヲ現時所屬ノ師團監督部<sup>師團ニ屬セサル者ハ陸軍省經理局第三課</sup>並ニ現時本人ノ係給其他ノ給與ヲ爲シタル部隊へ通報スルモノトス

現時係給其他ノ給與ヲ爲シタル部隊ニ在テハ前項ノ通報ニ依リ歸郷ヲ命セラレタル翌日ヨリ之カ支給ヲ止ム

退職、免官、免役若クハ復職復隊ヲ命シタルトキハ其所屬部隊ヨリ直ニ之ヲ手當金支給ノ廳ニ通報スヘシ

第十條 歸郷療養中死亡シタルトキハ其遺族若クハ親戚ヨリ郡區長若クハ市町村長ノ證明<sup>第四號</sup>ヲ得テ歸郷ヲ命セラレタル病院へ届ケ出ヘシ但平時ノ姿勢ニ復シ歸郷ヲ命セラレタル病院閉鎖セル場合ニ在テハ第六條但書ニ同シ

第十一條 甲師團ノ歸郷療養者ノ居住地乙師團ノ所管ナルトキハ其手當金ノ支給ヲ乙師團監督部ニ請求スルコトヲ得此場合ニ在テハ本人ヨリ甲師團監督部へ願出テ甲師團監督部ハ其名籍ヲ乙師團監督部ニ移スモノトス

臨時陸軍中央金櫃部ヨリ手當金ノ支給ヲ受クヘキ者其居住地第一師管外ナルトキハ前項ノ例ニ

準ス

第一號書式 用紙半紙

手當金請求書

一金何圓也

但歸郷療養手當金何年何月分(何年何月何日ヨリ何日迄ノ分) 右御渡相成度候也

年月日

何師團監督部(臨時陸軍中央金櫃部)

御中

年月日

何府(縣)何郡(區)(市)何町(村)長 氏 名

注意

「支給額ノ所在地ニ居住ノ者ハ此請求書ヲ郵送スルモ妨ナシ此場合ニ在テハ金額ノ送付ヲ受ケタルトキ直ニ受領證書ヲ郵送スルモノトス」

「支給額ノ所在地ニ居住ノ者ハ此請求書ヲ持參シ金額引換ニ受領證書ヲ差出スモノトス」

以下金額受領ノトキハ前二項ニ準ス」

第二號書式 用紙半紙

證明書

府(縣)郡(區)(市)町(村)番地 陸軍何兵何等卒 氏 名

右ハ何年何月何日何々ノ爲メ診ヲ請フニ依リ之ヲ診スルニ當時ノ症狀何々依テ何々ノ部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ附

後経過云々治療(依リ何月何日死亡ト記ス)セシモノニシテ既往何ノ傷痕(傷痕ハ成ルヘ)再發シタルモノト診斷ス而シテ右治療中ニ消費シタル入院料(診療料、藥費)ハ別紙明細書ノ如シ(別紙ハ適宜ノ欄數ヲ以テ金額)前書之通證明候也

年月日

第三號書式 用紙半紙

請求書

府(縣)郡(區)市(町)村(番地)

醫師(何病院主任醫)

氏 名

何府(縣)何郡(區)市(町)何町(村)何番地住

何師團(軍)何部(隊)附

官 氏 名

右何年何月何日歸郷療養ヲ命セラレ候處何月何日創傷(病症)再發何月何日治療(死亡)候ニ付右加療ノ爲メ金何程ヲ費シ候間陸軍軍人軍醫歸郷療養者給與規則第五條ニ依リ該費御下付相成度別紙醫師證明書相添及請求候也

年月日

右 氏 名

(死亡者ニ在テハ遺族署名捺印スヘシ)

何府(縣)何郡(區)市(町)何町(村)何番地住

何師團(軍)何部(隊)附

官 氏 名

何陸軍豫備病院(何衛戍病院)

御 中

第四號書式 用紙半紙

死亡届

右何年何月何日歸郷療養命セラレ候處何々ニ依リ何月何日致死去候間此段及御届候也

官 氏 名

年月日

何陸軍豫備病院(何衛戍病院)

御 中

右遺族(親戚)

氏 名

前書之通相送無之候也

年月日

何府(縣)何郡(區)市(町)何町(村)長

氏 名

○陸軍省令第二十四號

徵兵事務條例施行細則中左ノ通改正ス

明治二十七年十二月三日

陸軍大臣伯爵西郷從道

徵兵事務條例施行細則

第二條中「人名書」ノ下ニ「各事項ヲノ割註ヲ加フ」

第四條第一項中「選定シ」ノ下ニ「要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ」ノ十五字ヲ加フ

第十五條中「其事故」ノ下ニ「繼續シテ」ノ四字ヲ加フ

第十八條中「選定シ」ノ下ニ「要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ」ノ十五字ヲ加フ

第三十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

大隊區外ニ轉籍シタル者ニ在テハ舊住地大隊區司令官ヨリ其召集ノ場所及日時ヲ新住地大隊區司令官ニ通報シ新住地大隊區司令官ハ前項ノ手續ニ依リ之ヲ各自ニ達ス可シ寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ本籍ニ復歸シタル者亦同シ

第二十五條中「高田」ヲ「直江津」ニ「神戸」ヲ「京都神戸」ニ改ム

第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

新兵入營後十二月三十一日迄ノ補缺ハ師團司令部及鎮守府ヨリ當該大隊區司令部ニ通報スルモ



ノトス

第三十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

新兵入營ノ期ニ迫リ條例第五十三條ニ依リ徵集延期ヲ願出ル者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官一時其入營ヲ差止メ置キ旅團長ニ具申ス可シ

第一様式欄外第二項併記スヘシノ下ニ「第二第四第五第六様式亦之ニ準ス」ノ十五字ヲ加ヘ第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

四 諸學生ハ其種類ニ依リ備考區畫中ニ醫學生、獸醫學生、電信技術生、漢學生、何學校修業或ハ卒業等ヲ併記スヘシ

第五様式裏面心得第九項中「ハ其往先ヲ詳ニシ」ヲ「徵集ノ命ヲ通報スヘキ者ヲ定メ」ニ改メ「但豫備徵員ハ」ノ六字ヲ削リ「處セラレモノトス」ヲ「處セラレ又通報人正當ノ事由ナクシテ徵集ノ命ヲ通報セス若クハ遲緩シタルトキハ科料又ハ拘留ニ處セラレ」モノトスニ改ム

〔參照〕

陸軍省令第一號徵兵事務條例施行細則(明治二十二年二月二十八日)抄録

第二條 徵兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書ヲ作り壯丁名簿ニ添附ス可シ

第四條第一項 大隊區徵兵警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官到署ノ上之ヲ開設ス可シ

第十五條 徵兵令第二十條ニ當リ其事故三箇年ヲ過ケルモ仍ホ止マサル旨届出ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ大隊區徵兵警備隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ書翰シテ其意見書ニ自ラノ意見ヲ附シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到署ノ上之ヲ開設ス可シ

第三十三條 新兵入營ノ期ニ先タチ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛師團海軍新兵集合地ニ到ル日數ヲ置リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ

第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛師團海軍新兵集合地ハ左ノ如シ

第一師管ハ東京、横須賀

第二師管ハ仙臺、白河、高田

第三師管ハ四日市、沼津、名古屋

第四師管ハ神戸

第五師管ハ廣島、吳、丸龜

第六師管ハ小倉、佐世保

第三十八條 條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ但他ノ大隊區又ハ警備隊區ニ轉籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ハ轉籍地大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ通知ヲ得テ其取扱ヲ爲ス可シ

第三十九條 新兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ旅團長ニ具申ス可シ但新兵召集地若クハ新兵交付ノ際ニ於テ若シ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時其入營ヲ差止メ區キ本條ノ手續ヲ爲ス可シ

新兵召集員新兵召集地若クハ新兵交付ノ際ニ於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷證書ヲ添ヘ大隊區司令官ニ具申ス可シ

○陸軍省令第二十五號

陸軍教導團生徒召募規則左ノ通改正ス

明治二十七年十二月十一日

陸軍大臣伯耆西郷從道

陸軍教導團生徒召募規則

第一條 陸軍教導團生徒ハ年齡滿十八年以上二十五年以下ニシテ歩兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ下士志願者中身體検査學科試験ノ成績ニ依リ所要人員ヲ採用ス

其年齡ヲ算スルハ召集ニ應スヘキ年ノ四月ヲ以テス

第二條 左ニ掲グル者ハ志願者タルヲ得ス但入團願書差出ノ後本條ノ事故ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長、東京、京都、大阪、三市ニ在ルハ區長以下之ニ依リハ速ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ報告シ同官ハ之ヲ教導團長ニ報告スヘシ

一 陸海軍現役、豫備役、後備役ニ在ル者

二 妻アル者

三 復讐ヲ得サル家資分散者、破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

五 前諸項ノ外素行修マラサル者

第三條 砲兵、工兵科ハ身長五尺二寸以上步兵、騎兵、輜重兵科ハ五尺以上ニシテ體質強壯ナルヲ要ス

第四條 學科試験科目左ノ如シ

一 讀書 日本外史又ハ日本政記ノ類(通讀)

二 作文 記事文(漢字交リ)及通俗文  
但作文ヲ以テ作字ノ巧拙ヲ試験ス

三 數學 整數四則、分數、比例、開平、開立  
試験ハ一科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ其總點數ヲ比較シテ優劣ヲ定ム但一科ニ落第スル者ハ假令總點數ニ於テ優等ナリト雖トモ採用セズ

第五條 志願者ハ第一書式ノ願書ニ第二第三書式ノ履歷書及戶籍寫各副本ヲ添ヘ召募ニ應スヘキ前年ノ九月三十日迄ニ町村長ノ與書證印ヲ受ケ島司郡長ニ差出シ市ニ在テハ直ニ市長ニ差出スヘシ但父兄親族等一家ノ戶主ニシテ身元慥ナル二名ノ保證人ヲ要ス

島司郡市長ハ前項ノ願書ニ與書證印ノ上第四書式ノ志願者連名簿及各自ノ里程調書順路ニ基キ路ノ區別ヲナシ若シニ道アルヲ添ヘ之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付シ同官ハ十月三十一日迄ニ其人名及希望兵科ヲ教導團長ニ通報スヘシ

第六條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ身體検査及學科試験ノ時日ヲ定メ教導團長及島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ之ヲ本人ニ通達スヘシ

第七條 志願者ノ身體検査及學科試験ハ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其司令部所在地ニ於テ之ヲ行フ

其身體検査ハ司令部最寄衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシム之カ爲メ大隊區司令官ハ検査日割ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ請求スルモノトス

學科試験ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官身體検査合格者ニ就テ之ヲ爲スヘシ

第二項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

志願者検査場ヘノ往復旅費及滞在費ハ自辨トス

甲大隊區ノ志願者ニシテ居住地最寄ノ乙大隊區司令部ニ於テ身體検査及學科試験ヲ受ケンコトヲ出願スル者アルトキハ甲乙兩大隊區司令官協議ノ上之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 學科試験ノ問題ハ教導團長之ヲ作り密封シテ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第九條 志願者ハ検査時日ニ後レサル様當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ出頭シテ指揮ヲ受クヘシ疾病其他ノ事故ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メ時日ヲ延ハスコトナシ

第十條 志願者試験ヲ受ケタル後ヲ轉住スルトキハ速ニ舊住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團ニ届出且ツ之ト同時ニ新住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヘモ届出ヘ

又已ムヲ得サル事故ニ由リ志願取消ヲ爲ントスル者ハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ其願書ヲ教導團ヘ差出スヘシ

第十一條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ學科試験ヲ終レハ受験者ノ答解書ヲ取纏メ之ニ第五條ノ島司郡市長ヨリ受領シタル書類ヲ添ヘ連名簿ニ各自希望ノ兵科ヲ記入シテ十二月三十一

日迄ニ教導團長ニ送付スヘシ

第十二條 教導團長ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ送付スル所ノ答解書ヲ審査シ採用スヘキ者ト否トヲ決定シ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其採用者ニハ入團ヲ命スヘシ

第十三條 入團ノ達ヲ受ケタル者ニハ其居住地受驗當時ノ居住地ヨリ教導團迄ノ里程ニ應シテ舟車馬料及日當ヲ當該監督部ヨリ支給ス但自己ノ便宜ヲ以テ入團期日前早著シ滞在スル者アルモ日當ヲ増給スルノ限リニアラス

第十四條 入團ヲ命セラレタル者居住地出發前疾病其他ノ事故ヲ生シ入團延期ヲ出願セントスルトキハ入團期日ヨリ何日間猶豫ノ旨疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ市ヲ記載シ其願書ヲ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ經テ教導團長ニ差出スヘシ又入團途中ニ於テ同一ノ事故ヲ生シ期日ニ著團シ難キトキハ電報若クハ郵便ヲ以テ教導團長ニ届出事故止ミ著團ノ節疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ其地ノ市町村長若クハ船長等ノ證明書ヲ以テ更ニ届出ヘシ

第十五條 入團期日後十日以内ニ到著セサル者ハ除名スヘシ

第十六條 入團ノ達ヲ受ケタル者故ナク出發ヲ遲延シ若クハ無届ニテ期日ニ到著セス或ハ自己ノ不注意ヨリシテ期日ニ後レタル者ハ採用セサルノミナラス支給セシ旅費ヲ返納セシム

第十七條 採用スヘキ者著團スルトキハ再ヒ身體検査ヲ行フヘシ此検査ニ於テ不合格ノ者ハ歸郷セシメ其旨ヲ教導團ヨリ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ通報ス但自己ノ不攝生等ヨリ發病スルモノト認ムルトキハ之ニ歸郷旅費ヲ給セサルノミナラス入團旅費ヲ返納セシムルモノトス

第十八條 生徒入團ノ上ハ教導團條例第十五條ニ據リ左ノ誓約ヲ爲サシム

誓文

今般陸軍出身志願ニ付教導團生徒奉願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且御定規ノ服役年間ハ假令疾病ト雖トモ醫官ノ診斷ニ依ラスシテ免役ヲ請願致候等ノ儀毛頭仕間敷候依テ誓文如件

年 號 月 日

姓 名 印

附 則

第十八條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十九條 沖繩縣下ノ志願者ニ關シ大隊區司令官ノ取扱ニ係ルモノハ當分ノ内沖繩分遣步兵隊長之ヲ取扱フヘシ

第二十條 明治二十八年召募ノ者ニ限リ第五條ノ願書差出期限ヲ一月十五日第十一條ノ書類送付期限ヲ二月十五日迄トシ第五條ノ人名通報期限ハ適宜トス但第五條ノ願書其他ノ書類ハ島司郡市長ヨリ一月二十五日迄ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第一號書式 用紙美濃紙

教導團入學願

陸軍出身志願ニ付教導團生徒トシテ入學仕度候間御試驗ノ上御採用被下度入團ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ引受可申依テ願書及戸籍寫相添保人連署此段奉願候也

年 號 月 日

何國何郡(市)何町(村) 第一希望何科 第四希望何々  
 何國何郡(市)何町(村) 第二希望何々 第五希望何々  
 何番地住(寄留) 第三希望何々

府(縣)何族(平民)職業 月主ニ非レハ其子弟等

姓 名 印

年 號 月 日 生

明治何年何月何年何箇月

第二號書式 用紙美濃紙

身元保證人  
府(縣)何族(平民) 姓 名 印  
何國何郡(市)何町(村)何番地住(寄留) 姓 名 印  
同上 姓 名 印  
同上 姓 名 印

陸軍教導團長官姓名殿  
右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也  
府(縣)市(郡町)村(長) 姓 名 印  
前書之通相違無之候也 府(縣)島司(郡長) 姓 名 印

第二號書式 用紙美濃紙

履歷書 書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノハ悉ク記載スヘシ

府(縣)何族(平民)職業  
戸主ニ非レハ其子弟等

一 何年何月種痘(天然痘)  
一 陸海軍現役、豫備役、後備役ニアラス 姓 名  
一 妻ナシ  
一 家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシコトナシ  
一 家資分散ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復権ヲ得タリ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシモ負債ノ辨償ハ既ニ完了ス  
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ  
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ  
一 及賭博犯ノ處分ヲ受ケシコトナシ  
一 何年月日任何官(免本官) (免官) (免職) (免職)  
一 何年月日何職被申付(何職被免) (何職被免)  
一 何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)入學何科卒業(何學修業)  
一 何年月日ヨリ何年月日迄何學研究(商業)ノ爲メ何國(外國)ニ在留

第三號書式 用紙美濃紙

戶籍寫 戶籍中現在スル者ノミヲ記載スヘシ

一 祖父 某 姓 名 印  
一 祖母 某 姓 名 印  
一 父 某 姓 名 印  
一 母 某 姓 名 印  
一 兄 某 姓 名 印  
一 弟 某 姓 名 印  
一 姉 某 姓 名 印  
一 妹 某 姓 名 印

何年月日徵兵(士官候補生、幼年學校生徒、教導團生徒、海軍兵學校生徒等)ノ検査ヲ受ケ體格(身長、體重、視力、聴力、學科)ニ合格セス  
何年月日何々ニ依テ賞典何々下賜  
何年月日何々ノ科ニ依リテ何罰申付ラル

右之通相違無之候也  
年號月日

本人 姓 名 印  
身元保證人 姓 名 印

第四號書式 用紙半紙

陸軍教導團生徒志願者連名簿		何縣何郡(市)	
籍	要	年	姓
	府縣族籍職業	何年四月調	名

○文部省令第二十六號

小學校補習科徒弟學校實業補習學校ニ於テハ便宜體操ヲ加フルコトヲ得

明治二十七年十二月十一日 文部大臣侯爵西園寺公望

○文部省令第二十七號

明治二十五年文部省令第十三號ニ依ル尋常師範學校教員檢定試験ト明治十九年文部省令第二十一號ニ依ル尋常中學校高等女學校教員檢定試験ヲ同時ニ施行スル場合ニ於テ其試験ヲ請フ者ハ各別ノ願書ヲ要セス併セテ之ヲ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ檢定手数料ハ金貳圓トシ各別ニ之ヲ納ムルヲ要セス但免許狀授與手数料ハ仍各別ニ之ヲ納ムヘシ

明治二十七年文部省令第八號第八條ニ依リ檢定ヲ請フ者モ前項ノ例ニ依ルコトヲ得  
明治二十七年十二月十一日 文部大臣侯爵西園寺公望

〔參照〕

文部省令第八號(明治二十七年三月五日)抄錄  
第四條 左ニ掲グル者ニ限リ學力ノ試験ヲ須井スシテ檢定ヲ行フ

- 一 高等ノ官立學校ニ於テ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生
- 二 元古典講習科卒業生及理科大學簡易講習科優等卒業生
- 元體操講習所卒業生ハ普通體操ニ關シ陸軍教導團卒業生ハ兵式體操ニ關シ第一項ニ依ルコトヲ得
- 第五條 左ニ掲グル者ニ限リ檢定委員ノ意見ニ依リ試験ヲ免除シ又ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得
  - 一 大學預科ヲ修メタル者及理科大學簡易講習科卒業生
  - 二 高等中學校卒業生
  - 三 教員タラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者
  - 四 教員タラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ官立學校ニ於テ教員タル者及教員タリシ者
- 第八條 本令第四條及第五條ニ掲グル者ハ何時ニテモ檢定ヲ出願スルコトヲ得但第五條ニ掲グル者ニ對シ試験ヲ行フハ一般ノ檢定試験ト同一ノ時期ニ於テス

○外務省令第九號

明治二十六年外務省令第二號公使館領事館費用條例施行細則第十四條ヘ左ノ一項ヲ追加ス  
明治二十七年十二月十九日 外務大臣子爵陸奧宗光

公使館領事館新築又ハ改造ノ際特ニ物品ノ新調ヲ要スルモノアルトキハ外務大臣ニ於テ實際必要ト認タルモノニ限リ第十三條ノ規定ニ拘ハラズ一時限リ官費備附ケ其費額ハ總テ實費精算ヲ要スルモノトス

○遞信省令第九號

日本帝國及獨逸間交換小包郵便規則左ノ通り相定メ明治二十八年一月一日ヨリ施行ス  
明治二十七年十二月二十四日 遞信大臣伯爵黑田清隆

第一條 獨逸小包郵便物ハ遞信省告示ヲ以テ特ニ指定シタル郵便電信局及郵便局ニ限リ之ヲ取扱フモノトス  
第二條 小包郵便料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ前納スヘシ

但差出人へ還付若クハ受取人へ再達ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第三條 日獨小包郵便物交換約定第十條及同約定實施細目規則第四條ニ記載スルモノ、外左ニ記載スル物品ハ小包郵便物トシテ遞送スルヲ許サス

一 流動物、流動腐敗シ易キ物、鮮化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品

但流動物及溶解シ易キ脂肪物ハ二重ノ器物ヲ用ヒ吸入性ノ物質ヲ以テ兩器ノ間隙ヲ填充シテ包裝シ其ノ他ノ物品ハ他ノ郵便物ヲ傷害セサル様適宜ニ包裝シ受付局ノ承認ヲ經ルトキハ此ノ限ニアラス

二 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫真及物品

三 以上列記スルモノ、外特ニ告示スル物品

第四條 小包郵便物ハ表面ニ「外國小包」ト朱書シ獨逸小包取扱局ニ差出シ其ノ受取證ヲ受クヘシ且其ノ差出人ハ引受局ヨリ送狀及稅關告知書用紙ヲ受取り之ニ其ノ指定ノ事項ヲ記載シ記名調印ノ上小包ト共ニ差出スヘシ

第五條 同一ノ差出人ヨリ發シ同一ノ受取人ニ宛タル小包郵便物ハ其ノ數三箇以內ハ單ニ一葉ノ送狀及一葉ノ稅關告知書ニ之ヲ記載スルヲ得

第六條 郵便局ニ於テ小包郵便物中遞送禁止ノ物品封入アリト思料シタルトキ又ハ封入物品稅關告知書ニ記載ノ物品ト相違アリト推察シタルトキハ之カ開示ヲ命スルコトアルヘシ其ノ命ニ應セサルモノハ遞送ヲ拒絕スヘシ又包裝方不充分ト認定シタルトキハ之カ改裝ヲ命スルコトアルヘシ其ノ命ニ應セサルモノ亦前段ニ同シ

第七條 到著小包郵便物ハ送狀又其ノ到達證請求ノモノニハ到達證ヲ添ヘ之ヲ配達ス受取人ハ該書類ニ記名調印シテ受取ルヘシ

本人ノ家族及雇人本人ニ代テ小包ヲ受取ルトキハ何某代人ト記載シテ記名調印スヘシ肩書ノ家ニ於テ本人ニ代テ小包ヲ受取ルトキハ其ノ家主何某代人ト記載シテ記名調印スヘシ官衙、公署、社、寺、學校、病院、會社、協會、船舶等ニ於テ小包ヲ受取ルトキハ相當ノ資格ヲ有スルモノ記名調印スヘシ

第二項、第三項及第四項ノ場合ハ之ヲ正當受取人ニ交付シタルモノトス

第八條 輸入稅ヲ徵收スヘキ小包郵便物ハ受取人ノ居宅ニ配達セス小包到著通知書ヲ配達シ之ト共ニ送狀、輸入願書、又其到達證請求ノモノニ對シテハ到達證ヲ送付スヘシ受取人該通知書ヲ受領セントキハ三十日以內ニ右書類ニ記名調印シ輸入稅金ト共ニ郵便局ニ持參シテ小包ヲ受取ルヘシ

第九條 小包郵便物ニシテ輸入稅ヲ課スヘキモノナルトキ若クハ郵便料未納ノモノナルトキハ受取人其ノ稅金、料金ヲ納付スルニアラサレハ之ヲ受取ルコトヲ得ス

第十條 配達及還付シ能ハサル小包郵便物ハ郵便條例第十一章ニ準シテ處分スヘシ

第十一條 小包郵便物ノ損傷アルモノヲ配達交付スルトキハ郵便局ニ於テ損害認定書ヲ作り之ニ添付スヘシ

但認定書記載ノ事實ハ追テ審査ノ上變更スルコトアルヘシ

第十二條 小包郵便物損傷若クハ紛失ノ場合ニ於テ賠償ヲ求ムルモノハ其小包ヲ引受ケ若クハ配達シタル郵便局ヘ書面ヲ以テ申出ツヘシ

第十三條 小包郵便物損害賠償ノ許否及其ノ賠償金額ハ逓信省ニ於テ之ヲ定ム其ノ獨逸郵政廳ト相關係スル場合ニ於テハ逓信省ニ於テ獨逸郵政廳ト合議ノ上之ヲ定ムヘシ

○逓信省令第十號

明治二十三年逓信省令第十九號日本加那太間ニ交換スル小包郵便規則中左ノ通り改正追加シ明治

二十八日一月一日ヨリ施行ス

明治二十七年十二月二十四日

第一條左ノ通り改正ス

逓信大臣伯爵黒田清隆

加那太小包郵便物ハ逓信省告示ヲ以テ特ニ指定シタル郵便電信局及郵便局ニ限り之ヲ取扱フモ  
ノトス

第五條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但小包ニハ「外國小包」ト朱書スヘシ

第八條左ノ通り改正ス

到著小包郵便物ハ配達證ヲ添ヘ之ヲ配達ス受取人ハ配達證ニ記名調印シテ受取ルヘシ  
本人ノ家族及雇人本人ニ代テ小包ヲ受取ルトキハ何某代人ト記載シテ記名調印スヘシ  
肩書ノ家ニ於テ本人ニ代テ小包ヲ受取ルトキハ其ノ家主何某代人ト記載シテ記名調印スヘシ  
官衙公署社寺學校病院會社協會船舶等ニ於テ小包ヲ受取ルトキハ相當ノ資格ヲ有スルモノ  
記名調印スヘシ

第二項第三項及第四項ノ場合ハ之ヲ正當受取人ニ交付シタルモノトス

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ第九條トス

輸入税ヲ徴收スヘキ小包郵便物ハ受取人ノ居室ニ配達セス小包到著通知書ヲ配達シ之ト共ニ配

達證及輸入願書ヲ送付スヘシ受取人該通知書ヲ受領セシトキハ通知書發送ノ日ヨリ三十日以内

ニ右書類ニ記名調印シ輸入税金ト共ニ郵便局ニ持參シテ小包ヲ受取ルヘシ

原第九條ヲ第十條トシ左ノ通り改正ス

小包郵便物ニシテ輸入税ヲ課スヘキモノナルトキ若クハ郵便料未納ノモノナルトキハ受取人其

税金料金を納付スルニアラサレハ之ヲ受取ルコトヲ得ス

新第十條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ第十一條トス

配達及還付シ能ハサル小包郵便物ハ郵便條例第十一章ニ準シテ處分スヘシ

〔参照〕

逓信省令第十九號日本加那太間ニ交換スル小包郵便規則(明治二十三年九月十一日抄録)

第一條 加那太(宛テ差出スヘキ小包郵便物ハ左ノ各局ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ(局名略ス)

第五條 小包郵便物差出者ハ引受郵便電信局ヨリ税関告知書用紙ヲ受取り之ニ其指定ノ要件ヲ記載シ其小包ニ貼付シテ

差出スヘシ

第八條 小包郵便物到着シタルトキハ其受取人居住地ヲ管轄スル郡市役所所在地ノ郵便電信局又ハ郵便局ヨリ到着報知書

ヲ發スヘシ受取人ハ其局ニ就テ之ヲ受取ヘシ

第九條 到着小包郵便物ニシテ輸入税ヲ課スヘキ物品ナルトキハ受取人其税金ヲ納付スルニアラサレハ其郵便物ヲ受取ル

コトヲ得ス

○陸軍省令第二十六號

明治二十七年勅令第六十四號陸軍雇員等死傷者手當金給與細則左ノ通定ス

明治二十七年十二月二十八日

死傷者手當金給與細則

陸軍大臣伯爵西郷從道

第一條 明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ書類ヲ

具シ居住地所管ノ師團長又ハ屯田兵司令官ヘ願出ツヘシ

死亡者

一願書(第一) 履歷書、戶籍書寫、死亡報告書又ハ軍醫死亡證書若クハ主治醫死亡證書

傷痍疾病者

一願書(第二) 履歷書、軍醫診斷證書又ハ主治醫診斷書

第二條 師團長又ハ屯田兵司令官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ陸

軍大臣ヘ上申スヘシ

明治二十七年十二月 省令 陸軍省第二十六號

二二五

第三條 本令第九條ノ死者遺族ハ同戶籍内ニ在ル寡婦孤兒父母祖父母兄弟姊妹等トス

但手當金ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ以下本文ノ順次ニ依ル

第四條 本令第十條ニ掲クル慰勞金ハ所屬長官審ラカニ事實ヲ調査シ其金額ヲ定メ意見ヲ具シ順次陸軍大臣へ上申スヘシ

第五條 本令第一條第二項ニ該ル區域ハ特設部及特設隊要塞砲兵隊ニ屬スル者トス

第六條 本令第二條傷痍疾病ノ等差ハ明治二十五年當省達第九十九號陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例ヲ適用ス

第七條 本令第三條第四條第五條士官下士卒ニ準スヘキ職務ノ區分雇員ニ在テハ士官下士ノ職務ヲ命シタル者ハ士官下士ニ兵卒ノ服スヘキ職務ニ從事シタル者ハ卒ニ準シ船舶ノ船員鐵道從事員ニ在テハ左ノ區分ニ依ル

船舶船員士官ニ準スヘキ者

一百噸以上船長 同運轉手 同機關手 同事務長

同 下士ニ準スヘキ者

一百噸未満船長 同運轉手 同機關手 同事務長

水夫長 事務員 大工 楫取 油差 航海科生徒 機關科生徒

同 卒ニ準スヘキ者

一倉番 水夫 火夫 石炭夫 ランプ番 小使 料理人

鐵道從事員下士ニ準スヘキ者

一驛長 助役 豫備助役 機關庫主任 保線手其他之ニ等シキ職務ニ從事スル者

同 卒ニ準スヘキ者

一貨物掛 小荷物掛 車長 電信掛 豫備電信掛 驛長書記 機關方 保線助手其他之ニ等シ

キ職務ニ從事スル者

第八條 本令附表備考ニ掲ル治療料ハ所屬部隊長軍醫診斷證書ニ依リ其金額ヲ定メ適宜支給スヘシ

第一書式 用紙美濃白紙正副二通

用祭料並遺族扶助料願書

何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日死亡致シ候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ用祭料並遺族扶助料下賜相成度別紙履歷書戸籍調書死亡診斷證書相添此段奉願候也

元第何師團何部何隊所屬

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(土)族平民

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

元雇員(傭人)故姓名寡婦(孤兒)父母(祖父母)

實婦 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

親族 姓 名 印

前書之通相違無之候也 師團長(屯田兵司令官)姓名殿

第二書式 用紙美濃白紙正副二通

手當金願書

何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日解雇(傭)ヲ命セラレ候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ手當金下賜相成度別紙履歷書診斷證書相添此段奉願候也

本籍(寄留地)市(町)(村)長 姓名 印



師團長(屯田兵司令官)姓名殿  
前書之通相違無之候也

本籍(寄留地)市(町)(村)長 姓 名 印

元第何師團何部何隊所屬  
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地(士)族平民  
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留  
雇員(傭人) 姓 名 印

○海軍省令第十六號

明治二十七年勅令第六十四號中海軍ニ係ル死傷者手當金給與細則左ノ通定ム  
明治二十七年十二月二十八日 海軍大臣伯爵西鄉從道

第一條 明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ死歿若クハ傷痕疾病ノ爲メ手當金ヲ請求セントス  
ルトキ死歿者ハ第一書式 傷痕疾病者ハ第二書式ノ各請求書ニ證據書類ヲ附屬シ艦隊ニ屬スル  
モノハ本管鎮守府司令長官ニ其他ハ總テ所管長官ニ請求スヘシ

第二條 鎮守府司令長官若クハ所管長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムルト  
キハ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 扶助料又ハ弔祭料ヲ受クヘキ遺族ハ死者ト同戶籍ニアル寡婦孤兒父母祖父母兄弟姉妹ト  
ス

扶助料又ハ弔祭料ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ給ス以下前項ノ順次ニ依ル  
第四條 慰勞金ヲ給與セントスルモノアルトキハ所屬長共勤勞ヲ考查シ之カ金額ヲ定メ意見ヲ附  
シ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ具申スヘシ

第五條 勅令第六十四號第一條第二項ノ戰地ニ非ラサルモ公務ノ爲メ死傷シタルモノハ區域ハ  
左ノ如シ

左ノ如シ

- 一出征事務ニ關シ戰地ニ往復スルモノ
- 一出征事務ニ關シ使用スル船舶ニ從事スルモノ
- 一戰備完成ノ艦船艇ニ從事スルモノ
- 一防禦事務ニ關シ其業務ニ從事スルモノ
- 一臨時特設部所ニ屬スルモノ

第六條 勅令第六十四號第四條ノ傷痕疾病等差ヲ定ムルハ海軍軍人傷痕疾病恩給等差例ヲ適用  
ス

第七條 勅令第六十四號第三條第四條第五條ノ軍艦乗組傭人竝ニ官用船舶ノ船員ニシテ士官下  
士官ニ準スヘキ職務ノ區分ハ左ノ如シ

船長	事務員	從僕
運轉手	通辨	剃夫
機關手	大工	倉番
事務長	楫取	水夫
下士ニ準スヘキモノ	油差	火夫
運轉手心得若クハ見習	航海科生徒	石炭夫
機關手心得若クハ見習	機關科生徒	ランプ番
水夫長	卒ニ準スヘキモノ	小使
	割烹	料理人

第八條 自己治療ヲ許可シタル傷痕者ニ給スル治療費ハ所屬長ニ於テ軍醫若クハ主治醫ノ診斷書  
ニ依リ適宜金額ヲ定メ支給スヘシ

第一書式 用紙美濃紙正副二通

弔祭料並遺族扶助料請求書

右何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷疾ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日死亡致候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ弔祭料並遺族扶助料下賜相成度別紙證據書類相添此段請求候也

何職故氏 名

元海軍何々所屬

何所何所何所何所何所何所(平民)

何所何所何所何所何所何所

元何職故氏名(孤兒父母祖父母兄弟姊妹)

親戚 氏 名 印

親戚 氏 名 印

親戚 氏 名 印

親戚 氏 名 印

親戚 氏 名 印

親戚 氏 名 印

本籍(寄留地)市區(郡)町(村)長 氏 名 印

前書ノ通相違無之候也 職爵氏名殿

年月日

附屬スヘキ證據書類

履歴書

戸籍書寫

現職證書若クハ公文寫

賃傷證書若クハ罹病證書

軍醫死亡證書又ハ主治醫死亡證書若クハ死亡報告書

第二書式 用紙美濃紙正副二通

手當金請求書

何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷疾ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日何病院ニ入院治療ノ未解雇(解雇)セラレ候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ手當金下賜相成度別紙證據書類相添此段請求候也

元海軍何々所屬

何所何所何所何所何所何所(平民)

何所何所何所何所何所何所

元何職 氏 名 印

元何職 氏 名 印

元何職 氏 名 印

元何職 氏 名 印

元何職 氏 名 印

本籍(寄留地)市區(郡)町(村)長 氏 名 印

前書ノ通相違無之候也 職爵氏名殿

年月日

附屬スヘキ證據書類

履歴書

現職證書若クハ公文寫

賃傷證書若クハ罹病證書

軍醫診斷證書又ハ主治醫診斷證書

法令全書

訓令

○内務省訓令第一號

女監取締及押丁ノ人員並ニ俸給左ノ如ク改ム但明治二十八年四月一日ヨリ施行ス  
廳 府 縣

明治二十七年一月九日

内務大臣伯耆井上 馨

一、女監取締ハ每監獄拘禁婦女二十五人以下ハ二人ヲ置キ以上ハ拘禁婦女二十五人ヲ増ス毎ニ女監取締一人ヲ加フ

一、一監獄内ニ在ルモ 拘置女監ト囚人女監ノ位地相隔離スル所ニ在テハ前項定員ノ外女監取締一人ヲ増置スルコトヲ得又稀ニ婦女ヲ拘禁スル小監獄ニ在テハ相當ノ婦女ヲ女監取締ノ豫備員ニ定メ置キ必要アル毎ニ出勤セシムルコトヲ得

一、押丁ハ拘禁男子五百人ニ付十人ヲ置クコトヲ得以上ハ拘禁男子百人ヲ増ス毎ニ押丁一人ヲ加ヘ以下ハ拘禁男子百人ヲ減スル毎ニ押丁一人ヲ減ス

一、女監取締人員ノ増減ハ拘禁婦女ニ二十五人ノ差、押丁ノ増減ハ拘禁男子ニ百人ノ差ヲ生シタルトキニ於テ之ヲ行フ

一、女監取締ノ俸給ハ四圓以上拾五圓以下トシ 押丁ノ俸給ハ四圓以上八圓以下トシ總テ日給トス

○文部省訓令第一號

北海道廳 府縣

- 一 小學校ノ校舍狹隘ナルカ爲ニ學齡兒童就學ノ便ヲ缺クモ市町村ニ於テ更ニ設備ヲ爲スノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ於テハ明治二十四年文部省令第十二號第九條ノ旨趣ヲ適用シ全校又ハ某級ノ兒童ヲ二部ニ區分シテ教授スルノ方法ニ依ラシムルノ注意ヲ怠ラサルヘシ
- 二 貧窮又ハ其ノ他ノ事情ノ爲ニ小學校令ノ規定ニ依リ就學ノ免除ヲ得タル兒童ニシテ夜間日照

日又ハ便宜ノ日時ニ於テ近易ナル方法ニ依リ相當ノ教育ヲ受ケタル者ニハ其ノ望ニ依リ尋常  
小學校ニ於テ試験ノ上其ノ課程ニ照シ相當ノ證明書又ハ卒業證書ヲ與ヘシムルノ方法ヲ設ク  
ルハ道廳府縣ノ便宜タルヘシ  
明治二十七年一月十二日  
文部大臣井上毅

〔參照〕

文部省令第十二號學級編制等ニ關スル規則(明治二十四年十一月十七日)抄錄  
第九條 尋常小學校ニ於テハ左ノ場合ニハ全校ノ児童ヲ二部ニ區分シ其一部ノ教授了ル後他ノ一部ヲ教授スルコトヲ得  
一 全校児童ノ數七十八人以上百八未滿ニシテ本科正教員一人及本科准教員一人ヲ置クコト能ハサルトキ  
二 全校児童ノ數百人以上百四十未滿ニシテ本科正教員二人ヲ置クコト能ハサルトキ  
三 同時ニ全校ノ児童ヲ容ル、ニ足ルヘキ教室ヲ設クルコト能ハサルトキ  
前項ノ場合ニ於テハ毎日ノ教授時間ヲ各部三時トナシ若クハ年長ノ部ヲ四時、年少ノ部ヲ二時トナスヘシ  
○文部省訓令第一號

北海道廳 府 縣  
文部省直轄諸學校

- 一 師ヲ尊ヒ長ヲ敬フハ德育ノ一大要義ニシテ此ノ點ニ於テ闕クコトアラハ驕傲不順ノ習ヲ養ヒ學校ノ目的ニ背ク者ナリ校長及教員タル者ハ此ノ意ヲ體シテ生徒ヲ薰陶スルコトニ注意スヘシ
- 二 官立及公立學校生徒ハ三名以上合同シテ意見ヲ申立テ又ハ校長教員ニ對シ強テ面陳若ハ答辯ヲ求ムルコトヲ得サルヘシ
- 三 官立及公立學校生徒ニシテ黨ヲ結ビ教員又ハ校長ニ對シ抵抗又ハ強迫ノ舉動ヲ爲シ或ハ課業ヲ妨害シ又ハ合同開課シ教員又ハ校長ノ戒諭ニ順ハサル者アルトキハ各學校ハ其ノ情重キ者ヲ一週間以上一學年以内ノ停學又ハ放校ニ處スヘシ  
放校ニ處セラレタル者ハ文部大臣ニ由リ情狀ヲ酌量シテ特免ヲ予フルノ外復校ヲ許サス

四 明治十六年十一月二日附退學ノ生徒ニ關スル達ハ之ヲ廢止ス

明治二十七年一月十二日

文部大臣井上毅

〔參照〕

文部省第十八號達(明治十六年十一月二日) 府 縣  
當省直轄官立學校學生徒及公立學校生徒中不都合ノ行爲アリテ退學セシメタル者ハ其情狀ニ因リ當省直轄官立學校及府縣公立私立ノ學校ニ入學スルコトヲ禁スヘシ此旨相達候事  
但本文ノ處分ヲ要スルトキハ其族籍姓名事由ヲ具シテ當省ニ申出ヘシ

○大藏省訓令第一號

北海道廳 府 縣  
市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニシテ納稅期限ヲ過キ市町村長ヨリ滯納報告以後督促令狀發付以前ニ於テ該滯納稅金ヲ上納セントスル者アルトキハ國稅滯納處分法施行細則第十五條ニ準據取扱フヘシ

但明治二十三年三月當省訓令第四十三號ハ廢止ス  
明治二十七年一月十三日

大藏大臣渡邊國武

〔參照〕

大藏省令第一號國稅滯納處分法施行細則(明治二十三年一月八日)抄錄  
第十五條 督促令狀ヲ受ケタル後テ滯納者又ハ第三者ニ於テ滯納處分費及稅金ヲ完納セントスルトキハ收稅署ニ申出收入官吏ヨリ第四號様式ノ納付書ヲ受ケ之ニ現金ヲ添ヘ金庫ヘ拂込ムヘシ  
大藏省訓令第四十三號(明治二十三年三月二十二日)抄錄  
市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニシテ納稅期限ヲ過キ市町村長ヨリ滯納報告以後督促令狀發付以前ニ於テ該滯納稅金ヲ上納セントスル者アルトキハ甲號様式ノ納付書ヘ乙號ノ如ク收入官吏ニ於テ滯納報告ヲ爲シ稅金ハ本人ヲシテ直ニ金庫ヘ納付セシメ其領收證ノ檢印及ヒ別符ノ切離ヲ請ハシムヘシ(様式略ス)

○大藏省訓令第二號

金庫出納役  
甲地金庫ニ寄托セシ保管金ヲ乙地金庫ニ寄托替ヲ要スル爲メ甲出納官吏ヨリ保管金拂渡證書ニ明